

椎原 A 遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第794集

2004

福岡市教育委員会

SII BA
椎原 A 遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第794集



椎原 A 遺跡

調査番号 0211

遺跡番号 SBA-2

2004

福岡市教育委員会

遺跡調査番号	0211		遺跡略号	SBA-2	
所在地	早良区大字椎原656、658-1			分布地図番号	早良12
開発面積	調査対象面積		調査面積	1162m ²	
調査期間	平成14年4月12日～同7月26日			事前審査番号	12-1-271

序

福岡市には豊かな自然と先人によって育まれた歴史が残されています。これらを活用するとともに、保護し未来に伝えていくことは、現在に生きる我々の重要な務めです。しかし、近年の著しい都市化により、その一部が失われつつあることもまた事実です。

福岡市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成14年度に実施した圃場整備事業に伴う椎原A遺跡2次調査の成果を報告するものです。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査から本書の刊行まで、多くの方々のご理解とご協力を賜りました事に対しまして、心からの謝意を表します。

平成16年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 生田征生

例　　言

1. 本書は圓場整備事業に伴い早良区大字椎原656、658-1番において平成14年4月12日から同年7月26日に発掘調査を実施した椎原A遺跡第2次調査の報告である。
2. 本書に使用した方位は磁北で、座標北から $6^{\circ}21'$ 西偏する。
3. 本書に使用した遺構の実測は調査担当者が、遺物は旧石器時代の石器を吉留秀敏、縄文時代剥片石器を山口謙治、山口朱美、担当者、磨製石器を平川敬治、その他を担当者が行った。挿図の製図は山崎純男、山口朱美、井上加世子、濱石正子、撫養久美子、齊藤貴代子、担当者が行った。写真撮影は遺構を担当者が、遺物を力武卓治が行った。
4. 本書の作成にあたり上田保子、前田みゆき、安永令子の協力を得た。
5. 本章の執筆はIV-3を吉留秀敏が、他を調査担当者が行った。
6. 本書に係わる図面、写真、遺物はすべて福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管される予定である。

本文目次

I.はじめに	
1.調査に至る経緯	1
2.調査の組織	1
II.立地と環境	1
III.試掘調査の遺物	4
1.椎原B遺跡第1次調査出土遺物	4
2.椎原A遺跡第1次調査出土遺物	4
IV.椎原A遺跡第2次調査の記録	5
1.調査の概要	5
2.遺物包含層と層序	5
3.旧石器時代の遺物	8
(1)はじめに	8
(2)出土石器について	8
4.縄文時代の遺構と遺物	12
(1)検出遺構と遺物	12
(2)土器	17
(3)石器	37
5.中世以降の遺構と遺物	51
(1)焼土坑	51
(2)出土遺物	52
V.おわりに	58

挿図目次

Fig.1 周辺の遺跡 (1/25000)	2
Fig.2 椎原A、B遺跡周辺 (1/8000)	3
Fig.3 椎原B遺跡1次出土遺物実測図 (1/3)	4
Fig.4 椎原A遺跡1次出土遺物実測図 (1/3)	4
Fig.5 調査区位置図 (1/1000)	5
Fig.6 調査区全体図 (1/300)	6
Fig.7 土層実測図 (1/100)	7
Fig.8 遺物出土状況図 (1/300)	7
Fig.9 旧石器時代遺物出土状況	8
Fig.10 旧石器時代遺物実測図1 (1/1)	9
Fig.11 旧石器時代遺物実測図2 (1/1)	11

Fig.12 縄文時代遺構実測図 1 (1/40、30)	13
Fig.13 縄文時代遺構実測図 2 (1/60、40)	14
Fig.14 縄文時代遺構実測図 3 (1/60)	15
Fig.15 縄文時代遺物出土状況	16
Fig.16 縄文時代土器実測図 1 (1/3)	18
Fig.17 縄文時代土器実測図 2 (1/3)	19
Fig.18 縄文時代土器実測図 3 (1/3)	20
Fig.19 縄文時代土器実測図 4 (1/3)	21
Fig.20 縄文時代土器実測図 5 (1/3)	22
Fig.21 縄文時代土器実測図 6 (1/3)	23
Fig.22 縄文時代土器実測図 7 (1/3)	24
Fig.23 縄文時代土器実測図 8 (1/3)	25
Fig.24 縄文時代土器実測図 9 (1/3)	27
Fig.25 縄文時代土器実測図 10 (1/3)	28
Fig.26 縄文時代土器実測図 11 (1/3)	29
Fig.27 縄文時代土器実測図 12 (1/3)	30
Fig.28 縄文時代土器実測図 13 (1/3)	31
Fig.29 縄文時代土器実測図 14 (1/3)	32
Fig.30 縄文時代土器実測図 15 (1/3)	33
Fig.31 縄文時代土器実測図 16 (1/3)	34
Fig.32 縄文時代土器実測図 17 (1/3)	35
Fig.33 縄文時代土器実測図 18 (1/3)	36
Fig.34 石器実測図 1 (1/1)	38
Fig.35 石器実測図 2 (1/1)	39
Fig.36 石器実測図 3 (1/1)	40
Fig.37 石器実測図 4 (1/1)	41
Fig.38 石器実測図 5 (1/1、2/3)	42
Fig.39 石器実測図 6 (2/3)	43
Fig.40 石器実測図 7 (1/1、2/3)	45
Fig.41 石器実測図 8 (1/1、2/3)	46
Fig.42 石器実測図 9 (1/1)	47
Fig.43 石器実測図 10 (1/1)	48
Fig.44 石器実測図 11 (1/2)	49
Fig.45 石器実測図 12 (1/3)	50
Fig.46 焼土坑実測図 (1/40)	52
Fig.47 中世遺物実測図 (1/3)	52

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

2001年度（平成13年）から2002年度（平成14年度）にわたる福岡市椎原地区における中山間地域総合事業についての事業照会の回答が福岡市農林水産局から同市教育委員会埋蔵文化財課に提出された。

これを受け埋蔵文化財課では当該事業地が椎原A遺跡の範囲と大きく重なるため、事業対象地内全域を対象として平成14年3月に試掘調査を行った。試掘調査の結果、事業地の一地点で縄文土器の良好な分布を確認した。

その後の農業政策課と埋蔵文化財課の協議により、縄文土器分布域のうち、工事による削平が避けられない部分について発掘調査を実施することになった。本調査は椎原A遺跡2次調査として平成14年4月12日から7月26日まで実施した。

試掘調査、本調査の実施およびその後の整理作業、報告書の刊行に至るまでは、地元の皆様をはじめとした多くの方々のご理解とご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

2. 調査の組織

調査委託 福岡市農林水産局農業政策課

調査主体 福岡市教育委員会 埋蔵文化財課

調査統括 埋蔵文化財課長 山崎純男

埋蔵文化財調査第一係長 力武卓治

調査担当 埋蔵文化財課調査第一係 池田祐司

発掘作業 一宮義幸 岩見敏子 岩見美津代 大塙皓 高橋茂子 鶴田喜美枝 鶴田佑子

鳥井原直治 中園輝夫 中園登美子 細川友喜 三好道子 山田ヤス子 梅野真澄

木田ひろ子 辻節子 辻哲也 徳永洋二郎 西川吾郎 松本順子 三谷朗子 国友和夫

坂本隆二 中川武人 中村文雄 中山竹雄 峯不二夫

II. 立地と環境

椎原B遺跡は、福岡市の西部地域にある早良平野の南端、背振山系の山間の谷部に広がる傾斜地に立地する。現在は周囲の平地、緩斜面はほぼ集落、水田として使用され、背面には急斜面の山林が接する。今回の圃場整備事業までは、この地区では本格的な埋蔵文化財についての調査は行われておらず、表面採集から椎原川の東側の水田域を椎原B遺跡、その西を区切る狭い丘陵を挟んだ西側を椎原A遺跡と呼称していた。椎原A遺跡が標高190mから230m、椎原B遺跡は199mから248mを測る。いずれも、石垣等で大きな段差をもって築かれた主に水田が広がっている。

平成12年度には、椎原B遺跡の試掘調査が今回の事業に伴って行われた。32本のトレンチ調査が行われたが、水田拡張の痕跡以外に遺構は確認されなかった。遺物は中世の土師皿等、縄文時代早期の押型文土器が少量出土している。次いで13年度に椎原A遺跡の試掘調査を実施し、28本のトレンチで遺構確認作業を行った結果、今回報告する調査地点で縄文時代の遺物がまとまって出土した。それ以外では椎原B遺跡と同様に中近世の遺物が少量出土している。

周辺では、椎原川下流の脇山地区に所在する谷口、野中、脇山A、栗尾B遺跡（野中遺跡以外は

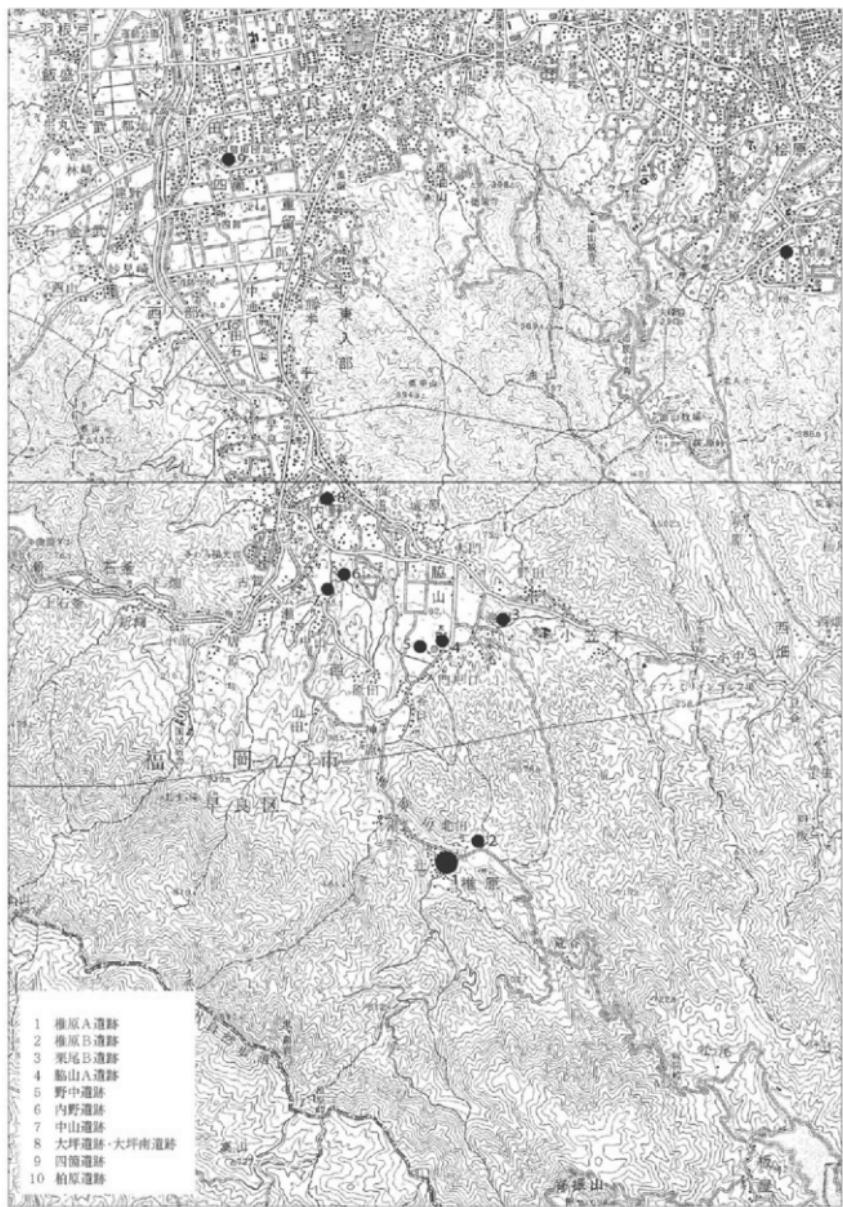


Fig.1 周辺の遺跡 (1/25000)

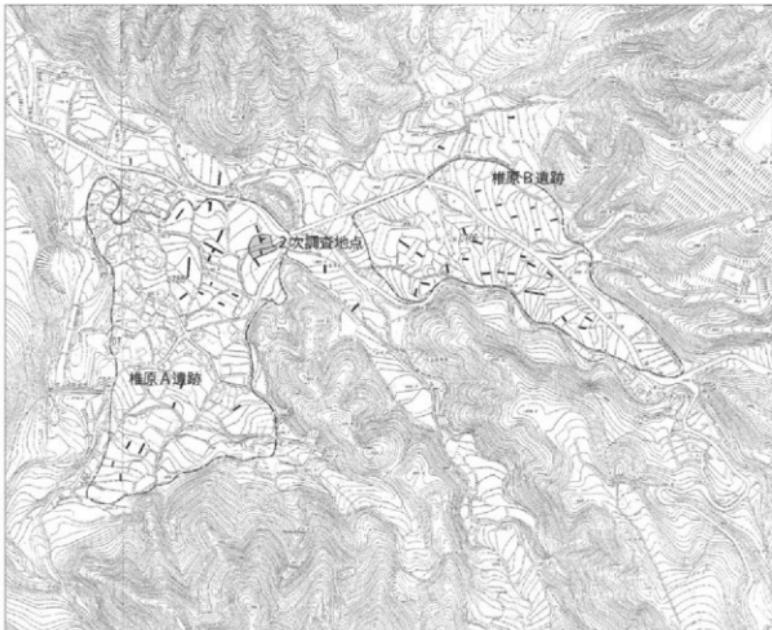


Fig.2 椎原A、B遺跡周辺 (1/8000) 太く短い線は試掘トレンチ

既報告)で縄文時代早期から晩期の遺構、遺物が確認されている。今回の調査に特に関連する縄文時代前期では、脇山A遺跡5次調査J区、野中遺跡1区で轟B式土器が出土している。栗尾B遺跡では曾畠式が少量出土している。内野地区では内野、中山、大坪遺跡で轟B式、大坪南遺跡で曾畠式土器が少量出土している。

早良平野に目を転じると、四箇遺跡で轟B式から曾畠式が、柏原遺跡群の各地点で轟B式の分布が確認されている。

以上の様に近年、早良平野南部で前期の遺物が知られるようになってきたが、今回の様にまとまった量と質の遺物が確認されたのは四箇遺跡以来である。また、低地に位置する四箇遺跡とは異なった立地にある椎原A遺跡の様相は前期の生業の幅を検討するうえでも好資料である。

脇山A遺跡5次：「脇山IV」福岡市埋蔵文化財調査報告書第312集 1992

栗尾B遺跡：「脇山VI」福岡市埋蔵文化財調査報告書第386集 1994

内野遺跡：「内野遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第653集 2000

中山遺跡：「中山遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第687集 2001

大坪遺跡、大坪南遺跡：「大坪遺跡・大坪南遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第619集 1999

四箇遺跡：「四箇周辺遺跡調査報告書(4)」福岡市埋蔵文化財調査報告書第63集 1982

「四箇遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第172集 1987

柏原遺跡：「柏原遺跡群V」福岡市埋蔵文化財調査報告書第190集 1988 他

III. 試掘調査の遺物

椎原A、B遺跡では圃場整備事業の前年度に試掘調査が行われ、その概要についてはそれぞれの1次調査としてすでに報告されている（福岡市埋蔵文化財年報VOL. 15、16 2002、2003）。ここでは、そのとき出土した遺物のうち、本調査に関連がある遺物を中心に示す。

Fig. 2に試掘トレーンの位置を記した。

1. 椎原B遺跡1次調査出土遺物（Fig. 3）

出土した遺物はコンテナケース1箱弱と少なく、ほとんどが表土出土である。1は山形押型文土器である。器壁が薄手で焼きがよい。胎土は細かく角閃石を含む。2は丸い三角突帯を付した土鍋の口縁部で内面には刷毛目調整が明瞭に残る。淡橙色を呈す。この他には、糸切り底の土師皿、青磁、染め付け、滑石製石鍋、古銅輝鉱石安山岩片が出土しているが小片で固化に耐えない。



Fig. 3 椎原B遺跡1次出土遺物実測図（1／3）

2. 椎原A遺跡1次調査出土遺物（Fig. 4）

遺物はコンテナケース1箱に満たない。1は撚糸文土器で1.1cm幅ほどの撚糸文帯が3mmほどの間隔を持って縱方向に施される。破片の上端には水平方向に沈線が施されているようだが破面のためはっきりしない。器壁は薄手で固い。2は押型文土器で内外面に楕円押型文を施す。3は外面に隆起帯を3条施す轟B式系の土器で内外面には貝殻条痕が薄く残る。4は野口タイプの口縁部で先が削れた工具により、弧状、直線状沈線で文様を描く。5は土鍋で内外面が若干焼ける。6、7は黒曜石製の石鏃で順に0.40、1.05gを測る。他に叩き石、土師皿、白磁、青磁、染め付け、瓦質擂り鉢、石鍋等が出土しているが土器、陶磁器は小片である。

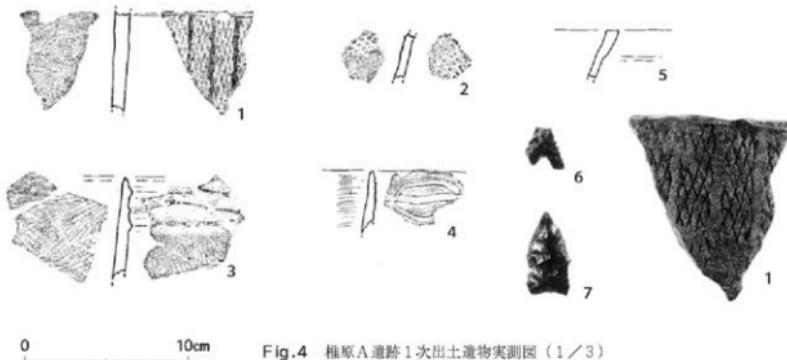


Fig. 4 椎原A遺跡1次出土遺物実測図（1／3）

IV. 椎原A遺跡2次調査の記録

1. 調査の概要

今回の調査では縄文時代前期を中心として旧石器時代から中世までの遺構と遺物を検出した。

調査地点は椎原A遺跡とした谷筋に広がる水田の北東部に位置し、北に延びる丘陵西よりの裾部にあたる。現在は石垣で段差を築いた3面の水田で、それぞれ約3mの段差を持つ (Fig. 5)。調査は遺物包含層直上までの表土除去をバックホーで行うことから始めた。水田造成土を除去した茶褐色から黄茶褐色土上面が遺構面で、この面が中世・縄文の遺構面および包含層となる。遺構面は6°ほどの傾斜面をなし、水田造成時の造成により2カ所に段差がある (Fig. 6)。段差による削平が遺物の分布にも表れる (Fig. 8)。

調査は、遺物包含層確認の為の試掘 (Dグリッド) の後中世の遺構、縄文時代の遺物包含層、遺構の順で行った。包含層の調査に際しては4m四方のグリッドを設定し、土層観察用の畦を残しながら掘削を行った。このグリッドは東西にAからJ、南北に1から9と呼称する。検出した遺構は、中世と考えられる焼土坑2基、縄文時代の石組み遺構1基、土坑である。以下、遺物包含層の説明の後、旧石器時代、縄文時代、中世の遺物と遺構の順で報告する。

2. 遺物包含層と層序

Fig. 7の1層は水田耕作土の残り、2層は1層からの汚れと中世以降の遺構である。遺物包含層は3層の明茶褐色土を中心とする。3層はしまりがなく、シルト質で少量の炭を含む。耕作土直下で

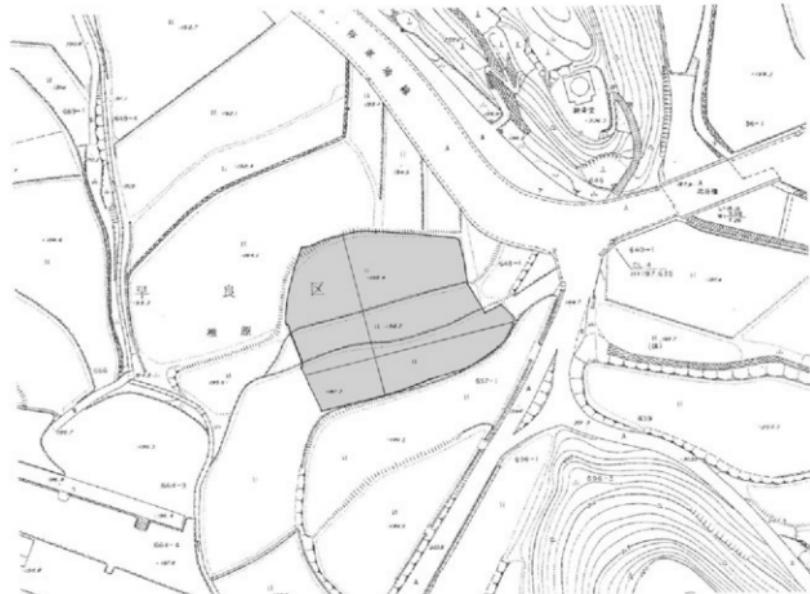


Fig. 5 調査区位置図 (1/1000)

あるため上面からの汚れが多い。2グリットでは4層淡灰茶色砂質土からも遺物が出土するが少量である。包含層下は5層暗灰茶色土で上部に少量の遺物が出土するが混じり込みの可能性が高い。その下は6層灰褐色土、7層明黄褐色土でいずれも粘質がある。遺構で掘削した部分ではさらに黒褐色砂質土、巨礫層と続くが遺物は見られない。

縄文時代の遺物包含層である3層はFig. 7に見るよう薄く、7グリットより南では厚いところで10cm強を測り、削平を受けた部分に存在しない。傾斜が緩やかになったC D E 8・9、G H I J 7グリットでは20cmほどの厚みがあり粘質が強い。この厚みは遺物の量にも反映し、Fig. 7特にC D E F 8・9グリットの遺物分布に表れている。S D 9では下の礫層が露出している。全体的に包含層は薄く、分層は行っていない。包含層はBから東では南側の調査区外にも広がり、工事終了後の現在でも保存されているはずである。

出土した遺物は可能な限り出土位置を記録し、ドットとして取り上げた点数は4975点である。調査区のほぼ全域に分布し、Fig. 8で分布が見られない箇所は削平を受けていると考えて良い。その中で遺物の集中部として、G F 2、先に述べたC～F 9、G 7、B C 8グリッドなどがあげられ、後2者はSK 027、SK 010の遺構状に遺物が集中している。

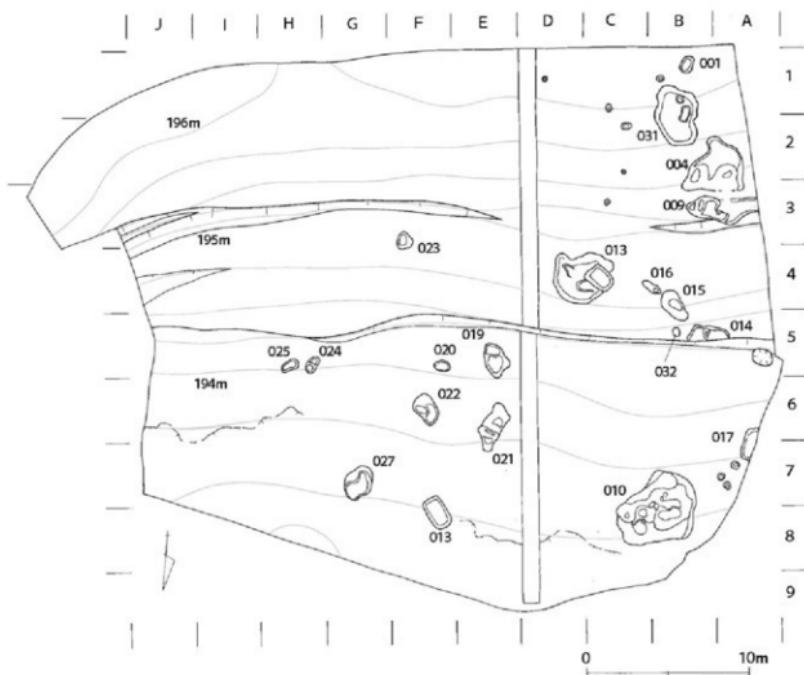


Fig.6 調査区全体図 (1/300)

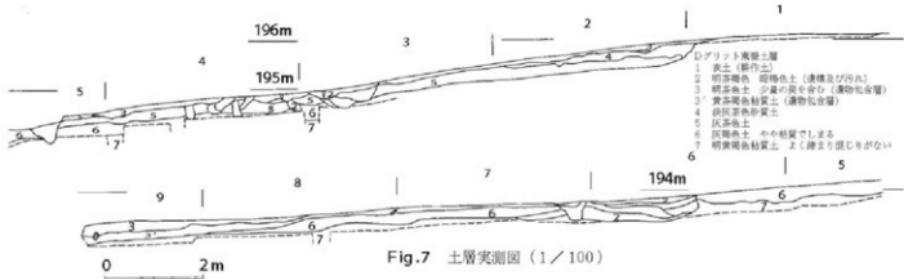


Fig.7 土層実測図 (1/100)

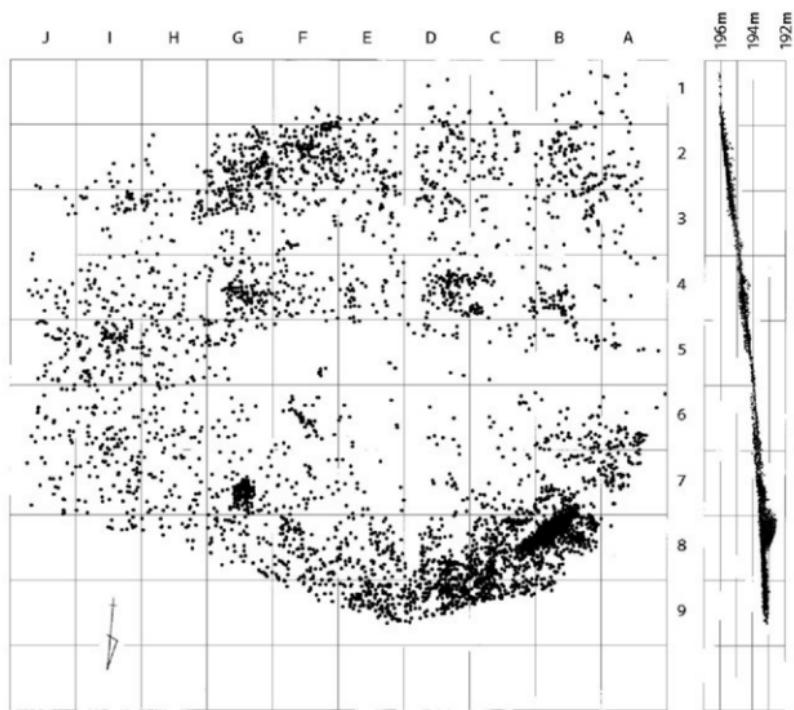


Fig.8 遺物出土状況図 (1/300)

3. 旧石器時代の遺物

(1) はじめに

椎原A遺跡2次調査では少量であるが後期旧石器時代の石器類が出土した。すべて縄文前期包含層中の出土で層位的に分離できるものではない。分布はFig. 9の様に散漫で偏りもない。さらに基盤をなす洪積世堆積土中では未検出であった。このように層位的、平面的にまとまりをもった資料とは言い難い。ここでは出土した石器類を一括して報告する。なお、報告した石器類以外にも当該期に所属する可能性のある剥片や碎片も少量あったが、不确定要素を有する資料についてはここでの報告から省き、分布図に示すのみとした。

(2) 出土石器について (Fig. 10, 11)

1はナイフ形石器である。石材はサヌカイトである。風化が進んでいる。素材は平坦打面の横長剥片であり、打点部を基部とし先端と基部一線に僅かに二次調整を施す。先端を僅かに欠損するがほぼ完形である。現状で長さ5.1cm、幅1.8cm、厚さ0.9cmである。

2はナイフ形石器である。石材はサヌカイトである。風化が進んでいる。厚手の剥片を素材とし、二次調整を二側縁に施す。左側縁のプランティングは背腹両面から施される。完形であり、現状で長さ3.8cm、幅1.5cm、厚さ1.2cmである。

3はナイフ形石器である。石材はサヌカイトである。風化が進んでいる。素材は横長剥片であり、二次調整は二側縁に施し、切り出し状を呈する。右側縁のプランティングには一部であるが背面からの剥離も認められる。刃縁に微細剥離が見られる。先端を僅かに欠損するがほぼ完形である。現状で長さ5.1cm、幅2.3cm、厚さ0.8cmである。

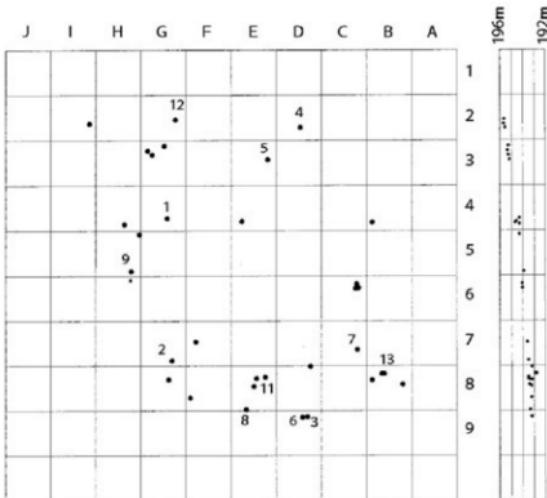


Fig.9 旧石器時代遺物出土状況



Fig.10 旧石器時代遺物実測図 1 (1/1)

4はナイフ形石器である。石材は漆黒色不透明の黒曜石である。風化が進んでいる。素材は縱長剥片であり、背面に自然面を残す。二次調整は基部両縁に浅い剥離を施す。基部破片であり現状で長さ2.4cm、幅2.4cm、厚さ0.6cmである。

5は台形石器である。石材は黑色半透明の黒曜石である。やや風化が進んでいる。素材は縱長剥片であり、背面に先行剥離と自然面を残す。二次調整は剥片の基部と先端を折断し、先端側に調整を施す。基部側は折断のままである。現状で長さ1.9cm、幅1.6cm、厚さ0.5cmである。

6は小型の三棱尖頭器（角錐状石器）である。石材は不純物を含む黒灰色不透明の黒曜石である。風化が進んでいる。二次調整は両側縁と裏面基部に施す。先端を欠損し、現状で長さ2.4cm、幅1.4cm、厚さ1.4cmである。

7は細石刃である。石材は黒色半透明の黒曜石である。断面は三角形で、先端を欠損する。現状で長さ1.9cm、幅0.8cm、厚さ0.2cmである。

8は細石刃の可能性をもつ剥片である。石材は黒色半透明の黒曜石である。断面は三角形で、基部を欠損するがほぼ完形である。現状で長さ1.4cm、幅0.9cm、厚さ0.1cmである。

9は細石刃の可能性をもつ剥片である。石材は黒色弱透明の黒曜石である。風化が進んでいる。断面は三角形であり、基部は潰れ、先端を欠損する。現状で長さ1.4cm、幅0.8cm、厚さ0.2cmである。

10は微細剥離のある剥片である。石材は赤色チャートである。やや風化が進んでいる。幅広の縱長剥片であり、平坦打面で作業面調整が入念に行われている。背面には先行する二枚の剥片剥離面がある。左縁と先端に僅かな自然面が残る。右側縁に微細剥離が見られる。完形であり、現状で長さ4.5cm、幅3.6cm、厚さ1.2cmである。

11は剥片である。石材はサヌカイトである。風化が進んでいる。先端に広がる不整形剥片であり、背面には自然面と上下からの剥離面が残される。石核調整剥片とも考えられる。基部を欠損し、現状で長さ2.6cm、幅3.5cm、厚さ0.8cmである。

12は剥片である。石材はサヌカイトである。風化が進んでいる。平坦打面の横長剥片であり、背面にも先行した同様の剥離面が見られる。打点から半割している。現状で長さ3.9cm、幅4.3cm、厚さ0.9cmである。

13は微細剥離のある剥片である。石材は漆黒色不透明の良質黒曜石である。風化が進んでいる。素材は縱長の不定形剥片であり、平坦打面で入念な作業面調整が認められる。背面には自然面と先行する剥離面が残る。打角が鈍くなり先行剥離も階段状を呈している。石核の作業面左側縁の再成形調整時に剥離された調整剥片と考えられる。二次調整はないが、右側縁に微細剥離が見られる。先端を折損し、現状で長さ3.0cm、幅2.4cm、厚さ1.2cmである。

(3) 出土石器の石器組成と時期

本調査で出土した旧石器時代資料は出土状況から一括性は明らかでない。まず石器の形態や保存状況から時期区分を試みたい。まずナイフ形石器では二側縁に調整を施すもの（2,3）と、基部に僅かな調整を施すもの（1,4）がある。表面の風化度合いは前者が強く、後者がやや弱い。以下では前者をA群、後者をB群とする。この二者は時期差をもつと予測される。A群には二側縁に特徴的な正背両面からの加工がある。形態は「狸谷型」ナイフ形石器に類するもの（2）と切出し型（3）がある。こうしたナイフ形石器は、熊本県狸谷遺跡上層（第II石器群）、大分県駒方津室迫遺跡、宮崎県方田遺跡などの内容に類似し、北部九州では類例の少ない資料である。これは萩原博文氏が後期旧石器時代中期段階4に比定している。B群は少ない資料ではあるが、大分県片島遺跡や同県大迫遺跡徳原地区A区石器群、福岡県諸田仮塚遺跡に類例があり、同じ室見川流域の野芥遺跡7次SK015出

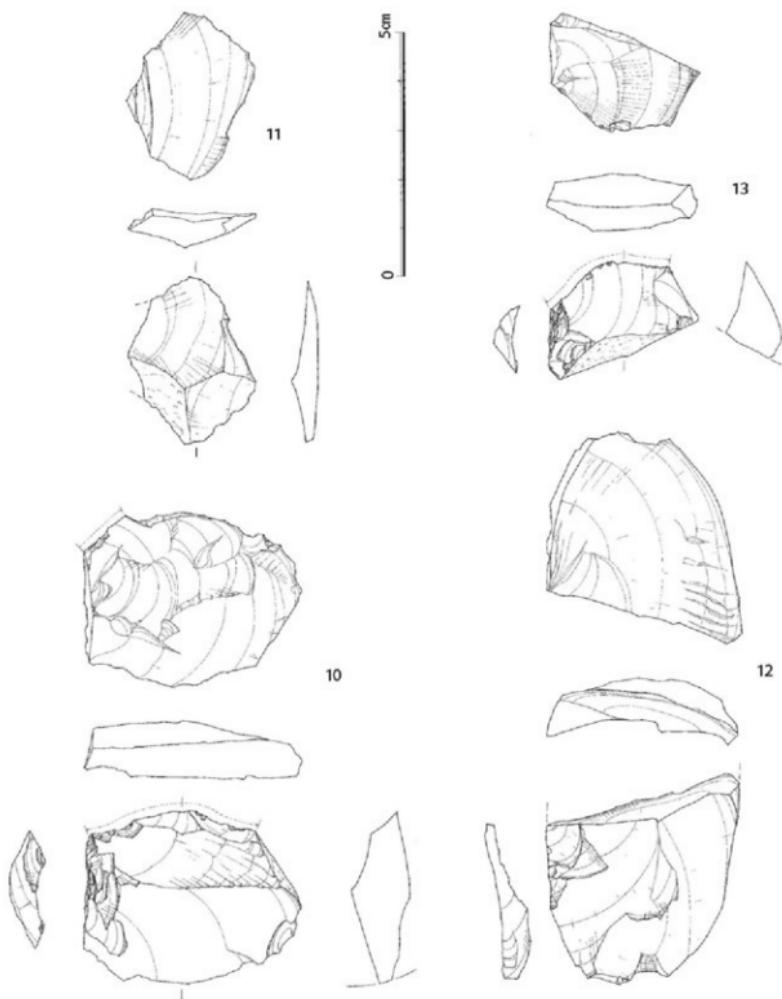


Fig.11 旧石器時代遺物実測図 2 (1/1)

土石器群とも類似する。何れもナイフ形石器段階では終末期に比定されるものである。このようにナイフ形石器は明らかに二群に区分される内容をもつ。さて出土したほかの器種のうち台形石器は一側縁調整であり「百花台型」とは異なる。三棱尖頭器（角錐状石器）は小型であり同型式では新しい時期となる。これらの特徴からこの両者はB群に所属する可能性がある。これ以外の剥片類は風化状況から複数時期に区分される可能性があるものの、この要素のみでの時期比定は困難である。また細石刃の可能性をもつ剥片（7,8）については、形態のみの類似であり、細石刃と断定することが困難である。今後の調査を通じた資料の蓄積をまって再評価したい。

以上でみたように今調査による旧石器時代資料は大きく二群に区分される。

まず、より古い時期のA群は「舞谷型」や切出し型ナイフ形石器をもち、後期旧石器時代後半期でも始良丹沢火山灰降灰後の初期に位置づけられる。新しいB群は基部調整のナイフ形石器や台形石器と三棱尖頭器（角錐状石器）などが石器組成をなす可能性があり、後期旧石器時代後半期では細石刃石器群の出現直前期に位置づけられる。

このように、本調査では少ない資料であったものの、複数時期の石器群が存在することを明らかに出来た。なお、出土した石器群には石材としてサスカイトが多く利用されていて、福岡地域では異例な印象が強い点が注目される。こうした傾向はA群により多いが、遺跡の立地が背振山塊を越えて佐賀平野に達する中間点にあたる点も考慮し、後期旧石器時代集団の活動領域や多久地域からのサスカイトの供給ルートの解明とともに今後も調査検討が必要である。

4. 繩文時代の遺構と遺物

今回の調査で最も多く出土した遺物は縄文時代前期を中心とした土器、石器である。出土位置を記録したもので土器2785点、石器1719点を数える。以下、遺構と遺物について報告するが、遺構としたもので明らかに人為的な所産と考えられるものは少なく、従って帰属する遺物も無関係となる。また、遺構として捉えられるものも遺物が少ない。以上の事から、遺物は形状毎にまとめて後述し、出土位置については遺構の説明で一部ふれる他は、巻末の表に記載した。

遺物の出土分布については、土器の項で分けた分類毎にFig. 15にドットで示した。

(1) 検出遺構と遺物

集石遺構1基と土坑状の遺構を検出した。土坑状の遺構は包含層と同様の覆土のものが多く、包含層掘削中に検出した。遺構とするには疑問が残るものがあるが、遺物が周囲より集中する傾向がある。遺物については後述する挿図の番号を取り上げるに止めた。煩雑であるが了とされたい。

1) 集石

S X 032 (Fig. 12) B 5で検出した。南北径約110cm、東西径約115cmの略円形プランで、深さ18cmの浅い皿状の掘り込みに作られる。中央に23×18cm、厚さ4cmのやや大きめの円礫を置き、その周囲に10~15cm大の小振りの礫15個を配す。石材は全て花崗岩のやや扁平な川原石を使用している。礫は赤みを帯びたものもあるが、熱によるものか疑問がある。覆土は若干の炭を含むが少ない。また検出時には、中央部に礫が入っており、図の左がその状況である。

2) 土坑状遺構

検出した土坑は、くぼみ状のはっきりしないものが多く、また風倒木様のものもある。くぼみ状のものではSK 004、009、027を取り上げたが、同様で遺物が少なく浅いものにSK 014、015、016、017、019、020、024、025等があるが、遺構とするにはやや難があり、Fig. 6全体図に示すに止めた。

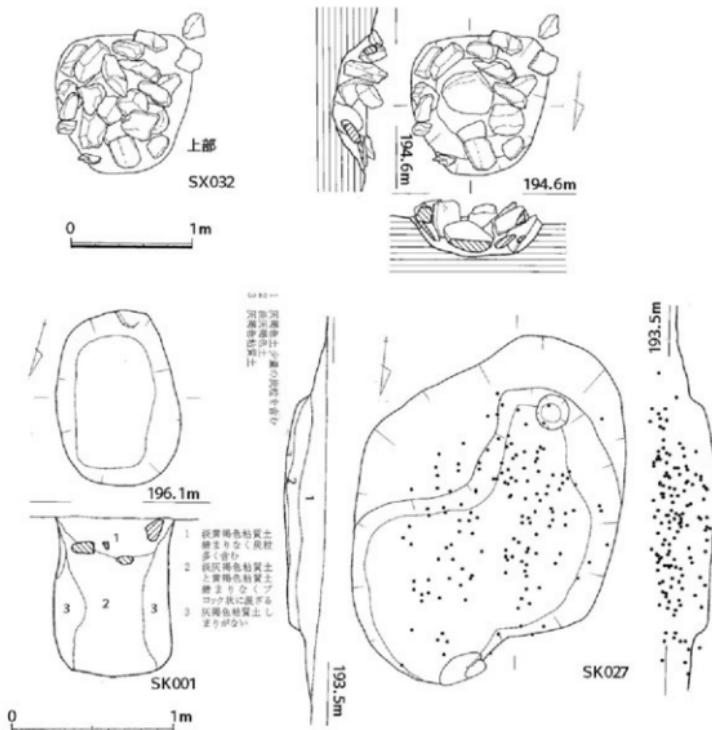


Fig. 12 縄文時代遺構実測図1 (1/40、30)

SK001 (Fig. 12) B 1で検出した土坑で平面楕円形プランを呈し、 $76 \times 107\text{cm}$ 、深さ95cmを測る明瞭な遺構である。覆土は黄褐色から灰褐色の粘質が強い土で上部には炭粒を多く含む。出土遺物は少ないが、晩期の深鉢386の底部が出土している。

SK004 (Fig. 13) A B 2で検出したくぼみ状の遺構でS K009とつながる可能性もある。平面は不整長方形を呈し $350 \times 270\text{cm}$ ほどの規模である。底は傾斜し、くぼみ状の深まりがある。覆土は淡黄茶色の粘質が強い土で遺物を多く含む。出土遺物には撲紋、弧状沈線を描くIV類184、VI類260、272、X類341、XI類345、363、石錐408、458、475等が出土している。

SK009 (Fig. 13) A B 3で検出したくぼみ状の遺構である。プランははっきりしないが幅130cmほどの溝状を確認した。覆土はSK 004と同様である。出土遺物は、撲紋土器28以外は小土器片、安山岩、黒曜石の碎片である。

SK010 (Fig. 14) B C 7・8で検出した土坑で、平面不整長方形を呈し、約 $480 \times 420\text{cm}$ 、深さ105cmを測る。断面掘り鉢状で底は礫層に達し規模不明の巨礫の一部が見られる。覆土は中央の2、3層が砂質が強い地山に近似した土で遺物をほとんど含まない。周辺および下部はしまりのない黄褐色、茶褐色、暗褐色の粘質土で遺物を多く含む。ちょうど土層が反転したような状況で、いわゆる風倒木の痕跡に似ている。Fig. 8の遺物分布図のように、SK 010及びその周囲は遺物が集中しており、SK 010内と周囲の遺物の種類は類似している。SK 010の遺物はこの包含層の遺物が風倒木等の影響で遺構状の窓に入った可能性が高い。出土した遺物は700点を数え、図示したものも多いが、

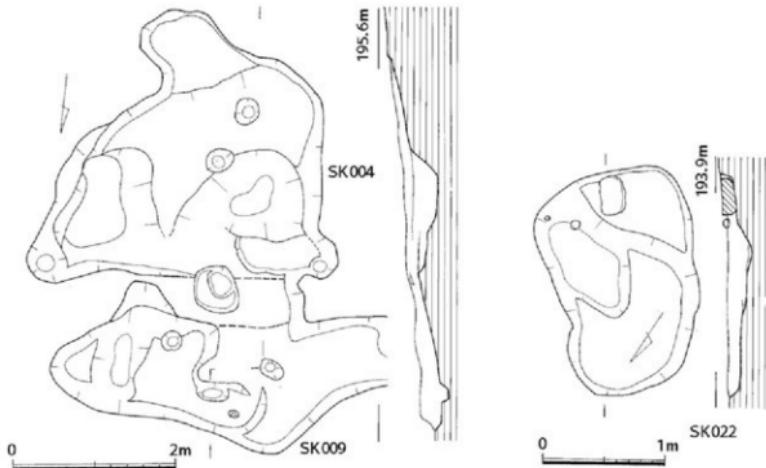


Fig. 13 縄文時代遺構実測図2 (1/60、40)

詳細は表2を参照されたい。I、III、V類の出土はないが、それ以外は多く出土している。

SK013 (Fig. 14) C D 4で検出した土坑で、平面不整形方を呈し約300×320cm、深さ80cmを測る。断面掘り鉢状を呈す。覆土は中央の1層が砂質強くよく縮まる他は、しまりのないやや粘質の土である。この1層からは遺物がほとんど出土せず、周間にSK010ほどではないにしろ見られる。SK010と同様の成因が考えられ、遺物の量の差は周囲の包含層の遺物量を反映しているのだろう。I類18、II類97、IV類248、VI類の縄文施紋の土器366から368、370、石錐470、搔器526、石錐552等が出土している。

SK022 (Fig. 13) F 6で検出した土坑で、平面隅丸長方形を呈し、185×120cm、深さ15cmを測る。覆土は粘質が強い黄褐色土である。遺物は少量ながらIII類126、134、136、IV類179、196、V類310、底部380が出土している。

SK027 (Fig. 12) G 7で検出したくぼみ状の土坑で平面不整椭円形を呈し220×165cm、深さ25cmを測る。覆土は粘質を帯びた灰褐色、淡茶褐色土で小片ながら土器片を中心とした遺物が出土した。II類49、116、117、119、III類121、123、125、127、128、130、131、132、IV類156、164、206等が含まれる。出土が少ないIII類が多く、II類でも数が少ない—6、—7、—8があり、VI、VII類はない。

SK031 (Fig. 14) B 1・2で検出した土坑で、平面不整長方形を呈し、約365×260cm、深さ80cmを測る。覆土は少し濁った黄褐色粘質土で少量の炭化物を含む。遺物はII類62、IV類191、223、V類236、VI類268のほか、剥片、削器が出土している。

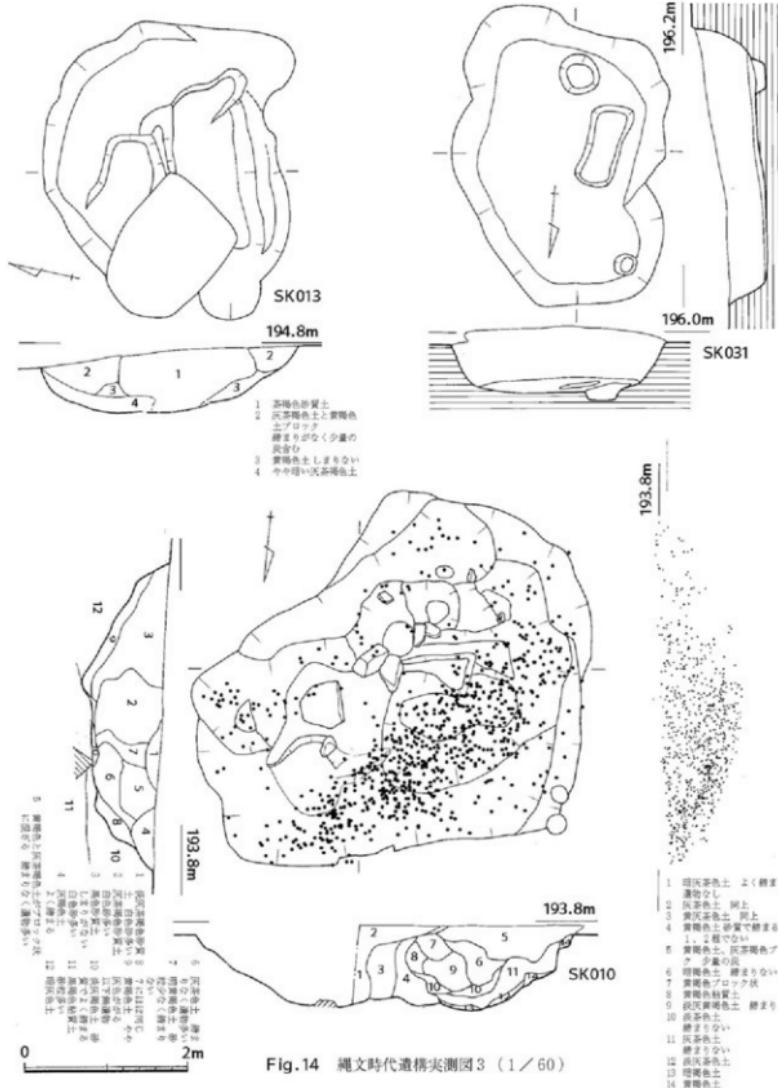
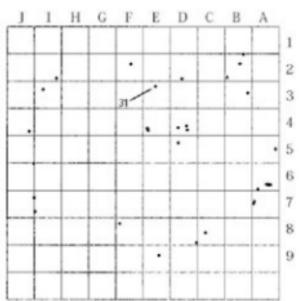
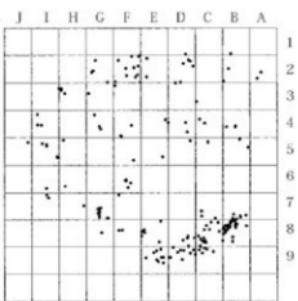


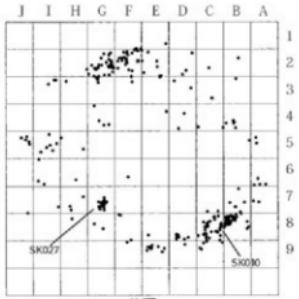
Fig.14 繩文時代遺構実測図 3 (1 / 60)



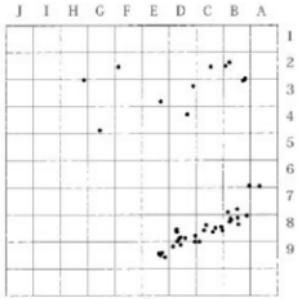
I類



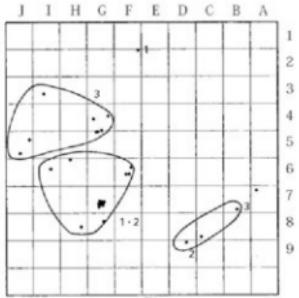
IV類



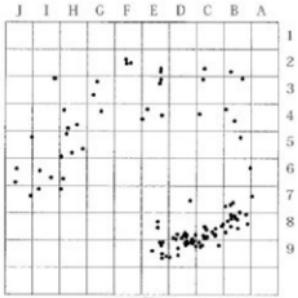
II類



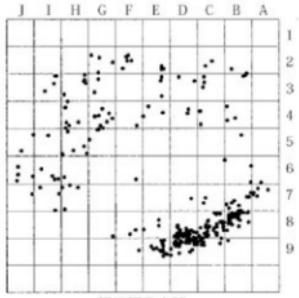
VI類



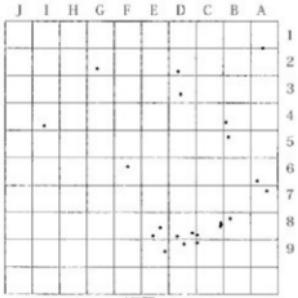
III類



VII類



滑石混入土器



VIII類

Fig. 15 梓文時代遺物出土状況

(2) 土器 (Fig. 16~33)

出土土器の多くは縄文時代前期に属する轟B式系、曾畠式土器であるが、押型文、阿高式系、晚期のものも少量出土した。時期幅はあるが、包含層は薄く層位的に分けることはできない。また全体に小破片が多く完形に復元できるものはない。報告にあたって、文様を持つものについてはできるだけ図化に努めたが、同一個体と考えられるもの、小片については省略した。また、条痕、擦痕、無文の胴部片は図化、数量計算したものはわずかである。

以下、文様、胎土、調整などから12類に分けて報告する。分類は今日までの型式分類、時期編年は多少考慮したが、不理解と小片で全形の判断が付かないことから、あくまで説明の為の便宜的なものである。出土位置については、Fig. 15のほか、巻末の表2に遺構、グリット、座標を示した。

I類 (Fig. 16 15~31)

押型文、撫糸文を施す土器を集めた。分布は調査区全体に広がる。15から26は外面に楕円押型文を施す。22、23は内面にも楕円押型文が見られる。25は内面に縱方向の凹線を密に施す。上菅生B式から田村式のものか。27は山形押型文を施した後に器面をなでる。29は格子目の押型文を施している。28は外面が撫糸文、内面は条痕が見られる。

31はE 3 グリットで一括してつぶれた状態で出土した(Fig. 15, ph 23)。胴部で緩やかに屈曲し、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。口縁部には突帯を貼付し、大振りの刻み目を入れる。器面全体には山形押型文を施し、口唇部まで見られる。その後頸部に幅6mmほどの凹線を口縁部に向かって施し、突帯部に刺突状の痕跡が残る。この凹線は2~5mmの幅を残して平行に施し、7条ほどの単位で向きを変え、全体で山形文状を呈す。ナデ調整で指頭によると考えられる低い凹凸があり、胴部にはわずかに条痕が見られる。胎土は細かく砂粒は少ない。淡黄橙色を呈し外面胴部は煤ける。手向山式とされる一群の新しい段階に位置づけられる。

II類 (Fig. 17~22)

外面に隆帯文を施すものをまとめた。轟B式系のものが大半で破片数としては最も多い。突帯の形状等から9つに分けてみたが帰属は曖昧である。分布は調査区全域だがFG 2、SK 010周辺に集中する部分がある。また隆帯に刻み目を施すII-6は主に北半に分布する。

II-1 (43, 44, 55~64) 5から8条の隆帯文を口縁部下に密に巡らせる。突帯の断面が三角形で細身で口唇部に刻み目、刻み状の圧痕を施すものが多い。

II-2 (46, 65, 66) ごく細く低く断面が鋭角の隆帯文を施す。

II-3 (34~36, 45, 67~73) 幅狭で高く突起状の隆帯を巡らす。口唇部を平坦に仕上げるものが多い。

II-4 (33, 38, 39, 41, 42, 47, 49, 51, 74~90) 小振りの断面三角形の隆帯文を施す。

II-5 (40, 48, 50, 52~54, 91~109) 丸みを帯びた低い隆帯を施す。口唇部に刻みを施すものはわずかである。

II-6 (110~117) 隆帯文に刻目を施す。

II-7 (118, 119) 隆帯の裾に細かな刺突を施す。

II-8 (120) 隆帯を波状に施す。

口唇部は先が尖り気味のもの、丸みを帯びたもの、平坦に面取りしたものがある。口唇部の刻み目、圧痕はII-1、3に多く、4、5は少なく一部のみのものがある。口縁部はどれも直口で32、50、73、106、108の様に外反気味のものがある。器面調整は条痕文を残すものも浅く、一様にナデ調整を施しており、条痕調整の痕跡を残さず指圧痕が残るものもある。全体に器壁は暗褐色を呈す暗い

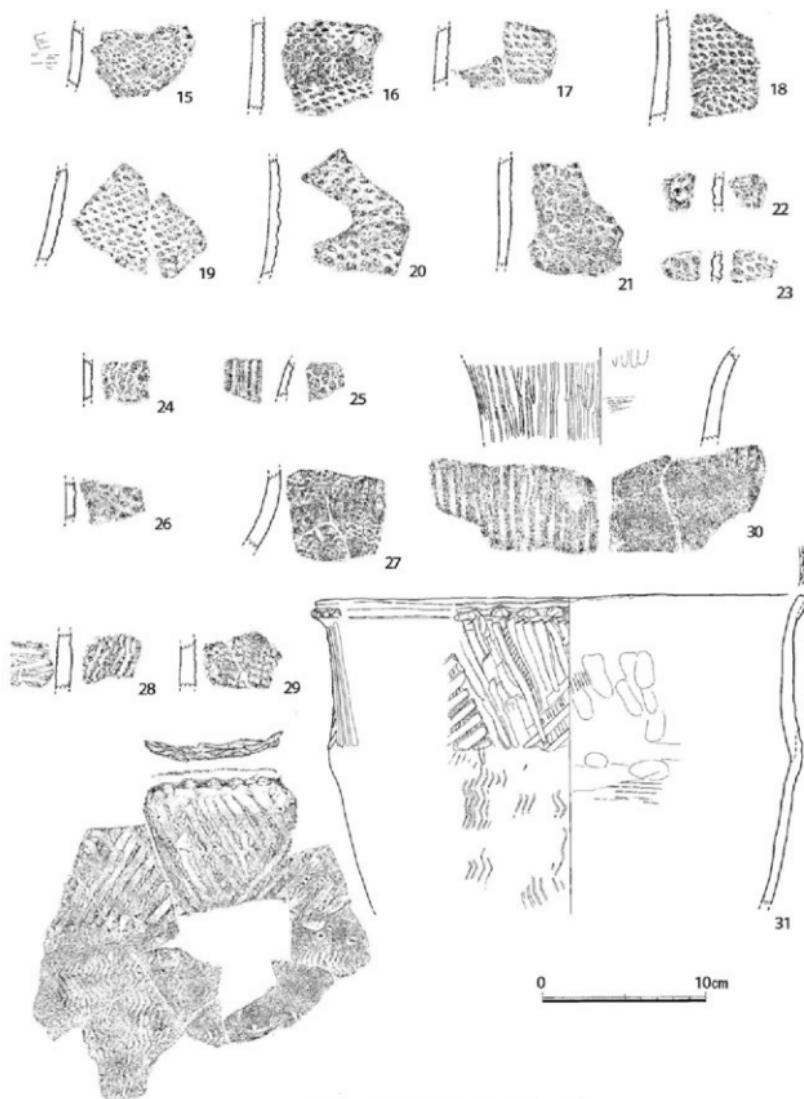
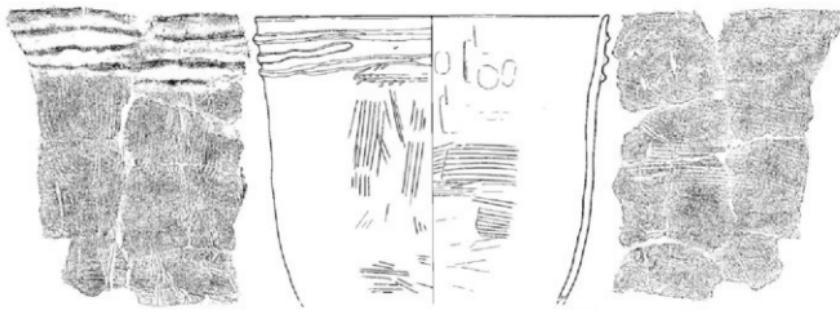


Fig.16 縄文時代土器実測図1 (1/3)



32

33

34

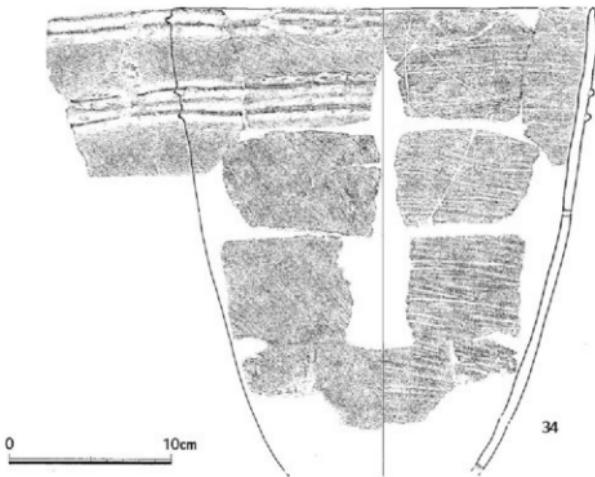


Fig.17 繩文時代土器実測図 2 (1/3)

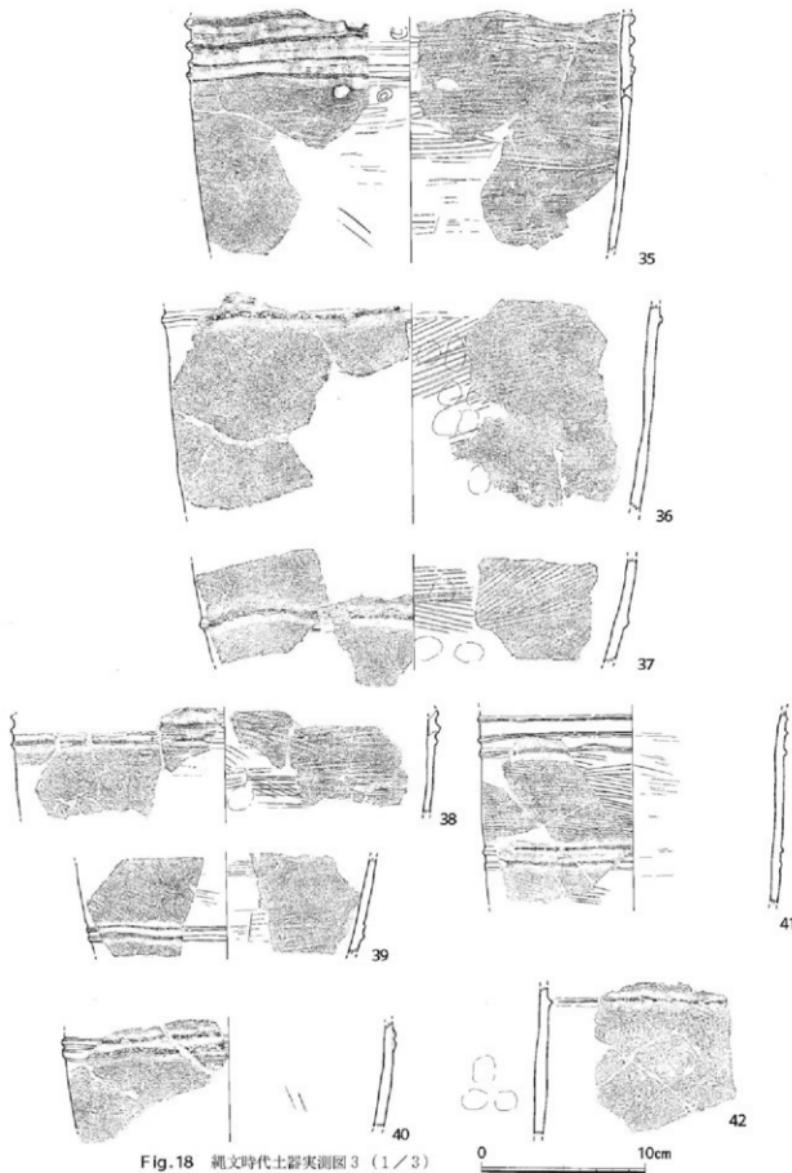


Fig.18 縄文時代土器実測図 3 (1/3)

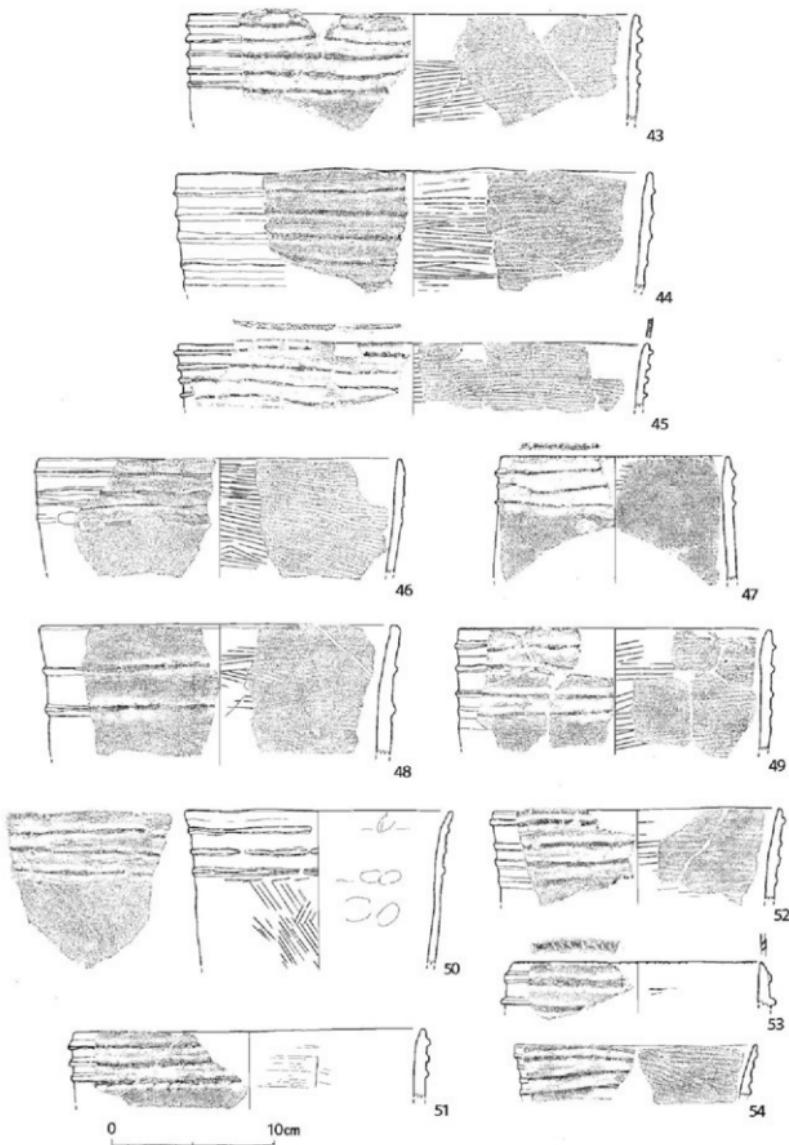


Fig. 19 縄文時代土器実測図 4 (1/3)

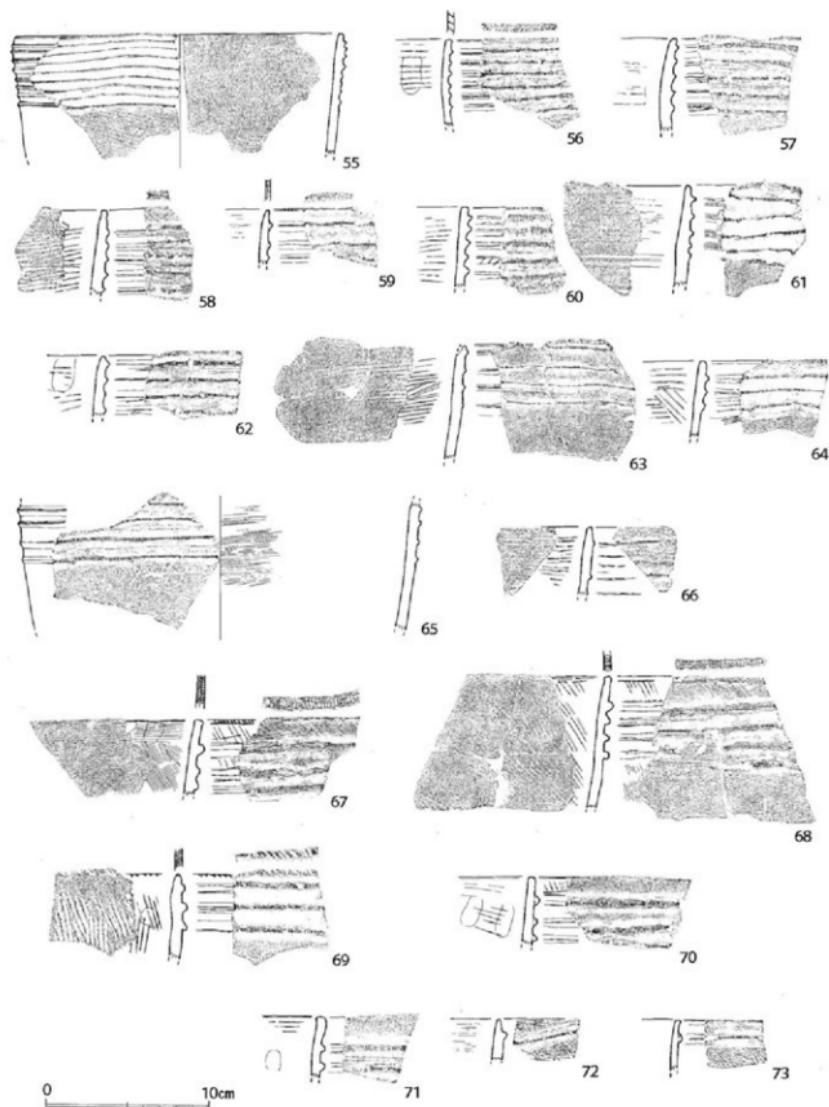


Fig.20 縄文時代土器実測図 5 (1/3)

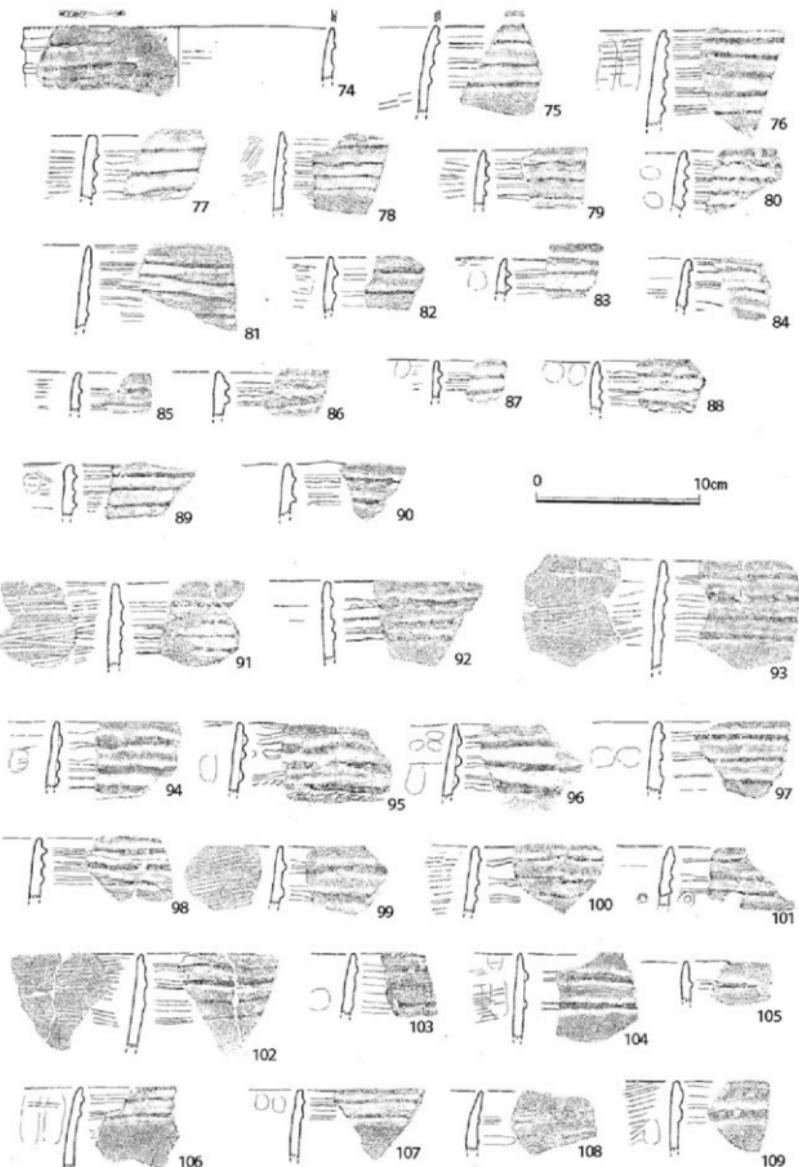


Fig.21 縄文時代土器実測図 6 (1/3)

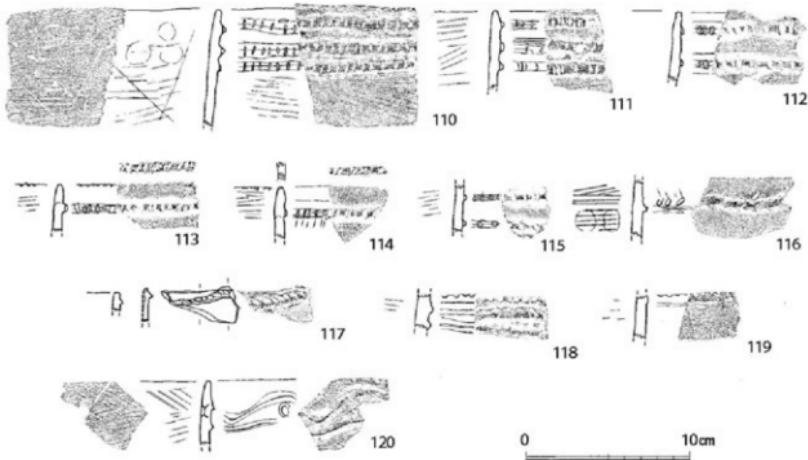


Fig.22 縄文時代土器実測図 7 (1/3)

色合いで、中には茶褐色、淡灰茶色の明るめのものもある。隆起帯はII-1、3にわずかにつまみ状の調整を施すものがあるが、いわゆるミズ腫れと呼べるような顯著なものは少ない。II-5では35、50の様に途切れた部分があったりする。109は幅広の隆起帯がつぶれる。

遺物の分布は調査区全体におよぶが、南側より北側のFG2区付近で組成に占める割合が大きい。33は多くの破片が接合し一周にわずかに満たないがほぼ復元できる。34は同一個体と考えられる接合破片から復元した。33、34ともに破片の全てがF2とG2のそれぞれ近い場所に集まる。

117は小破片ではあるが突帯が波状をなし、その上面に刻み目を施す120は黄白色を呈し、焼成後に外面から穿孔する。

III類 (Fig. 23 121~146)

刺突文を主体とする文様を施すものを集めた。出土位置の分布に偏りがある。

III-1 (121~126) 円形の刺突文2または3条を弧を描く帶状に施す。器面、胎土から同一個体と考えられる。そのほとんどがG7のSK027からの出土である。外面は暗灰色から黒色を呈し条痕のちナデ調整で平滑に仕上げ、内面は灰褐色を呈し条痕が残る。胎土は細かく雲母が目立つ。

III-2 (127~139) -1以外の刺突文を一括した。129、133、以外はSK027の出土である。131~133はIII-1の同一個体の可能性もあるが刺突が強く、やや方形を呈し動いた粘土が突起状を呈す。129は幅狭の小さな刺突が帶状に5条以上施す。135は口唇部に刻み目を施し、最上段のみ右方向に粘土がはみ出る。他の段も右から左へ施設している。136の刺突は小さく深く深い。条痕文がはっきり残る器面に深く鋭い刺突を施す。

III-3 (140~146) 滑石を混入する。丸く浅めの刺突文を施す。G4、5出土が多く、-1、-2と分布を異にする。140は口唇部に刻み目を施す。

IV類 (Fig. 24~27 151~234)

沈線文を施す雑多なものを一括した。分布は調査区全体に広がる。以下特に記さないもの以外は同様の分布である。IV-5はSK010周辺の多く、IV-7はその周辺のみに分布する。

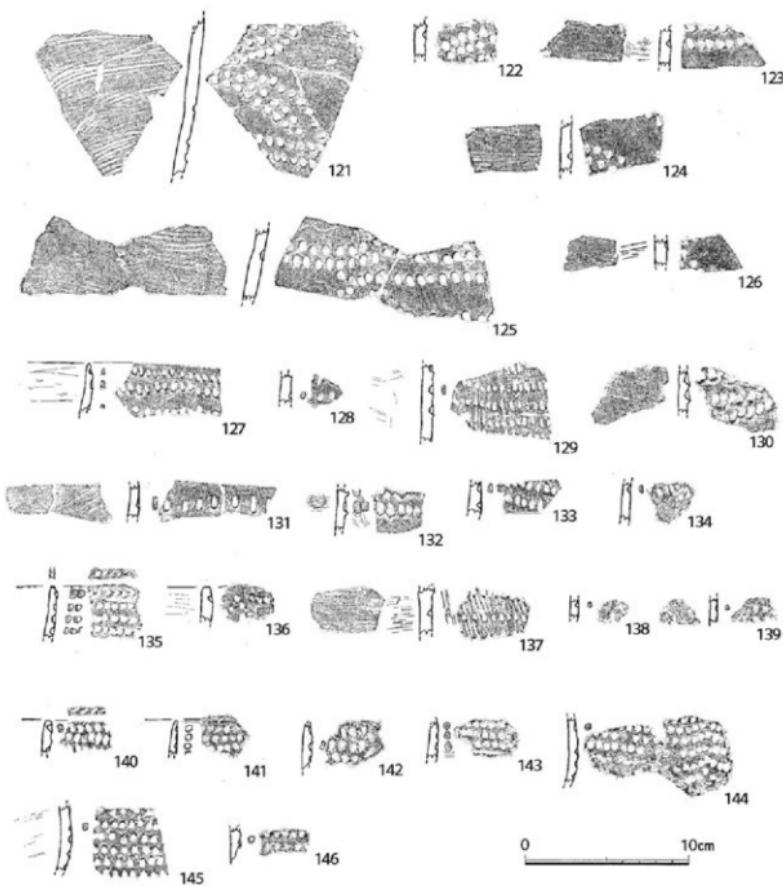


Fig. 23 縄文時代土器実測図 8 (1/3)

IV-1 (151~157) 隆起帯または細隆起帯が巡り、沈線文を施す。151は口縁下の2条の細い隆起帯と2条の平行沈線の間に、弧状の沈線に囲まれた菱形文のモチーフを繰り返す。SK 010およびその周辺からの出土。152は口縁下に細い隆起帯を巡らし、その下に弧状の沈線を連続させる。156、157も同様の文様で隆起帯はさらに細く低い。153、154は細い隆起帯の間、下に細い沈線で斜めの

2方向に平行線を描く。153の沈線文は隆起帯を挟んで菱形を呈す。155は器壁がごく薄く、口縁直下から細い4条の弧状の沈線を描き、その下に細い隆起帯を施す。

IV-2 (158~174) 横方向の沈線の下に3~5条の沈線を弧状に施し、接点は山形を呈す。沈線は太めである。破片ではっきりしないものも含めた。158は2条単位の横方向沈線を3カ所に施しその間に弧状沈線を施す。163と同一個体の可能性が高い。164は浅いボール状を呈す。171から174は同一個体の可能性がある。

IV-3 (175~184) 2方向以上からの弧状沈線を施す。IV-2類とした破片の中にはこの類もある。175は細めの沈線を弱々しく描く。図の上部には山形文と思われる平行沈線が見られる。D4でまとまって出土した。弧状の沈線の間に菱形のモチーフが表れる。177はやや底部近くの破片からの復元で施紋はやや雑である。内面には条痕がはっきり残る。178は上下にふくらむ沈線で連結した楕円状の文様を施す。185はこの類に入る訳ではないが弧状の線が不規則に見られる。

IV-4 (186~203) 橫走する沈線文のみが見られるものを集めた。一部のみの破片で他の文様がある可能性がある。189、199、200には条痕が比較的良好残る。202、203は大型の破片で、浅い横方向の沈線のみが見られる。

IV-5 (204~217) 2方向の直線的な斜沈線を描き、斜格子状の文様が表れる。多くがBCE7・8付近からの出土である。204はF2の出土で横走する平行沈線の間に斜沈線、円文を描く。施紋はやや雑で浅い。器面は外面をややなでているが、斜方向の条痕が残り、内面は横方向の条痕が明瞭である。下部の沈線下には斜沈線を山形に施しているようだがはっきりしない。口縁部は同一個体と考えられる209と合成復元した。205は滑石を含む。214から217は砂粒を多く含む胎土が特徴的で内面条痕を施し同一個体と考えられる。

IV-6 (218~223) 沈線文を施すもので雑多なものを一括した。218は3条の横走沈線の下に3条単位の山形沈線を施す。219は3条の平行斜沈線が口縁下に見られる。口唇部の刻み、胎土、器形等雰囲気が他のものと異なる。220から223は胴部に平行する斜沈線が見られる。上部の文様の下端である。221は胎土に滑石を多く含む。

IV-7 (224~234) 沈線で菱形のモチーフを意識した文様を描く。全てSK010とその周辺からの出土である。224はやや外反する波状口縁を呈し、横走沈線と平行斜線帶に挟まれた文様帶に上記の文様を描く。文様は乱れ気味で丁寧なものではない。225、227、229、231は同一個体と考えられる。

230、232は細く深めの沈線を施し同一個体である。233、234は胎土に滑石を多く含み、やや丸みを帯びた線を描く。

V類 (Fig. 27 235~238) 条痕文を深く施す。散漫な分布を持つ。

VI類 (Fig. 28 240~273) 押引、沈線により綾杉文、複合鋸歯文を描く。267、268、273以外は胎土に滑石を多く含む。破片は調査区北半にも散布するが少なく、SK010周辺に多い。

VI-1 (240~256) 綾杉文を施す。240から249は太く短い施紋が成される。そのうち242から245、249は押引による。252から256は細く長めの沈線で描く。250、251は刺突文を綾杉状に施す。250には刺突文様帶内に横方向の沈線が見られる。

VI-2 (257~271、273) 沈線で複合鋸歯文を描く。257は鋸歯文の組み合わせから菱形の文様が形成される。内面は削り状の調整が明瞭に残る。260の内面も削り状の調整が良く残る。

VI-3 (272) 縦方向の綾杉文に短い縱横の沈線が見られる。

VII類 (Fig. 29 274~305) 平行する短い沈線で描かれた胴部文様を集めた。全て胎土に滑石

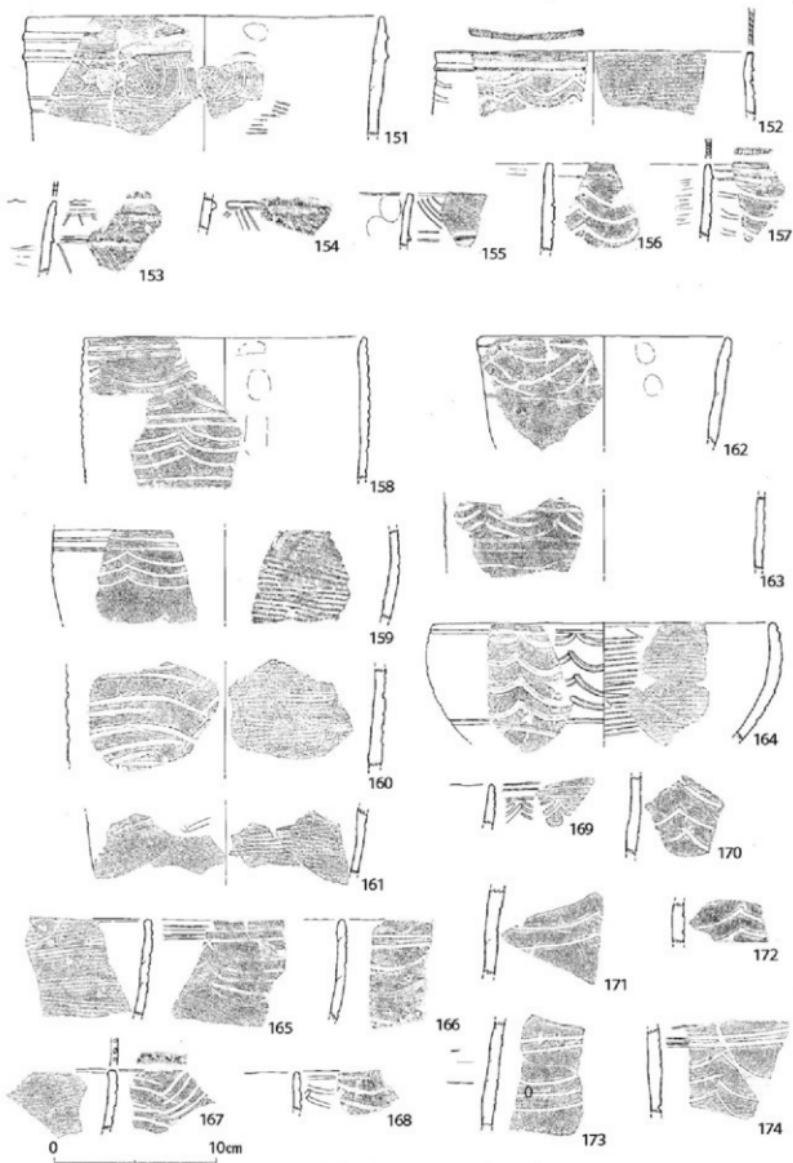


Fig.24 縄文時代土器実測図 9 (1/3)

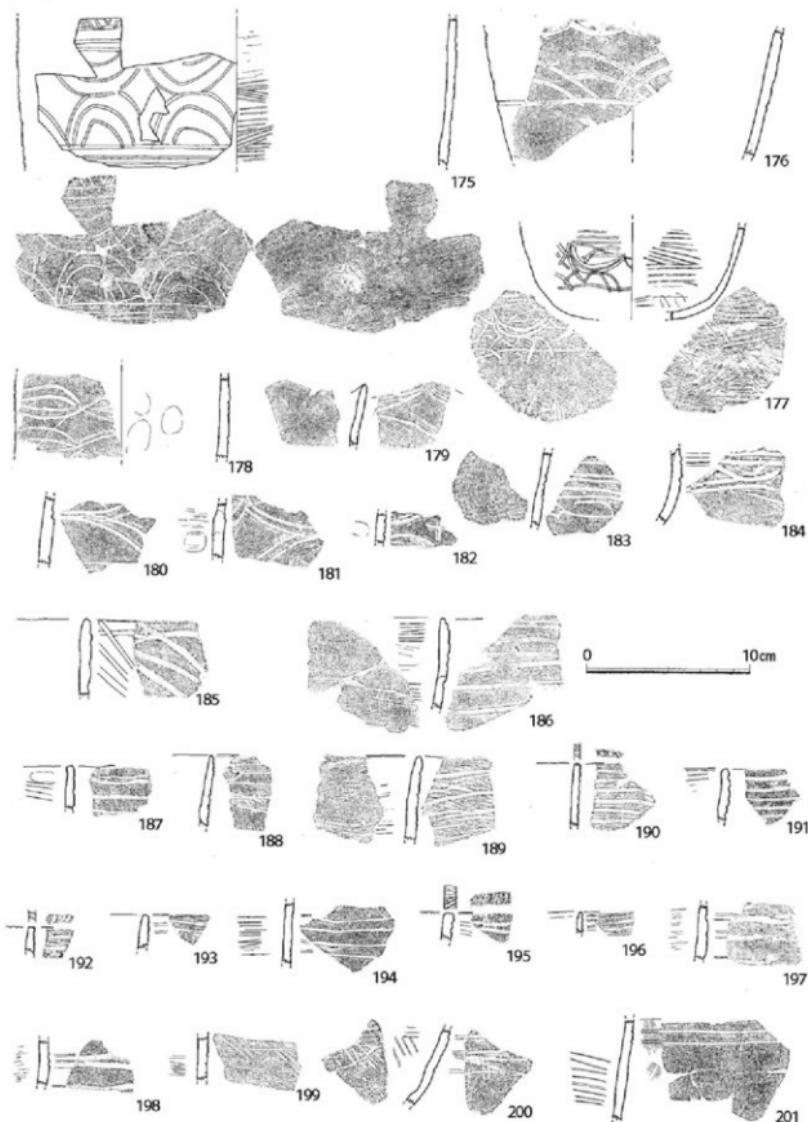


Fig. 25 縄文時代土器実測図 10 (1/3)

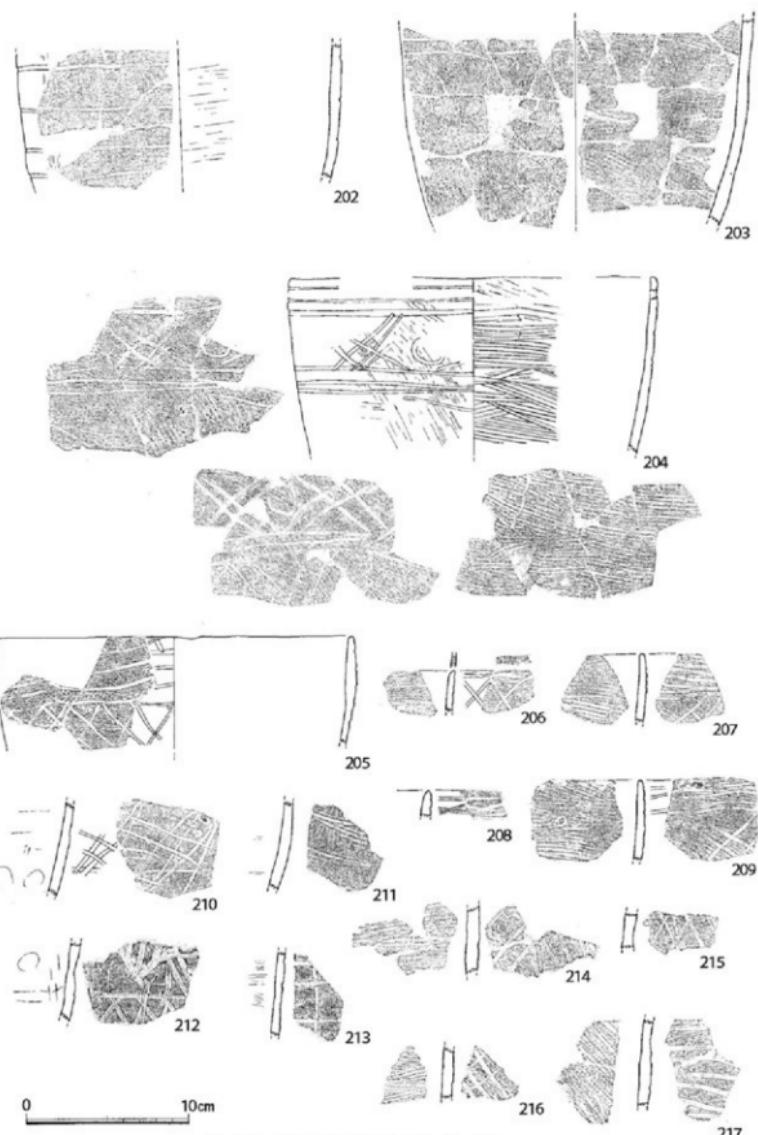


Fig. 26 繩文時代土器実測図 11 (1 / 3)

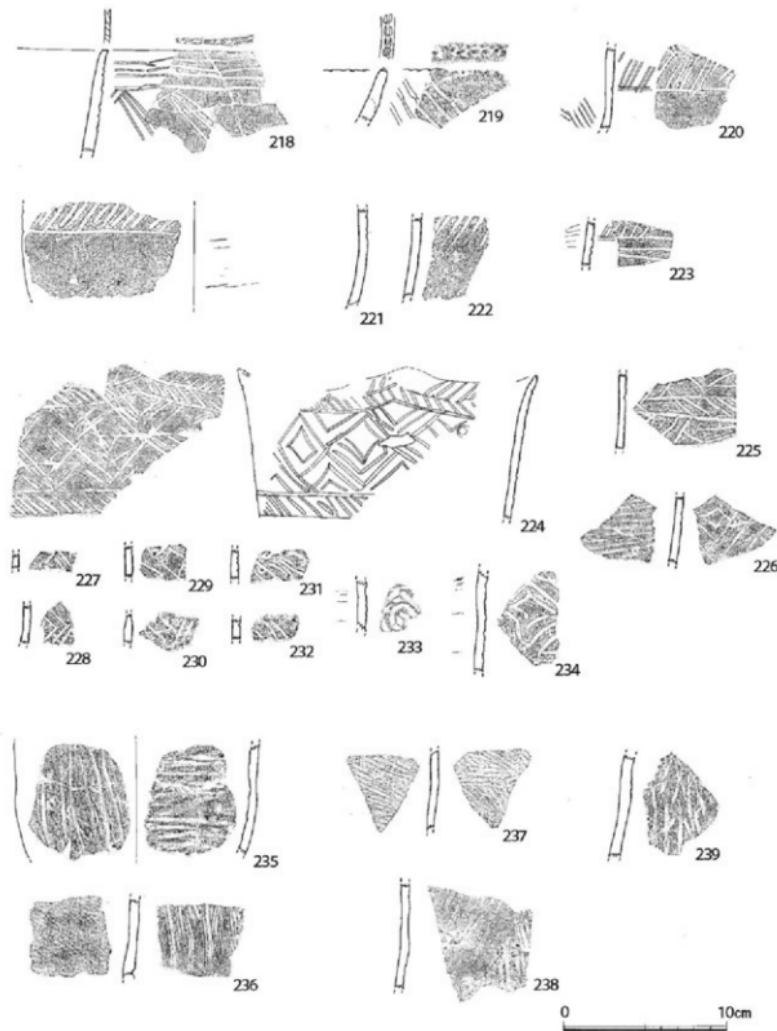


Fig.27 縄文時代土器実測図 12 (1/3)

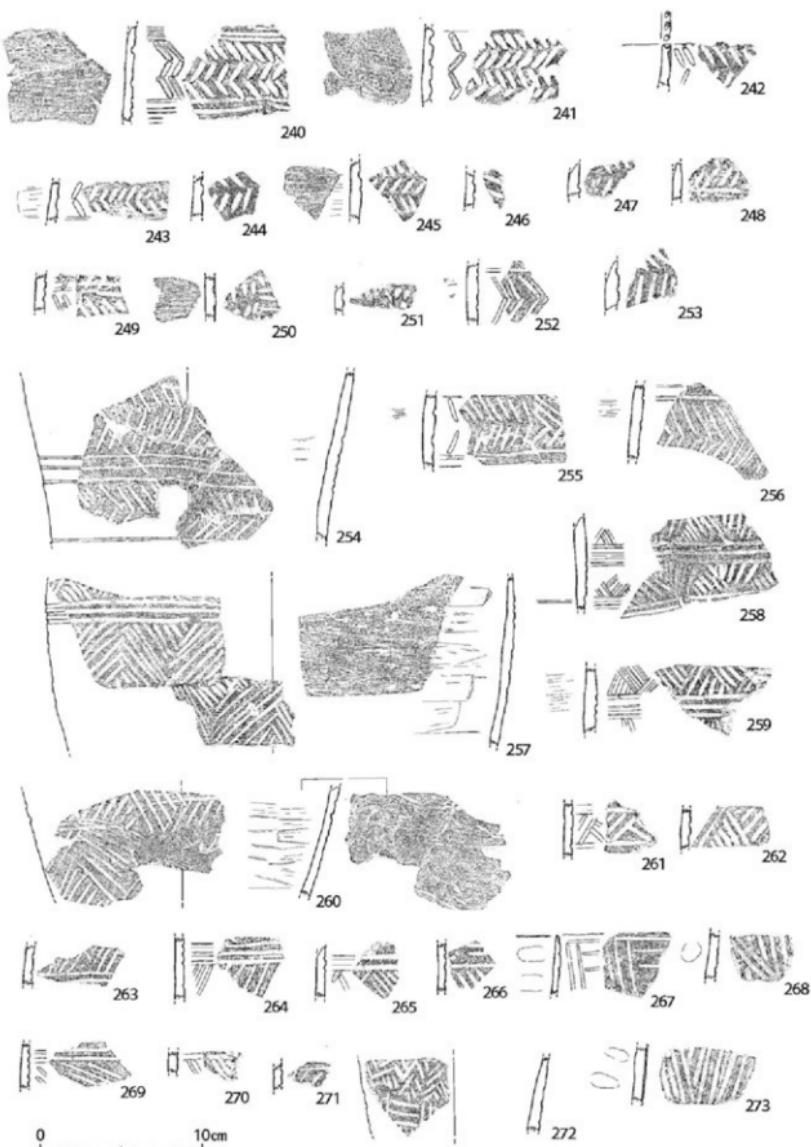


Fig.28 縄文時代土器実測図 13 (1/3)

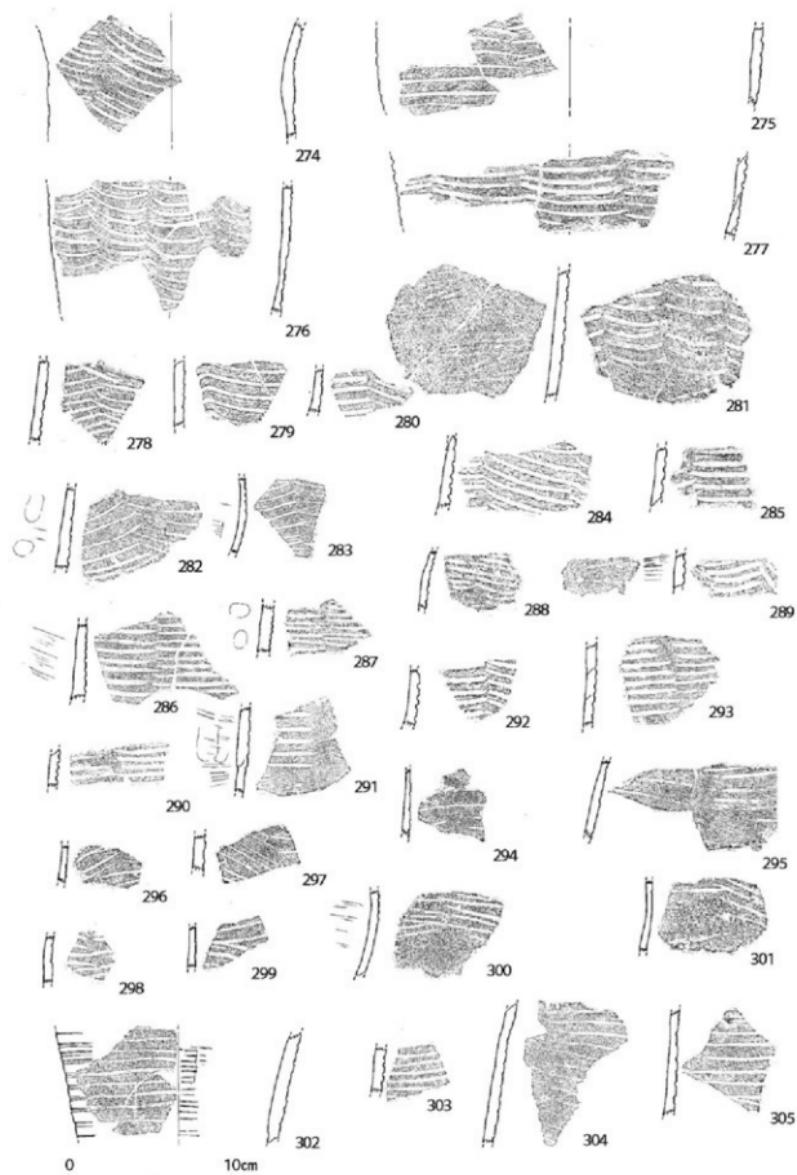


Fig.29 繩文時代土器実測図 14 (1/3)

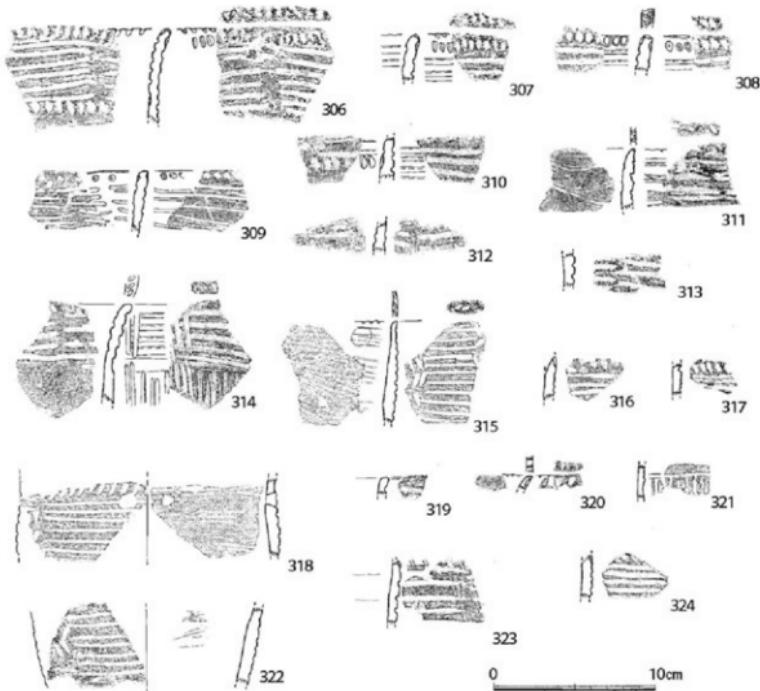


Fig.30 縄文時代土器実測図 15 (1/3)

を多く含む。調査区全体に分布するが SK 027付近にはない。SK 010付近に集中する。

VII-1 (274~285, 289) 沈線が弧状を成し、隣り合う線の接点が意識される。IV-2と近いが、胴部の広い範囲に施され、独立した文様帯を成すIV-2とは異なる。

VII-2 (286~288, 290~301) 文様がやや直線的になり、隣り合う線の間が離れている。296から301は細めの沈線で描いたものを集めた。小片、雑な施紋で文様がはっきりしない。

VII-3 (302~305) 密な横走沈線で胴部文様を描く。

VIII類 (Fig. 30 306~324) 口縁部付近の刺突文と横方向の太い沈線が組み合わさるもので、類似したものも一括した。315から324は胎土に滑石を含む。分布は散漫だが、-3はSK 010周辺のみである。

VIII-1 (306~311) 口唇部、口縁部直下に刺突文を施し、その下に途切れながら連続して横走する太い沈線を施す。内面にもほぼ同様の施紋を施す。胎土に大きな砂粒を含まないが全体に粗い。分布は調査区西半に散在する。306には口縁部に炭化物が厚く付着する。311は刺突文が口唇部のみで外面沈線の間をやや弧を描く連続沈線で施紋する。内面は細めの先が割れた工具での平行沈線を弧状に描く。

VIII-2 (312~313) 口縁部刺突と内外面の太い沈線で文様を構成する。VII-2に近いが文様帶

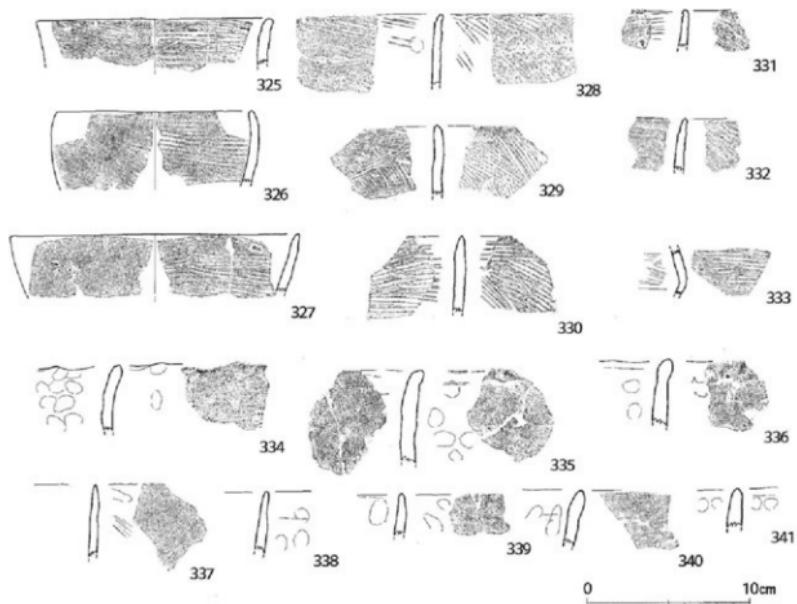


Fig.31 神文時代土器実測図 16 (1/3)

の一部としての意識がはっきりしている。

VII-3 (315~324) 胎土に滑石を含むものを一括した。315は平行沈線の間に縦方向の綾杉文を施す。322も文様帶を縦方向に区画する。

IX類 (Fig. 31 325~333) 器面に貝殻条痕調整を残す。横方向に施すものが多い。327は外側はナデで内側に明瞭な条痕が見られる。分布は全体に散漫である。

X類 (Fig. 31 334~341) 無文土器で内外面にナデ調整を施す。器面は凹凸があり丁寧な仕上がりではない。338の内面には細かな刷毛目状の条痕が残り、337外側も薄く条痕が残る。

XI類 (Fig. 32, 33 342~364) 腹部から底部破片で、径が復元できるもの、調整に特徴があるものを取り上げた。

XI-1 (342~353) 条痕文土器で内外面に条痕を施す。底部は353の様に丸底になるとされる。346は刷毛目状の細密条痕を短いスパンで施す。内面はそれをなでる。351は外側はナデ調整で擦痕が残る。内面は横方向の条痕が残る。

XI-2 (354~364) 無文の底部およびその近くである。354は尖底をなす。355は器壁が厚手で尖底を成すものか。356以下は丸底を呈すと考えられる。360は平底気味で底部に条痕をわずかに残す。363, 364は滑石を多く含む。

XII類 (Fig. 33 365~386) その他の土器を集めた。

XII-1 (365~371) 器壁外側に縦文を施す。365内面には横方向の条痕が残る。366, 367は同一個体と考えられる。366, 367, 368, 370はD4に集中する。

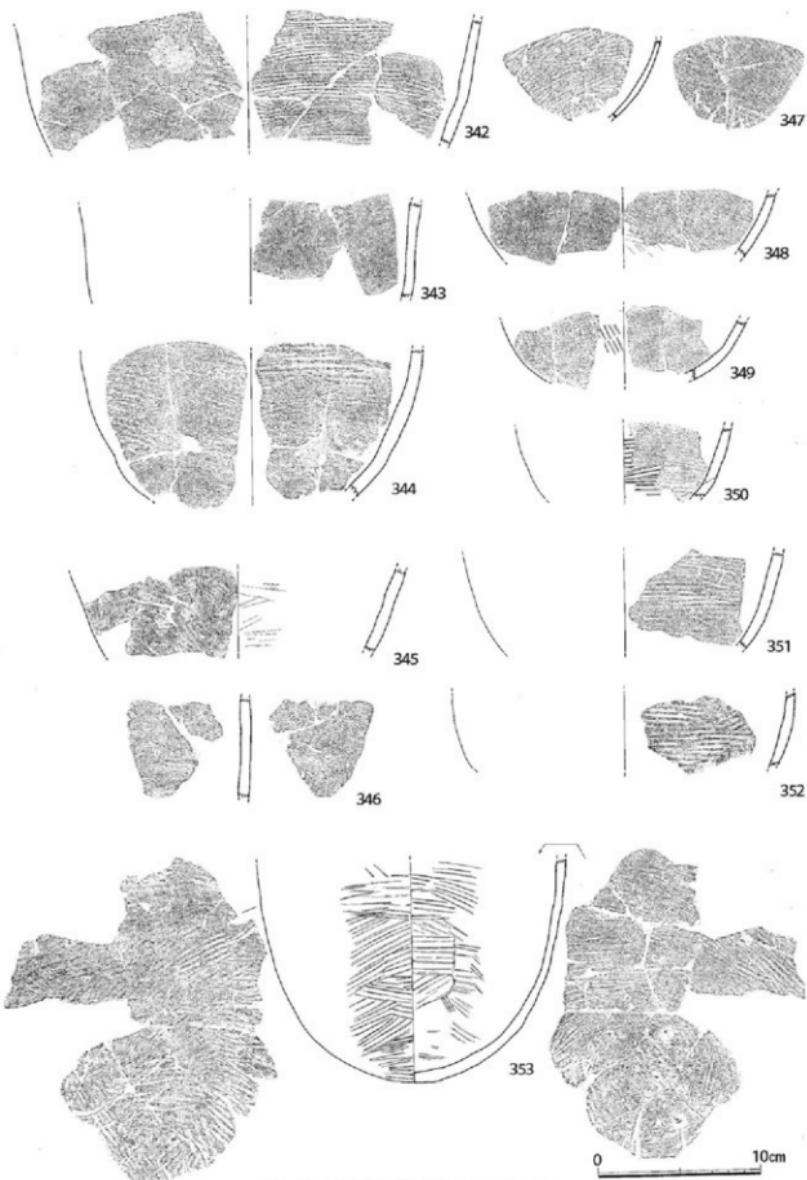


Fig.32 縄文時代土器実測図 17 (1/3)

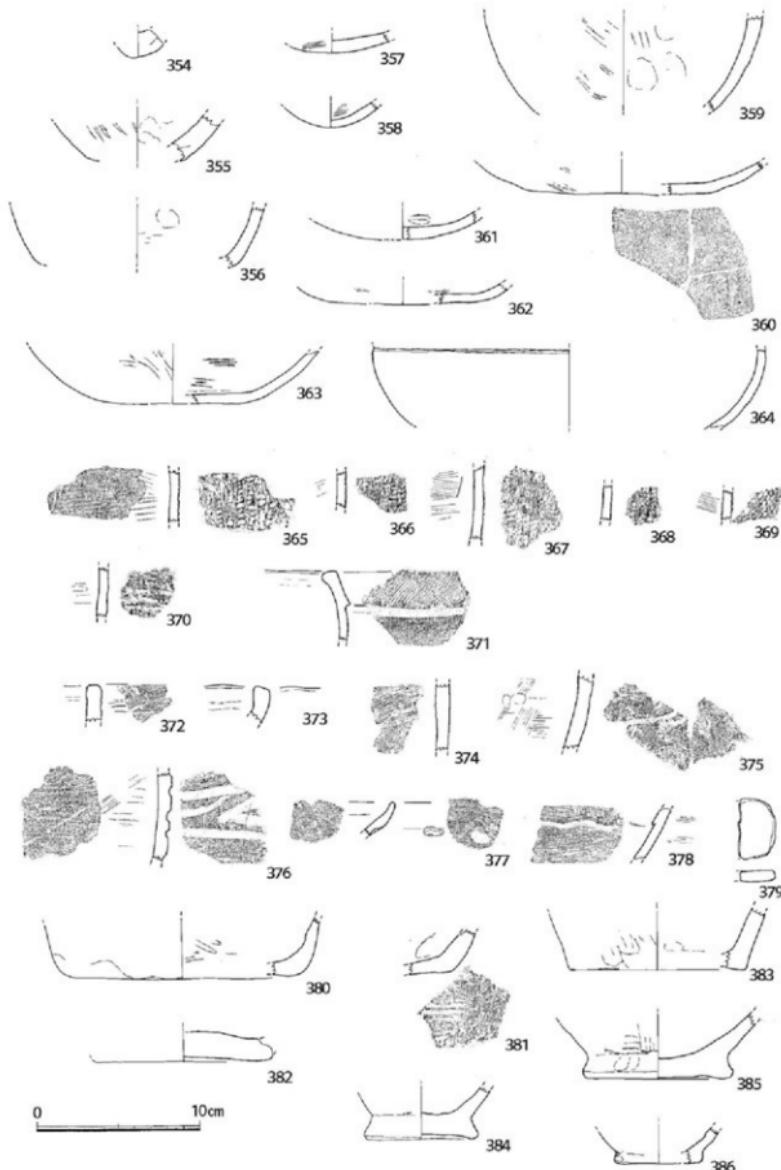


Fig.33 縄文時代土器実測図 18 (1 / 3)

III-2 (372~375) 滑石を含む厚手の土器で同一個体と考えられる。口縁部は丸みを帯びるが平坦で、外面には条痕状の調整が残る。淡灰紫色を呈し、内面には白色の付着物が見られる。阿高式系の土器か。B 6 に集まる。

III-3 (376) 胎土に滑石を含み、横、斜方向の凹線文を施す阿高式土器で内面は条痕状の調整痕が残る。表探遺物である。

III-4 (377、378) 377は口縁部下屈曲部に凹点文を付す。晩期前半の精製深鉢または浅鉢である。378は黒色磨研土器の胴部。

III-5 (379) 土製円盤。土器の軸用品で淡黄橙色を呈す。1mm大の砂粒を含みX類までの胎土とは異なる。晩期あたりのものか。

III-6 (380~386) 平底の底部である。380、381はやや丸みを帯びる。380は形状がいびつで復元には疑問が残る。381は底に深い条線が見られ、内面に強い指ナデを施す。381、382は角閃石を多く含む。383には外面に縱方向の擦痕が見られる。後期あたりのものか。384から386は断面台形を呈す晩期中頃のものであろう。

以上、土器を文様等毎に見てきた。時期的にはI類が早期の押型文土器で上普生B式から手向山式のものである。II類は轟B式系のもので轟B式と曾畠式の中間土器群に位置づけられるものを多く含むと考えられる。またIII類、IV類-1~6もその中間土器群に位置づけられる。IV-7、V~VII類が曾畠式土器で時期幅がある。IX、X類も前期のもの可能性はあるが決め手に欠く。XI類の底部も前期のものでII類のものが多いようである。III類が中期から晩期のものを含むことは先述した。量的には微量である。

(3) 石器

石器は剥片石器は剥片、碎片を含め土器同様に多数出土したが、礫石器は少ない。その組成等は表1で後述する。剥片石器の素材は黒曜石と古銅輝石安山岩（以下安山岩）の2種類である。石錐、石鍾等についてはかなりの割合で図を掲載することができたが、削器、使用痕のある剥片、石核はごく一部しか掲載できなかった。礫石器は頁岩、蛇紋岩製の石斧の他は玄武岩、花崗岩製の球形の礫が目立った。以下、種類毎に報告する。出土地点および重量は表2に記載している。

石錐・尖頭器 (Fig. 34~37 401~514)

未製品を含めて144点が出土した。定型化した石器としてはその大半を占める。出土分布は調査区全域にわたり、土器の分布と同様である。時期は土器が早期から晩期までであることから、特定は難しいが、中期以降の土器の量からすると早期押型文に伴うものと、前期のものがほとんどと考えられる。以下、基部を中心とした形態から便宜的に5類に分けて説明するが、欠損部があるものは一部除外した。また、都合により挿図は素材別に並ぶ。401から476が黒曜石、477から514は安山岩製である。

1類 (401~410、477~484) 基部に深く大きな抉りが入り、脚部の作りが顕著である。長さ1.5mmほどのものから4cmを超える大型のものまである。2類 (411~434、439、485~489、494) 基部に深い抉りを入れ、脚部が広がり気味の形態を呈す。417、423、434は片面に主剥離面を残す。3類 (435~460、490~504) 基部の抉りが小さいものおよび弧状を呈すものである。436、437、446、501、502、504等表裏に主剥離面を残すものが多い。4類 (463~470、496、505~511) 基部に抉りがない平基のものである。ここでも主剥離面を残すものが多い。5類 (472~476) 未製品と考えられる。427、473等は平基と見れば完成品なのかもしれない。6類 (514) 基部を欠いて全体が不明だが、尖頭器の可能性がある。また、石錐とした554は有舌尖頭器の可能性がある。

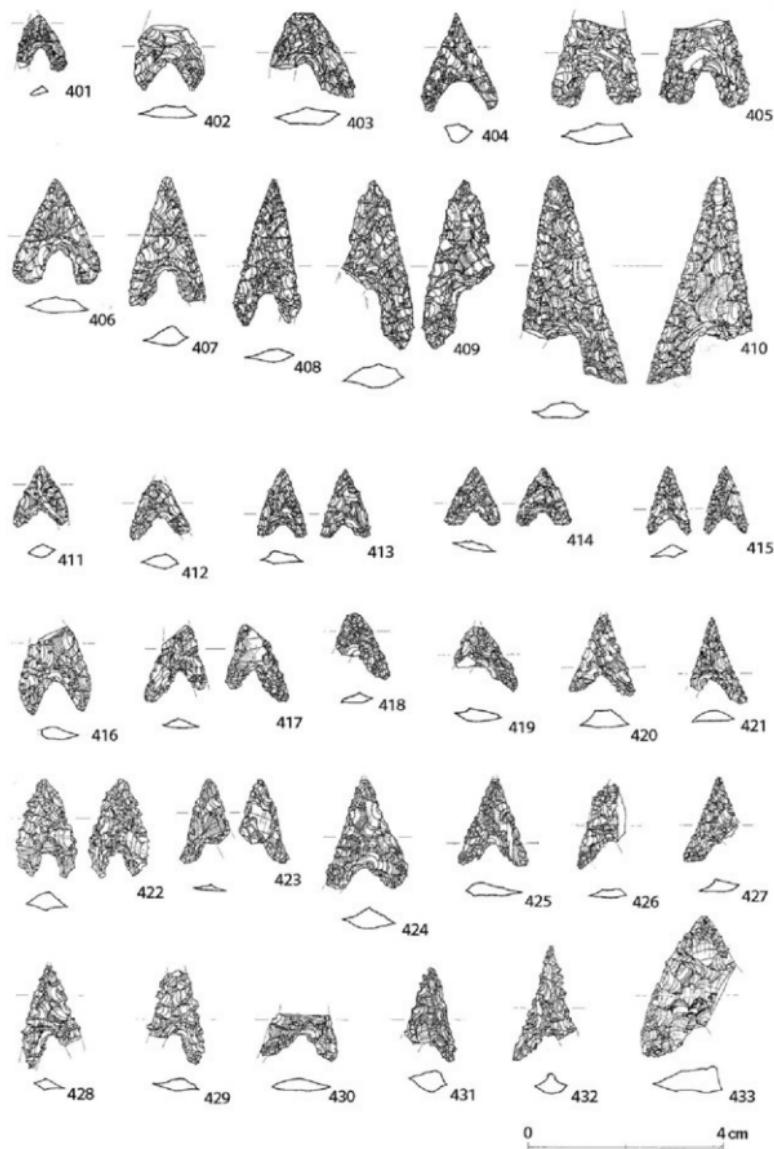


Fig.34 石器実測図 1 (1/1)

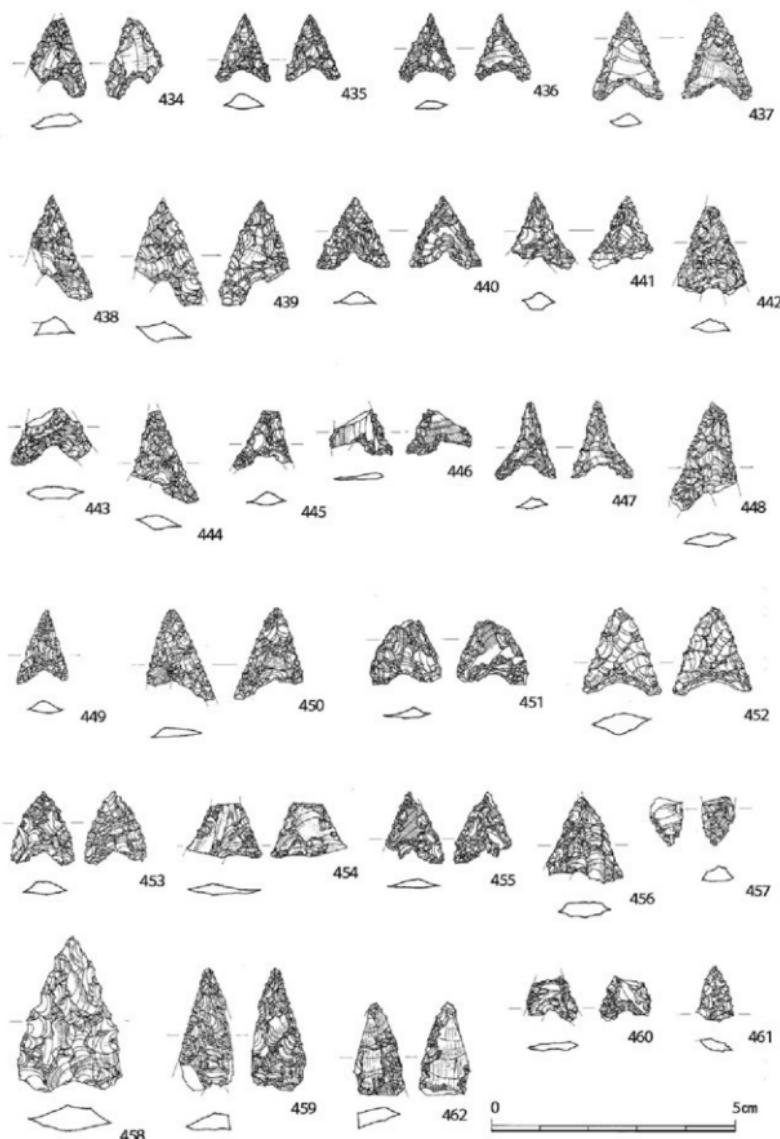


Fig.35 石器実測図 2 (1/1)

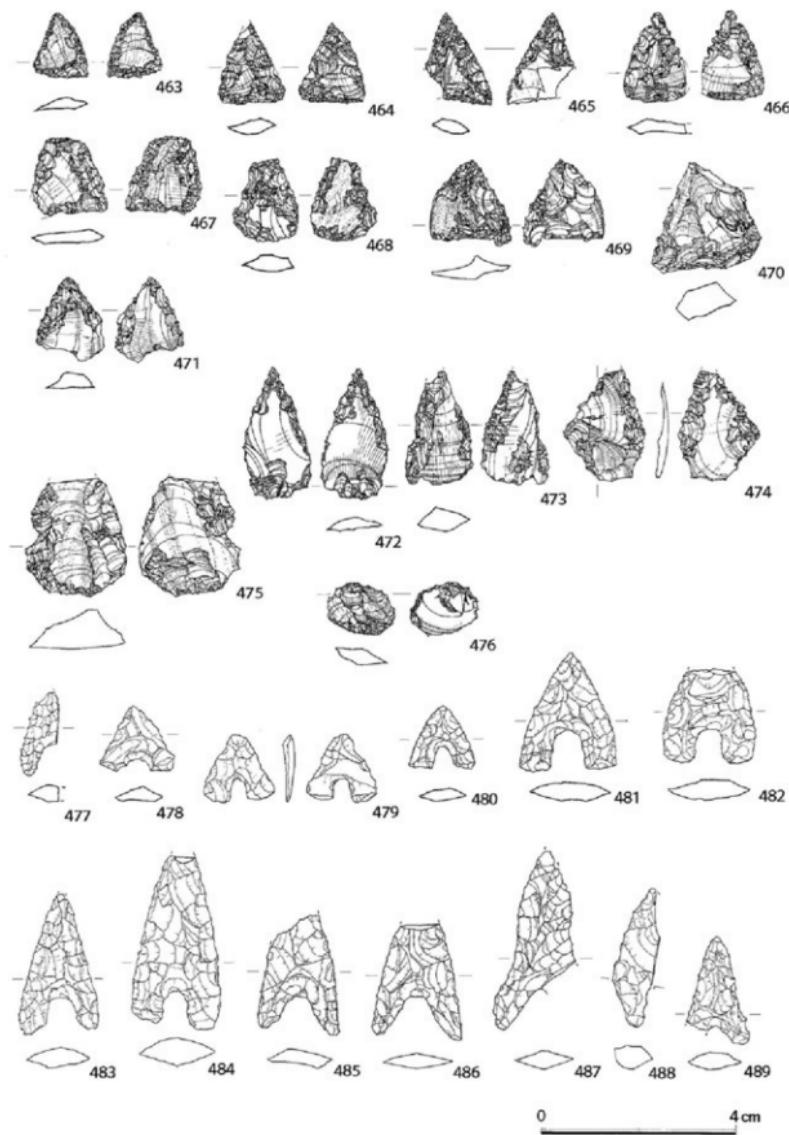


Fig.36 石器実測図 3 (1/1)

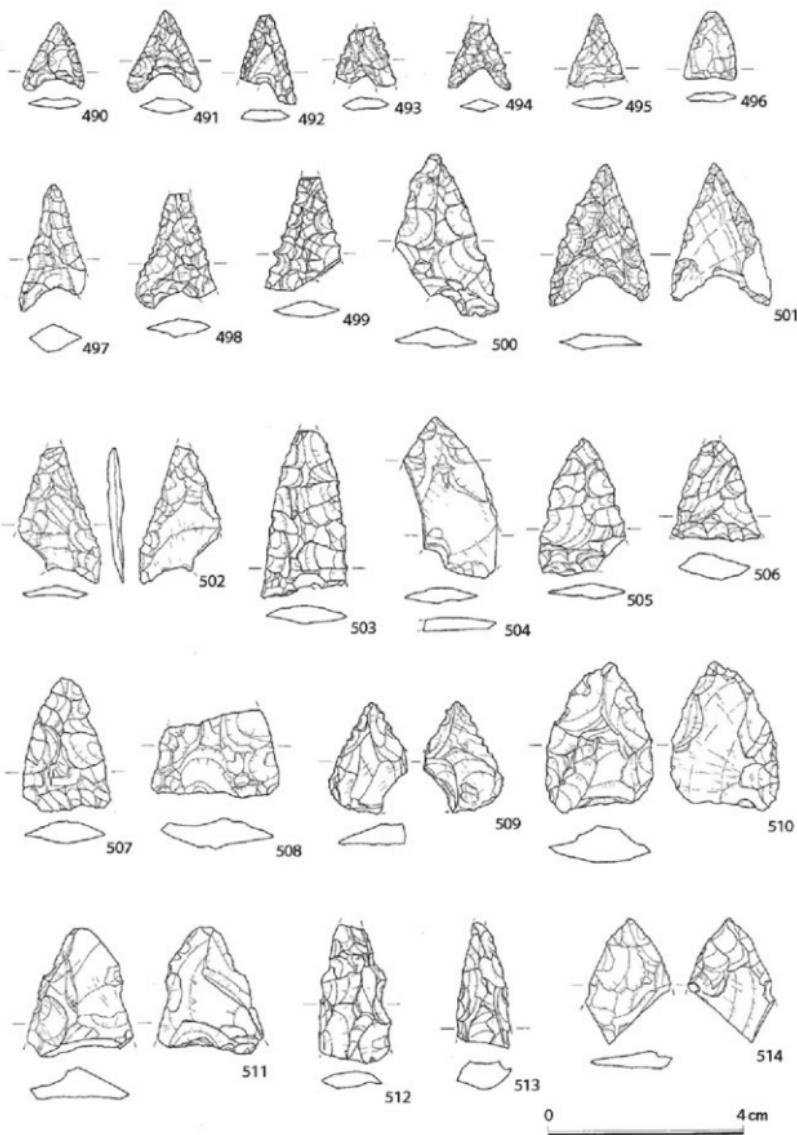


Fig. 37 石器実測図 4 (1/1)

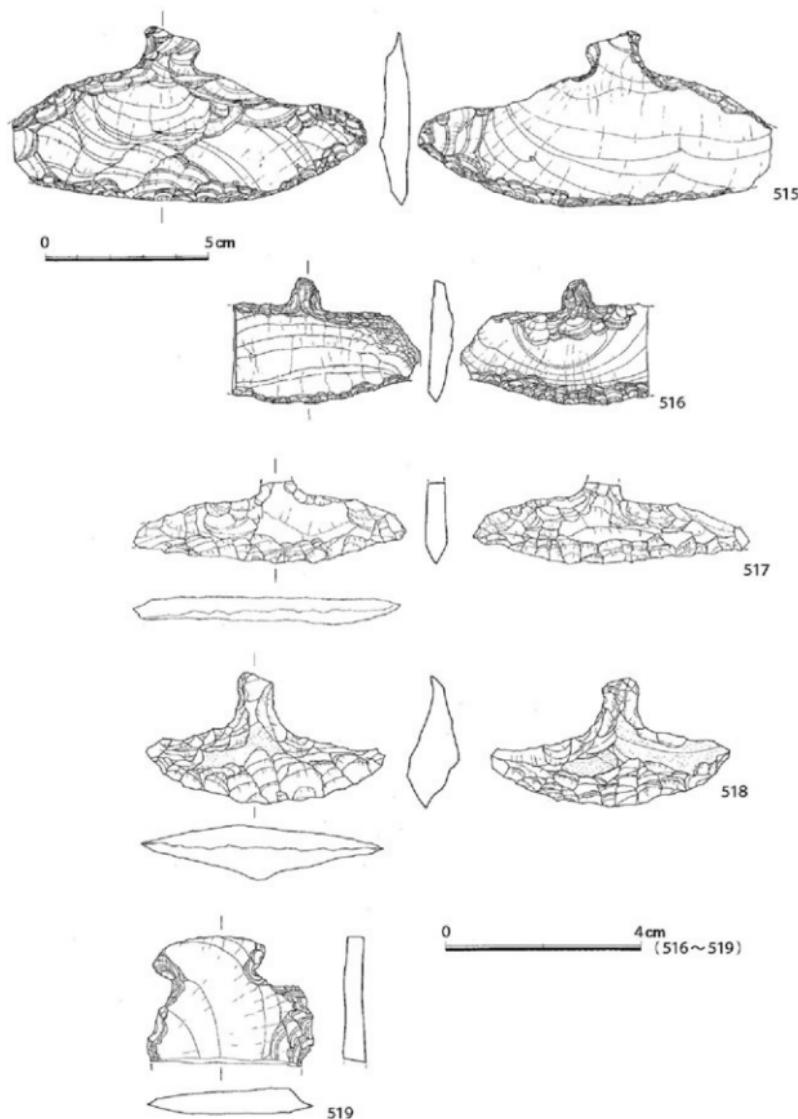
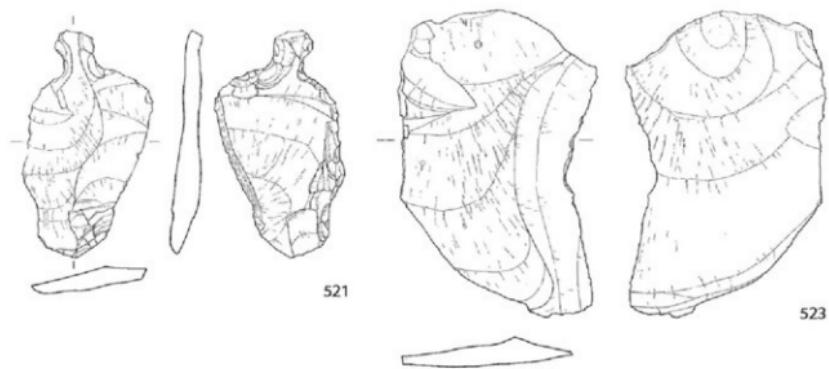
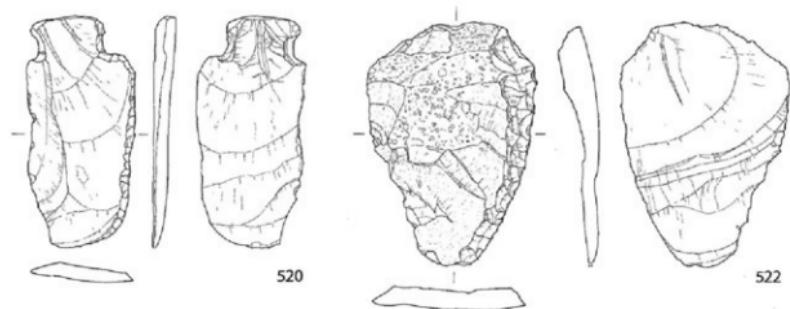


Fig.38 石器実測図5 (1/1, 2/3)



0 5 cm

Fig.39 石器実測図6 (2/3)

この他、特徴的なものとして429、499がわずかながら鋸歯状を呈す。512、513は細身で長身になりそうだが欠損のため全形は不明である。また、513は厚く質感がある。

各類とも2等辺三角形を呈すもの多く、正三角形のものもそれぞれにある。1類以外はおむね安山岩製のものが長く幅広である。押型文土器に伴う石鏃は上記の各類にわたり、分離できない。その中でも1類としたものは押型文土器に伴う可能性が高い。前期の石鏃は一部早期のものを含む2類以降の大半と考えられる。

石匙 (Fig. 38, 39 515~521)

7点が出土した。7点とも安山岩製である。機能的には削器に含まれるが、定型化した前期を特徴付ける石器でもあり別に取り上げた。515から518は横型、519から521は縦型を呈す。515は長大な横長剥片を使用し、端部全周加工を施す。白色が強く風化が進んでいる。516は1/2が欠損する。517、518は細身で小型を呈し、全面に入念な加工を施している。517のつまみ部は古く欠損する。520は縦長剥片の基部につまみ部を加工し、縁辺に小さな剥離を施し刃部を形成する。521は自然面を打点とする横長剥片の横端部につまみ部を作り、縁辺に軽い調製で刃部を作る。

錐とした650も石匙の未製品の可能性がある。

削器・搔器 (Fig. 39~41 522、524~547)

本調査で一定の出土量を持つ器種で63点と石鏃について数が多い。石材は黒曜石と安山岩があるが安山岩製が9割弱を占める。以下4類に分けて記述する。

1類 (524~529) は刃部の角度、形態等に搔器的な要素を残す。524、525が黒曜石で他は安山岩である。524は角度がある刃部を先端部に加工する。525は刃部の角度は浅いが、円形搔器状の形態を持つ。526から528は不定形、縦長剥片の側片にやや角度のある刃部を主に表面を主に加工する。2類 (530~538) は縦剥ぎの剥片を素材としたもので側片に刃部を加工する。531から536は黒曜石、522、530、537、538は安山岩である。522は自然面を残す背面の片側のみを加工し刃部を作る。530から534は薄手の小形剥片を用い、535から538は厚みをもった角柱状の剥片の一辺を刃部とする。3類 (539~541) は不定形剥片を素材とする。539は円形の小形の剥片の端部に刃部を持つ。540はやや横長気味で、石匙状を呈す。543は自然面を打点とする3角形を呈す剥片の2側辺に刃部を加工する。4類 (542~544) は横剥ぎの剥片を素材としたもので長い端部に細かな加工を施す。刃部に入念な加工を施したもののが目立つ。

石鍤 (Fig. 42 545~557)

545から550が黒曜石製、551から557が安山岩製である。545から547、551はやや厚手の不定形剥片を素材とし、基部近くまで調整剥離を施し、成形する。551は有舌尖頭器になる可能性がある。551から550、552から555は薄手の不定形剥片の先端付近のみに加工し錐部を作る。546、547、548、549、550、554、555は先端を欠損する。556は頭部がつまみ状を呈し、長い錐部をもつ。裏面は剥離面を残し平坦で加工を加えていない。先端部は欠損する。557は自然面を残す厚手の不定形剥片に錐部を作り出す。石匙の未製品の可能性もある。

使用痕を有する剥片 (Fig. 39, 43 523, 561~565)

42点を確認した。黒曜石製25点、安山岩製17点を数える。黒曜石は、不定形で形が整わない小形の剥片が多い。これに対し安山岩製は、少し加工を加えれば削器になる形が整ったやや大形の剥片である。横剥ぎ、不定形のものが多い。ここではごく一部を図示する。523は安山岩の長大で薄い縦長の剥片で側辺、端部を使用していると考えられる。561~565は黒曜石製で、縦長、不定形剥片の両側辺に微細な剥離が見られる。

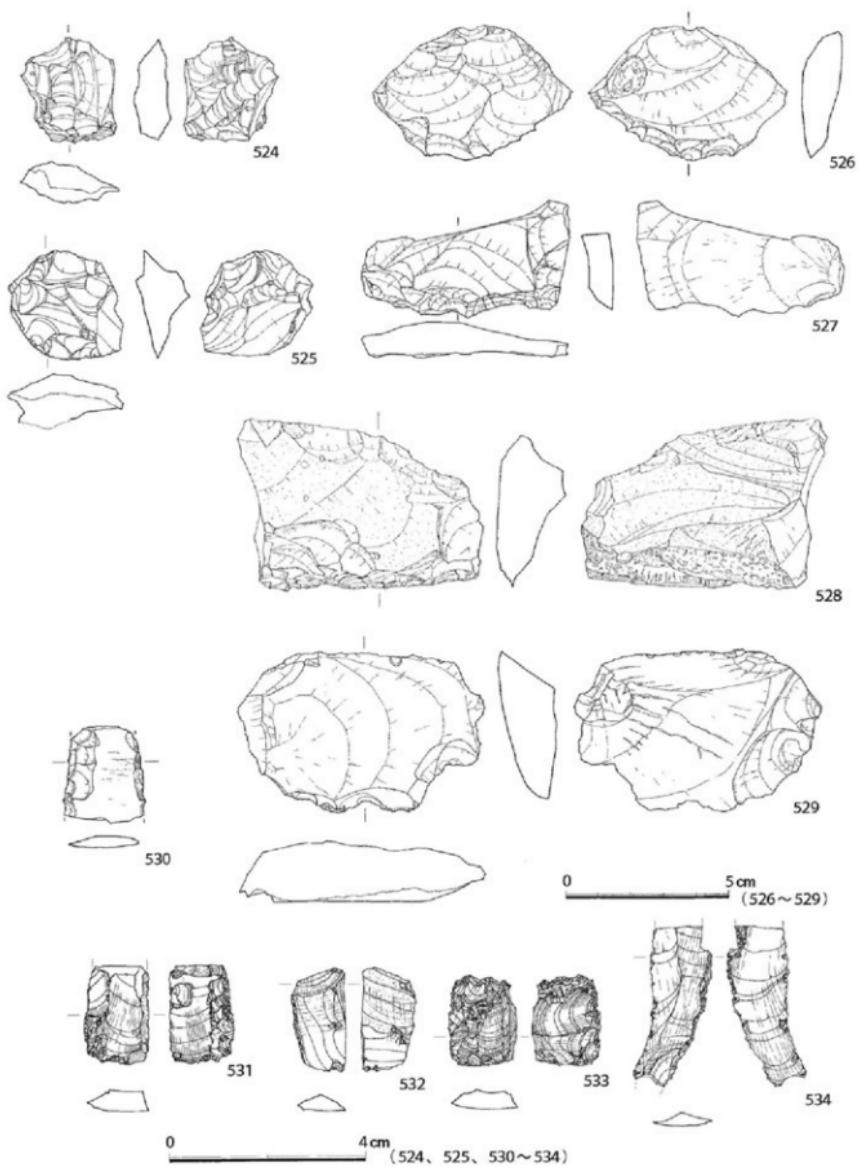


Fig.40 石器実測図7 (1/1, 2/3)

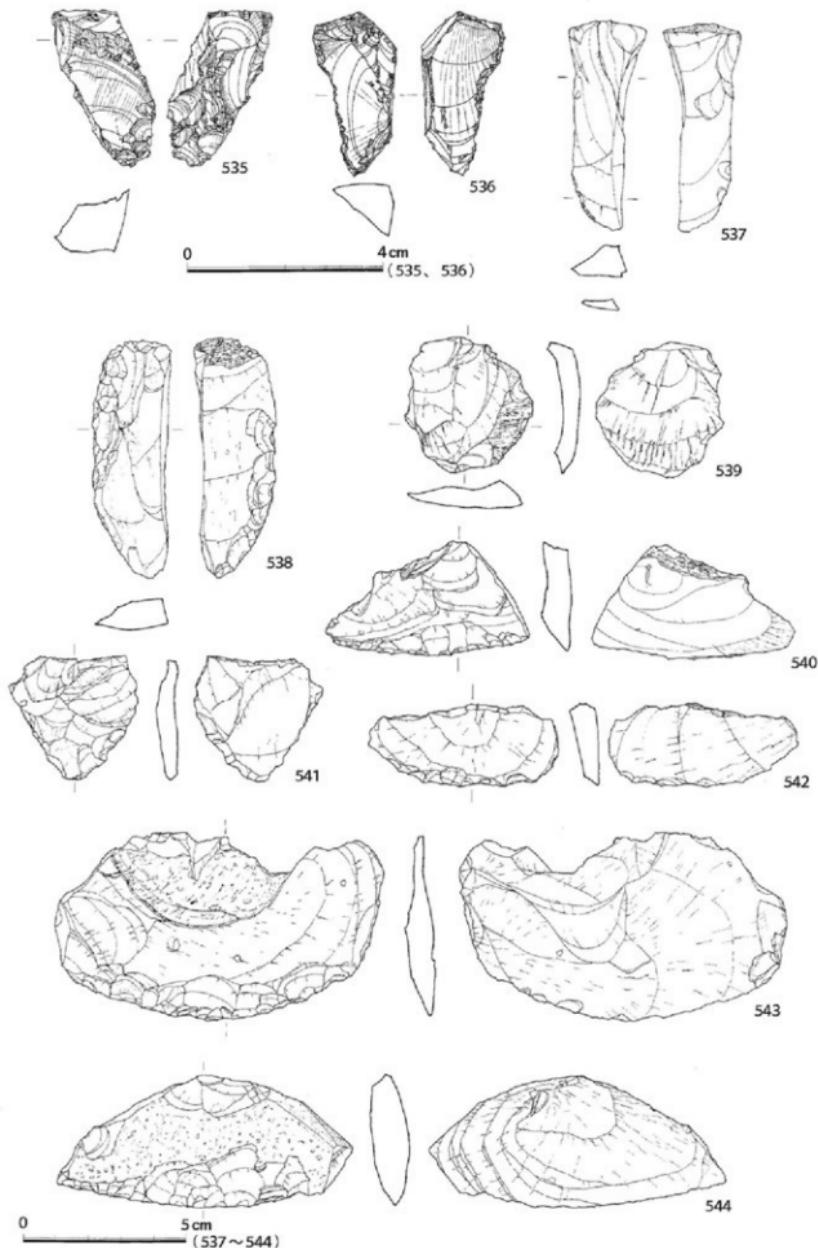


Fig.41 石器実測図 8 (1/1, 2/3)

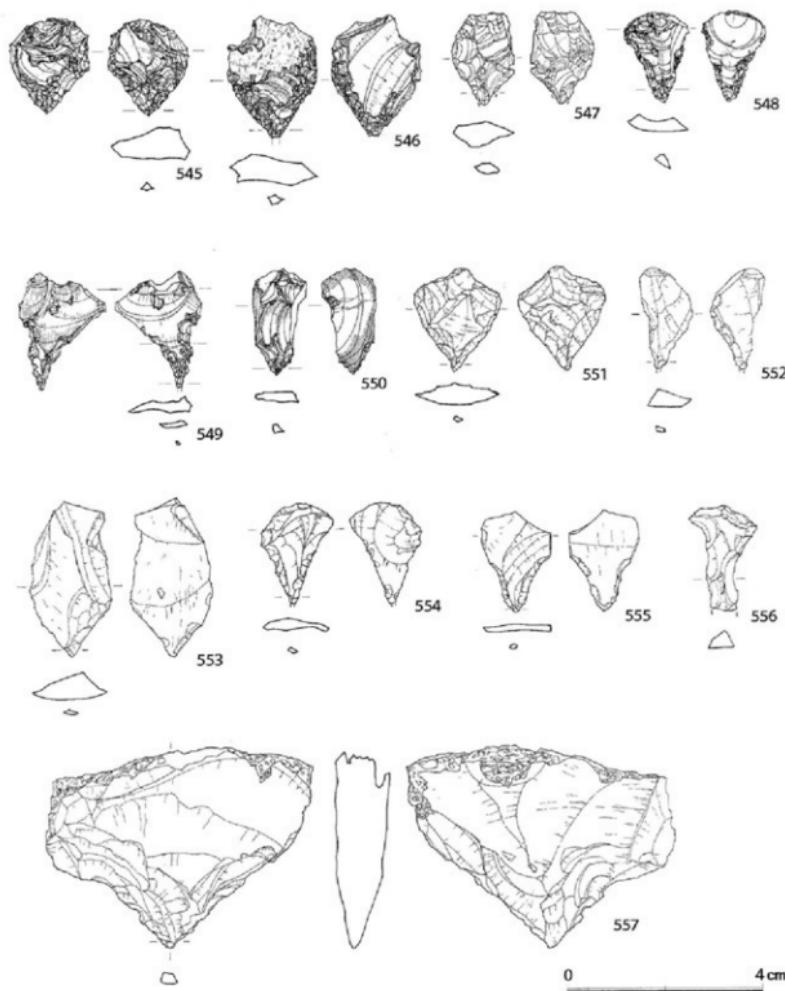


Fig.42 石器実測図 9 (1/1)

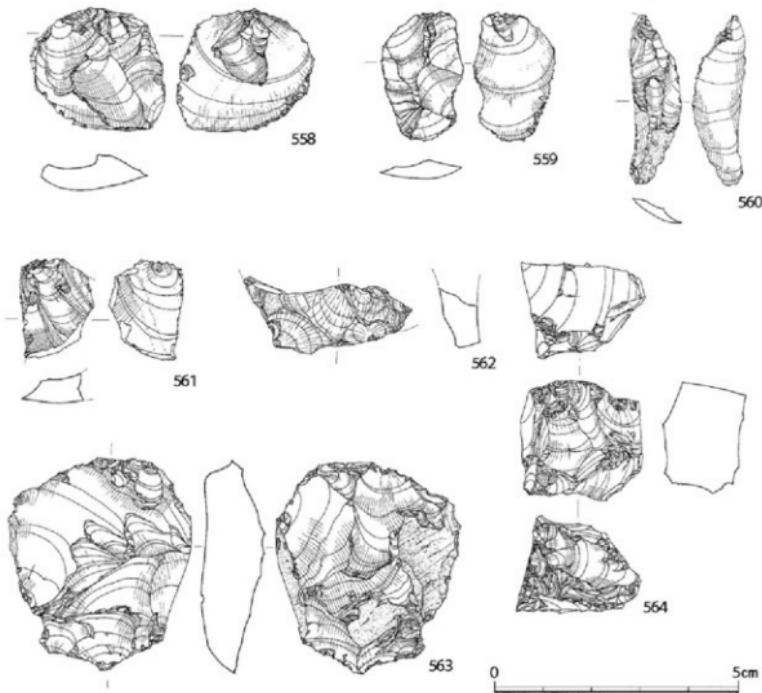


Fig.43 石器実測図 10 (1/1)

石核 (Fig. 43 562~564)

27点の出土があったが、図化、観察を行えなかった。ごく一部を図示している。いずれも黒曜石製である。562は核片で少なくとも2回の剥離を行った後折れている。563は自然面を残す厚手の剥片を素材とし線状打面から剥片剥離を行う。564は小型の方柱状の素材の3面で剥片剥離を行う。直交する打面転移を繰り返す。打面は平坦面を使用する。

磨製石斧 (Fig. 44)

565から570は磨製石斧である。今回の調査で出土した石斧はこれが全てで、打製石斧は出土していない。565、570が頁岩、566から569は蛇紋岩製で565から568が大形、569、570が小形品と呼べよう。刃部は全て両刃だが、566は少し偏りがある。頁岩製の565、570は風化が進んでいるが、蛇紋岩製は丁寧な研磨が良く残る。567は基部、570は刃部側を大きく欠く。

磨石・敲石 (Fig. 44, 45)

571から581は磨石である。571、573、575、577、578、579は圓の上下端を、576は周辺に敲打痕が見られ敲石としても使用している。571、572は全面を良く磨き、他はアミ部分を特に磨く。574、581はくぼみが見られる。571、574から577は玄武岩、578、579は花崗岩、580は片岩、573、581は砂岩である。このほか580の様な小形でやや扁平球状の出土が目立った。中には研磨

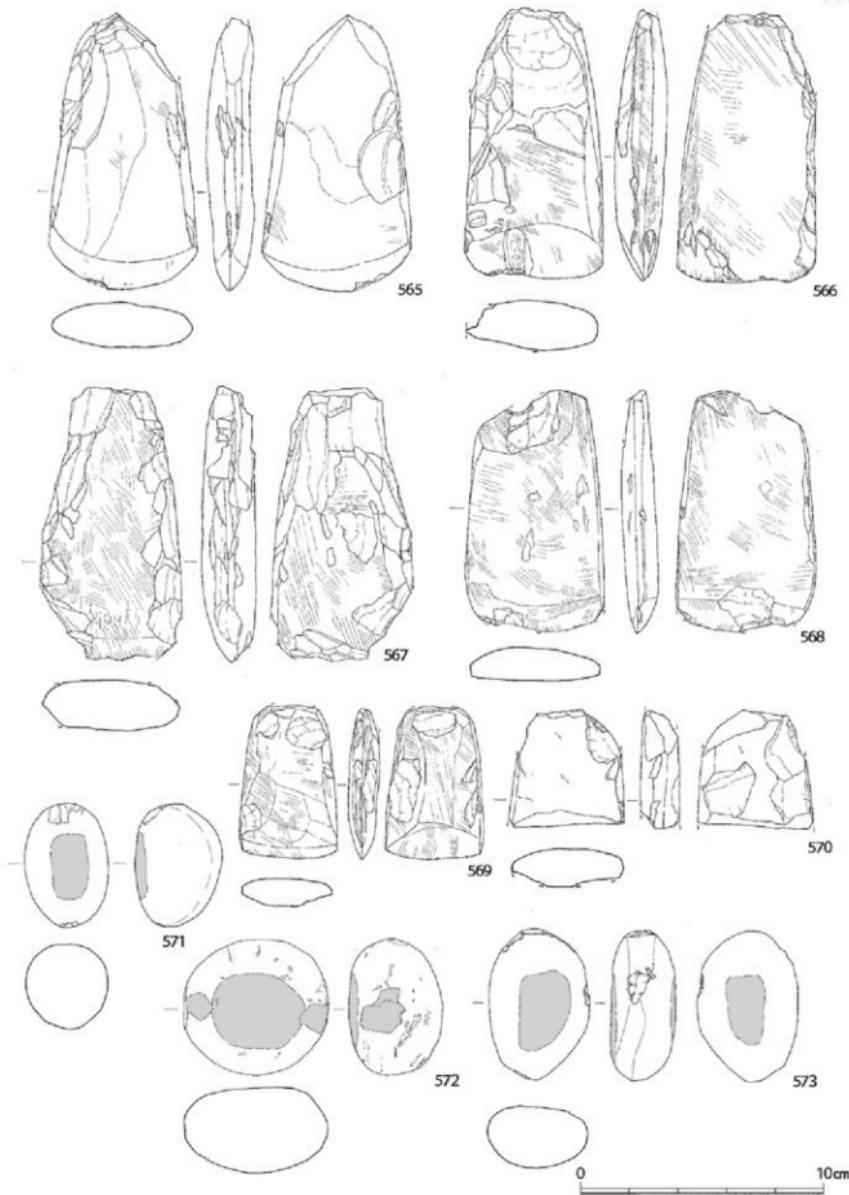


Fig. 44 石器实测图 11 (1/2)

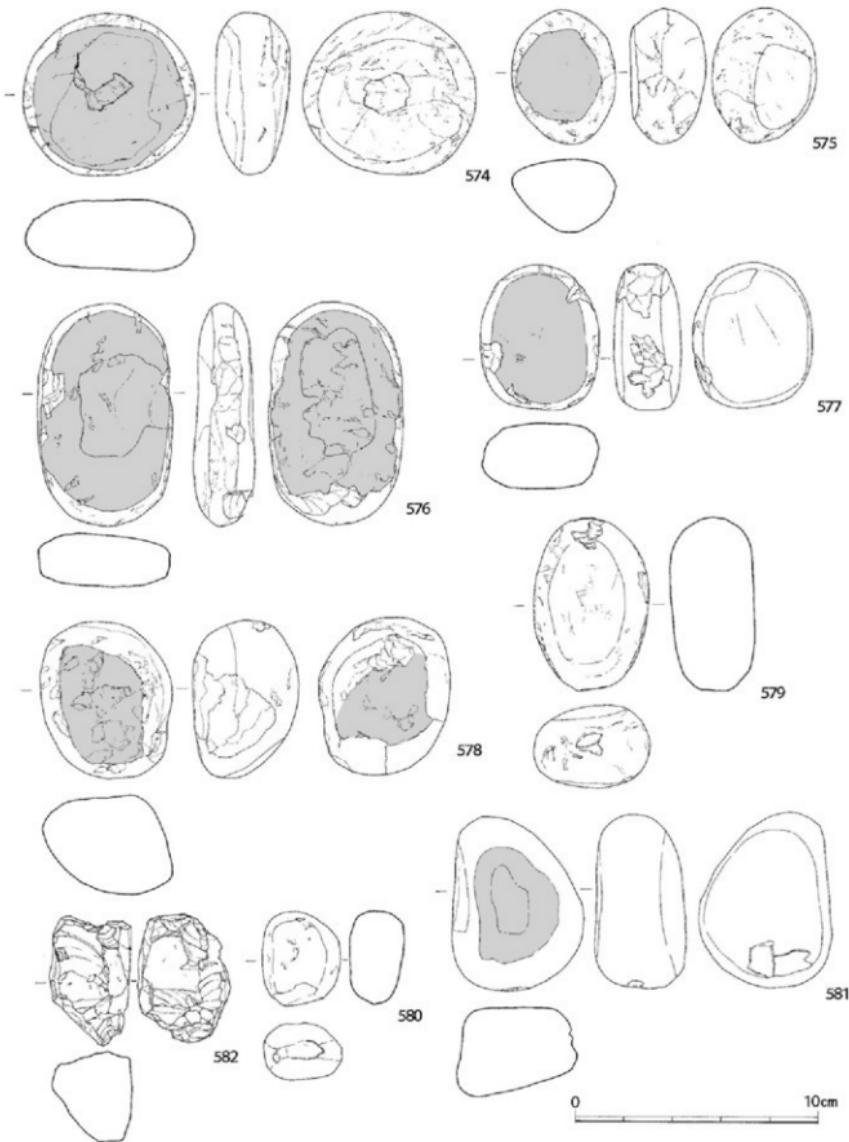


Fig.45 石器実測図 12 (1/3)

表1. 石器組成

安山岩は古削輝石安山岩

	石鏟	尖頭器	石鑿	搔器	削器	石錐	UF	剥片	核	(修理部)	原石	石斧	磨石	合計
黒曜石	99	0	0	3	8	7	25	1091	26	0	2			1261
安山岩	45	1	7	10	55	8	17	276	1	1	1			422
その他												6	30	36
合計	144	1	7	13	63	15	42	1367	27	1	3	6	30	1719
割合(%)	69	0	0	23	13	46	60	80	96	0	67			

等の使用が見られないものもあるが、基本的に現地の転疎は角疎であり、少なくとも選択を経て包含層に入ったものと考えられる。そのようなものも含めると、総数で30点、そのうち花崗岩18点、玄武岩7点、砂岩4点、片麻岩1点である。

原石 (Fig. 45)

582は7cm大的黒曜石の原石で角疎状を呈す。3カ所を小さく打ち欠くのみで本格的には使用していない。図化していないが16×8cmほどで635gをはかる安山岩の原石が1点出土している。また、玄武岩の板状疎が数点あるが加工はみられない。

石器組成 (表1)

図示できなかった遺物も含めて各器種毎に数を示した。旧石器の可能性がある風化が進んだ剥片碎片21点は加算していない。石鏟は未製品、失敗品と考えられるものを含み、また欠損によりごく小片になったものもある。総数144個は剥片石器の半数を占める。そのうち黒曜石が占める割合は69%と比較的安山岩の比率が高い。次いで多いのが削器で同じく20%を占める。これに石鏟、搔器を加えると28%を占め、安山岩が占める割合は9割近くに達する。石斧は蛇紋岩製が6本中4本と前期的な様相を示す。磨石・敲石としたものには、図化した以外の中に風化が進んだ使用が全く見られないもののものを含む。

石材は碎片を含んだ点数は黒曜石が最も多い。Fig. 45-582の原石のように角疎の面を持つ腰岳産とされるものが多く、次いで松浦産と言われるような円疎を素材とするものがある。また、姫島産の可能性があるものが数点みられ、数カ所の山地からの搬入があることは明らかである。安山岩についても器面の質感から3種類以上ものがある。

5. 中世以降の遺構と遺物

中世以降の遺構としては2基の焼土坑を確認した。時期を決定できる遺物がないが、脇山で確認されているものと類似しており、中世に遡る可能性がある。全体図Fig. 6に021、030としたものは、くぼみ状の堆積で土師皿が出土したが遺構と認定しがたく取り上げていない。また、表土および、水田の段部分から、中世から近世の遺物が若干ながら出土した。

(1) 焼土坑

SK011 (Fig. 46)

C4区で検出した。SK013を切る。平面長方形を呈し175×120cm、深さ80cmを測る。壁面が焼け、特に南東側は全面が還元し青灰色を呈しその縁は赤変する。灰褐色粘質土を覆土とし下部ほど炭を多く含み、床面には2、3cmの炭層がある。

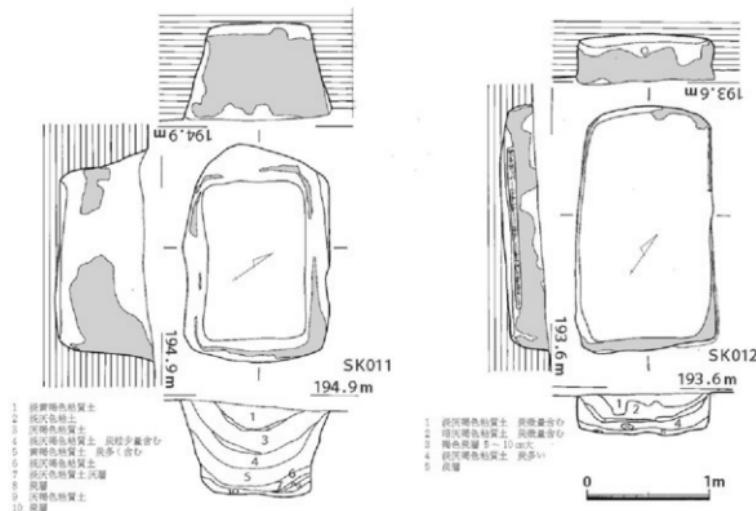


Fig.46 焼土坑実測図 (1/40)

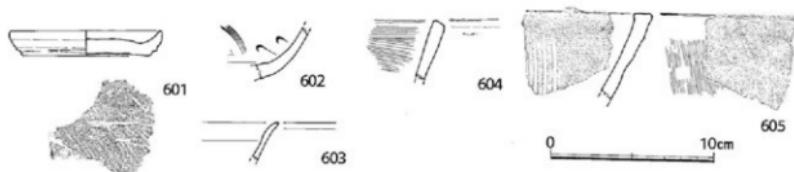


Fig.47 中世遺物実測図 (1/3)

SK012 (Fig. 46)

F 7、9で検出した。平面長方形を呈し 200×110cm、深さ31cmを測る。壁面の大部分は赤変する。西側の底には幅5cmほどの材が張り付く。覆土は炭を含む粘質土で底に5cmほど炭層が見られる。

(2) 出土遺物 (Fig. 47)

601は糸切り底の土師皿で板目压痕が残る。復元口径 9.4 cmを測る。602は龍泉窯系の青磁碗、604は白磁碗である。604は土師質の土鍋外面ナデ、内面刷毛目調整を施す。605は土師質の擂り鉢で、内外面に刷毛目調整を施す。この他に染め付け、近世陶器、砥石などが出土しているが少量である。

表2 出土遗物一覽

土器の器種等は本文中の分類 obは黒曜石 漆石は漆石混入土器 東西・南北cmはA1グリット南西端を起点にした座標値を示す

番号	クリット	取引地	石材等	岩種等	重さg	清	構	用途の	使用の	
1	G	4	1417	ob	ナイフ	7.21	2568	1489		
2	G	7	1600	雲母斜長	ナイフ	4.9	2527	2750		
3	D	9	3446	安山岩	ナイフ	8.75	1370	3255		
4	D	2	433	石	ナイフ	3.14	1391	685		
5	E	2	661	ob	台形石	1.3	1676	971		
6	B	8	2226	ob	三鈴山頭	2.79	1227	2248		
7	C	7	2546	ob	鹿石	0.19	867	2719		
8	E	8	1975	ob	鹿石	0.12	1869	2187		
9	H	5	1408	ob	鹿石	0.2	2888	1960		
10	F	6		チート	片手	20.5	SK021			
11	E	8	4450	安山岩	片手	3.75	1797	2978		
12	G	2	187	安山岩	片手	12.96	2496	614		
13	B	8	3605	ob	片手	5.54	SK010			
14	J	2	4295	土器	片手	11	3271	750		
15	D	4	1263	土器	片手	11	1484	1477		
16	C	8	2432	土器	片手	11	1083	2016		
18	D	4	1773	土器	片手	11	SK013	1352	1506	
19	F	Z	80	土器	片手	11	2183	549		
19	D	5	4255	土器	片手	11	1485	1700		
20	A	7	2742	土器	片手	11	368	2564		
20	A	6	3385	土器	片手	11	175	2305		
20	A	6	3386	土器	片手	11	148	2309		
20	D	8	4653	土器	片手	11	1213	2164		
21	J	7	4753	土器	片手	11	3600	2505		
22	A	5	2223	土器	片手	11	56	1791		
23	A	6	3380	土器	片手	11	218	2379		
24	A	7	3402	土器	片手	11	SK017	375	2595	
25	A	6	2723	土器	片手	11	187	2303		
26	A	6	2725	土器	片手	11	162	2317		
26	A	6	2726	土器	片手	11	130	2310		
27				土器	片手	11				
28	B	3	2137	土器	片手	11	SK009	464	965	
29	D	2	478	土器	片手	11	1429	761		
30	J	6	4530	土器	片手	11	3610	2001		
31	E	3	227	土器	片手	12	1818	873		
31	E	4	1170	土器	片手	12	1950	1484		
31	E	4	1172	土器	片手	12	1928	1520		
32	B	8	3669	土器	片手	15	SK010	744	2885	
32	B	8	3682	土器	片手	15	SK010	710	2907	
32	B	8	3762	土器	片手	15	SK010	724	2966	
32	B	8	3926	土器	片手	15	SK010	663	2847	
32	B	8	3992	土器	片手	25	SK010	795	3002	
33	F	2	117	土器	片手	24	2214	456		
33	F	2	118	土器	片手	24	2217	452		
33	F	2	119	土器	片手	24	2201	478		
33	G	2	179	土器	片手	24	2442	595		
33	G	2	183	土器	片手	24	2463	628		
33	G	2	185	土器	片手	24	2455	654		
33	G	2	186	土器	片手	24	2495	649		
33	G	2	188	土器	片手	24	2478	661		
33	G	2	577	土器	片手	24	2427	677		
33	G	2	590	土器	片手	24	2560	470		
34	F	1	60	土器	片手	23	2077	395		
34	F	2	92	土器	片手	23	2059	560		
34	G	2	176	土器	片手	23	2483	549		
34	G	2	177	土器	片手	23	2450	571		
34	G	2	209	土器	片手	23	2549	773		
34	G	3	803	土器	片手	23	2553	822		
34	C	8	3755	土器	片手	23	SK010	848	2962	
35	B	8	3083	土器	片手	24	436	2995		
35	B	8	3086	土器	片手	24	462	3018		
35	B	8	3087	土器	片手	24	461	2922		
36	G	2	626	土器	片手	23	2646	886		
36	H	5	1092	土器	片手	23	2861	1851		
36	G	3	4427	土器	片手	23	2632	800		
37	G	2	245	土器	片手	23	2733	635		
37	I	3	276	土器	片手	23	3376	904		
38	C	8	2344	土器	片手	24	SK010	1006	2915	
38	C	8	2354	土器	片手	24	1040	2966		
38	C	8	2360	土器	片手	24	8	3809		
39	C	8	2390	土器	片手	24	SK010	947	2858	
40	E	2	21	土器	片手	25		1720	788	
40	E	2	23	土器	片手	25		1919	441	
41	F	2	130	土器	片手	24		2223	557	
41	G	2	236	土器	片手	24		2681	688	
41	G	2	237	土器	片手	24		2686	686	
41	G	2	238	土器	片手	24		2692	683	
42	I	1	7	1510	土器	片手	21		3231	2699
43	F	2	62	土器	片手	21		2104	405	
43	F	1	556	土器	片手	21		2088	395	
44	B	8	3671	土器	片手	21		SK010	770	2908
45	C	9	3279	土器	片手	23		829	3230	
45	C	8	3893	土器	片手	23		SK010	842	3060
45	C	8	4053	土器	片手	23		1096	3113	
45	C	8	4056	土器	片手	23		1101	3108	
46	F	2	133	土器	片手	22		2223	587	
47	H	3	305	土器	片手	24		3116	867	
48	G	2	232	土器	片手	24		2643	672	
49	G	2	1573	土器	片手	24		SK027	2564	2617
49	G	7	2036	土器	片手	24		SK027	2557	2654
49	G	7	2043	土器	片手	24		SK027	2558	2614
49	G	7	2052	土器	片手	24		SK027	2533	2637
49	G	7	4739	土器	片手	24		SK027	2574	2628
50	G	2	183	土器	片手	25		2442	627	
51	E	2	23	土器	片手	25		1731	795	
51	E	9	2613	土器	片手	25		1732	805	
52	C	8	2871	土器	片手	25		SK010	880	2837
52	C	8	4203	土器	片手	25		1099	2932	
53	I	3	291	土器	片手	25		3292	847	
54	E	9	2613	土器	片手	25		1767	3285	
55				土器	片手	25				
56	G	2	235	土器	片手	25		2673	689	
57	E	2	8	土器	片手	25		1769	652	
58	C	8	2353	土器	片手	25		1041	2937	
59	U	8	2401	土器	片手	25		908	3659	
60	F	2	55	土器	片手	25		2061	422	
61	C	9	3358	土器	片手	25		1155	3311	
62	B	2	725	土器	片手	25		548	527	
62	A	5	2215	土器	片手	25		325	1689	
63	F	2	94	土器	片手	25		2061	580	
64	J	7	1362	土器	片手	25		3679	2793	
65	F	2	116	土器	片手	25		2269	439	
66	F	2	129	土器	片手	25		2227	554	
67	B	7	3789	土器	片手	25		SK010	626	2709
68	B	8	3664	土器	片手	25		SK010	725	2878
69	C	9	2687	土器	片手	25		1169	3249	
70	C	8	3753	土器	片手	25		SK010	828	2978
70	B	8	2485	土器	片手	25		SK010	645	2804
73	I	5	945	土器	片手	25		3404	1830	
74	C	8	2404	土器	片手	25		869	3644	
75	D	8	2213	土器	片手	25		1455	3149	
76	F	2	566	土器	片手	25		2224	543	
77	D	2	429	土器	片手	25		1359	710	
78	F	2	160	土器	片手	25		2355	678	
79	B	4	2174	土器	片手	25		SK010	763	1483
80				土器	片手	25				
81	G	2	192	土器	片手	24		2414	676	
82	C	7	2539	土器	片手	24		1049	2768	
83	H	2	4561	土器	片手	24		2893	689	
84	E	3	6	1385	土器	24		3522	2315	
85	G	8	1832	土器	片手	24		2574	3021	
86	G	2	210	土器	片手	24		2482	773	
87	B	7	2571	土器	片手	24		496	2365	
88	B	8	3985	土器	片手	24		SK010	785	2869
89				土器	片手	24				
90	R	8	3809	土器	片手	24		SK010	767	2832

取り上げは検討時の通し番号 土器の基種等は本文中の分類 obは黒曜石 滑石は滑石混入土器 東西・南北cmはA1グリット南面高を起点にした座標値を示す

番号	グリット	取上げ	石材等	基種等	重さg	通	構	東cm	北cm
91	I	5	949	土器	25			2458	1596
92	C	8	4048	土器	25			1053	3196
93	F	2	125	土器	25			2253	515
94	G	2	227	土器	25			2703	793
95	D	2	473	土器	25			1404	765
96				土器	25				
97	G	2	234	土器	25			2666	674
97	C	4	2065	土器	25	SK013	1173	1556	
98	C	8	4192	土器	25			1052	2950
99	B	8	4321	土器	25	SK010	2616	2938	
100	B	8	3197	土器	25	SK010	638	2906	
101	G	3	4425	土器	25			2670	802
102	F	2	147	土器	25			2286	562
103				土器	25				
104	I	5	989	土器	25			3312	1874
105	G	4	1614	土器	25			2696	1227
106				土器	25				
107	C	8	3552	土器	25	SK010	860	3015	
108	B	8	3763	土器	25	SK010	734	2884	
109				土器	25				
110	G	2	241	土器	26			2634	627
111	G	2	203	土器	26			2597	525
112	E	9	2632	土器	26			1877	3297
112	E	9	4221	土器	26			1877	3288
112	E	9	4222	土器	26			1864	3287
113	G	7	1857	土器	26			2556	2626
114	G	7	1859	土器	26			2554	2633
115	B	8	3566	土器	26	SK010	734	2920	
116	G	7	1582	土器	26	Sk027	2546	2654	
117	G	7	1568	土器	27	Sk027	2632	2705	
118	G	8	1824	土器	28			2700	2951
119	G	7	1594	土器	28	Sk027	2566	2708	
120	D	2	4251	土器	29			1523	862
121	G	7	1571	土器	30	Sk027	2612	2677	
121	G	7	1572	土器	30	Sk027	2635	2664	
122	G	8	1609	土器	30			2561	2918
123	G	7	1580	土器	30	Sk027	2583	2624	
124	G	7	1860	土器	30			2563	2623
125	I	6	1317	土器	30			3326	2144
125	G	7	1567	土器	30	Sk027	2627	2710	
126	F	6	1430	土器	30	Sk022	2156	2124	
127	G	7	4728	土器	30	Sk027	2563	2646	
128	G	7	1852	土器	30	Sk027	2604	2660	
129	H	8	1812	土器	30			2889	3005
130	G	7	1573	土器	30	SK027	2617	2619	
131	G	7	1469	土器	30	Sk027	2574	2684	
132	G	7	2047	土器	30	Sk027	2549	2638	
133	J	5	872	土器	30			3645	1718
134	F	6	1444	土器	30	Sk022	2228	2228	
135	H	6	1458	土器	30			209	2276
136	F	6	1726	土器	30	Sk022	2181	2219	
137	G	7	1862	土器	30			2554	2620
138	D	9	3451	土器	30			1344	2228
139	C	8	2992	土器	30			1127	3150
140	G	4	1115	土器	30			2493	1374
141	G	4	1627	土器	30			2707	1418
142	I	9	652	土器	30			3437	1047
143	A	7	2733	土器	30			318	2467
144	G	5	4511	土器	30			2666	1610
144	G	5	4547	土器	30			2642	1605
145	J	5	881	土器	30			3783	1918
146	G	4	1147	土器	30			2586	1585
151				土器	30	SK010	595	2867	
151	B	8	3578	土器	30			204	2
152	H	3	298	土器	30			3173	965
153	G	7	1605	土器	30			2490	2774
153	G	7	1606	土器	30			2485	2775
154	E	9	2611	土器	30			1773	3259
155	E	9	4220	土器	30			1929	3962
番号	グリット	取上げ	石材等	基種等	重さg	通	構	東cm	北cm
156	G	7			1564	土器	N1	SK027	2606
157	G	7			1644	土器	N1	SK027	2605
158	B	8			3665	土器	N2	SK019	712
158	E	8			4111	土器	N2		1982
159	G	2			243	土器	N2		2970
160	B	7			3785	土器	N2		2696
161	F	2			154	土器	N2	SK019	601
162	C	8			4672	土器	N2		2210
163	B	8			3594	土器	N2	SK019	750
164	G	7			1683	土器	N2	SK027	2614
165	F	8			4103	土器	N2		2270
166	F	2			103	土器	N2		2048
167	C	8			2348	土器	N2	SK019	996
168	C	8			2415	土器	N2		803
169	E	4			4784	土器	N2		1601
170	I	5			924	土器	N2		3443
171	B	8			2497	土器	N2		455
172	D	9			4463	土器	N2		1575
173	B	8			4686	土器	N2		650
173	B	8			4687	土器	N2		655
174	E	9			3472	土器	N2		1673
175	D	2			447	土器	N3		1279
176	D	2			448	土器	N3		1300
177	F	6			1730	土器	N3		2156
178	F	6			1443	土器	N3	SK022	2214
179	F	6			1730	土器	N3	SK022	2156
180	B	8			3792	土器	N3	SK019	752
180	B	8			3813	土器	N3	SK019	752
181									
182	F	1			46	土器	N3		2009
183	F	3			688	土器	N3		2379
184	A	2			334	土器	N3	SK004	238
185									
186	B	7			4754	土器	N4	SK019	642
186	B	8			4756	土器	N4	SK019	627
186	B	8			4756	土器	N4	SK019	618
187	B	8			3603	土器	N4	SK019	618
188	B	4			2192	土器	N4		612
188	R	4			2193	土器	N4		620
189									
190	F	2			108	土器	N4		
191	B	1			723	土器	N4	SK031	680
192	I	4			887	土器	N4		3514
193	B	8			4335	土器	N4	SK019	652
194	D	2			2320	土器	N4		1216
195	D	8			2276	土器	N4		1312
196	F	6			1442	土器	N4		2229
196	F	6			1442	土器	N4	SK022	2229
197	J	5			865	土器	N4		2012
197	J	5			992	土器	N4		1665
198	R	4			8425	土器	N4	SK019	783
199	D	2			481	土器	N4		1496
199	B	2			716	土器	N4		712
200	F	8			4102	土器	N4		2327
201	I	5			992	土器	N4		3207
202	C	8			3352	土器	N4		1878
203	H	3			297	土器	N4		3197
203	H	3			299	土器	N4		3169
203	H	3			300	土器	N4		3165
204	F	2			133	土器	N5		2223
204	F	2			132	土器	N5		567
204	F	2			566	土器	N5		2224
204	F	2			566	土器	N5		567
204	F	2			783	土器	N5		2232
204	F	2			4434	土器	N5		553
204	E	3			4526	土器	N5		1906
204	D	2			443	土器	N5		1375
204	F	2			568	土器	N5		567
204	F	2			568	土器	N5		2222

取り上げは調査時の通し番号 土器の器種等は本文中の分類 obは黒曜石 滑石は滑石混入土器 東西・南北はA1グリット南北面を起点にした座標値を示す

番号	グリット	通し番号	石材等	器種等	重さg	遺構	東西m	南北m	番号	グリット	通し番号	石材等	器種等	重さg	遺構	東西m	南北m		
205	C	8	2343	土器	NS		1043	2590	259	E	9	3338	土器	V12	滑石	1705	336		
206	C	8	2871	土器	NS	滑石	870	2837	259	E	9	3477	土器	V12	滑石	1710	337		
206	G	7	1879	土器	NS	SK027	2592	2624	260	B	2	827	土器	V12	滑石	SK004	481	788	
207				土器	NS				260	B	3	4552	土器	V12	滑石		488	804	
208	C	8	3085	土器	NS	SK010	972	2833	261	C	8	4171	土器	V12	滑石	1157	319		
209	G	2	250	土器	NS		2664	469	262	E	9	3471	土器	V12	滑石	1663	343		
210	B	8	3849	土器	NS	SK010	708	2915	263	D	8	4162	土器	V12	滑石	1218	319		
211	B	8	4306	土器	NS	SK010	738	2910	264	B	7	3882	土器	V12	滑石	SK010	738	275	
212	B	8	3868	土器	NS	SK010	665	2825	265	D	9	4460	土器	V12	滑石	1542	327		
213	C	7	2544	土器	NS		915	2782	266	G	4	1257	土器	V12	滑石	2625	1550		
214	E	8	1965	土器	NS		1945	2986	267	F	2	4443	土器	V12	滑石	2350	613		
215	E	8	1985	土器	NS		1713	2822	268	B	2	714	土器	V12	滑石	SK031	713	509	
216	E	8	1758	土器	NS		1988	3044	269	C	8	2954	土器	V12	滑石	954	303		
217	E	8	1964	土器	NS		1964	2944	270	C	8	3981	土器	V12	滑石	SK010	916	299	
218	I	5	991	土器	NS		3227	1872	271	E	3	735	土器	V12	滑石	1724	112		
218	I	5	992	土器	NS		3207	1878	272	B	3	2127	土器	V13	滑石	SK004	814	822	
218	I	5	992	土器	NS		3207	1878	273	B	2	382	土器	V12		771	606		
219	F	2	521	土器	NS		2134	413	274	C	8	2973	土器	V11	滑石	920	2120		
220	D	9	2462	土器	NS		1469	3277	274	C	8	4277	土器	V11	滑石	925	317		
221	B	8	3041	土器	NS	滑石	1608	2913	275	C	8	2426	土器	V11	滑石	936	310		
222	B	7	2564	土器	NS	SK010	539	2758	276	D	9	2469	土器	V11	滑石	1281	3294		
223	B	2	716	土器	NS	SK031	712	528	276	I	3	293	土器	V11	滑石	3266	627		
223	D	1	456	土器	NS		1346	389	276	I	3	294	土器	V11	滑石	3286	824		
224			2895	土器	NS				277	D	9	3210	土器	V11	滑石	3365	3239		
224	C	9	3260	土器	NS		1672	3225	277	D	9	3455	土器	V11	滑石	1338	3245		
224	C	9	3268	土器	NS		1639	3232	278				土器	V11	滑石				
224	C	8	4181	土器	NS		1672	3133	279	H	5	1074	土器	V11	滑石	3180	197		
224	C	9	4701	土器	NS		1667	3225	279	H	5	4534	土器	V11	滑石	3182	196		
225	D	9	3448	土器	NS		1420	3246	280	E	5	4519	土器	V11	滑石	1992	1415		
226	B	8	3157	土器	NS	SK010	607	2855	281	H	4	1001	土器	V11	滑石	3134	1282		
227	C	8	4193	土器	NS		1671	2947	281	H	4	1002	土器	V11	滑石	3140	1290		
228	D	9	4121	土器	NS		1630	3207	282	D	9	4708	土器	V11	滑石	1267	3219		
229	B	8	3502	土器	NS	SK010	609	2876	283	C	9	4166	土器	V11	滑石	1160	3235		
230	B	8	3674	土器	NS	SK010	760	2958	284	D	9	2659	土器	V11	滑石	1240	3238		
231	B	8	3161	土器	NS	SK010	764	2982	284	D	9	3454	土器	V11	滑石	1338	3237		
232	B	8	3963	土器	NS	SK010	730	2942	285	I	3	3215	土器	V11	滑石	1357	3270		
233				土器	NS	滑石			286	C	8	2359	土器	V12	滑石	1077	3005		
234	C	7	2533	土器	NS	滑石	1110	2680	286	C	8	4271	土器	V12	滑石	1054	2048		
235	F	8	1958	土器	V		2629	3165	287	D	9	4471	土器	V12	滑石	1465	2420		
236	B	2	366	土器	V	SK031	556	418	288	C	8	3841	土器	V12	滑石	SK010	809	2966	
237	G	2	4418	土器	V		2408	788	289	J	6	1340	土器	V11	滑石	3832	2145		
238	C	8	2356	土器	V		1675	2944	290	D	6	2900	土器	V12	滑石	412	2134		
239	A	2	337	土器	V		219	549	291	I	6	1369	土器	V12	滑石	3228	2280		
240	H	3	314	土器	V1	滑石	2839	929	292	D	8	2116	土器	V12	滑石	1210	3128		
240	H	3	645	土器	V1	滑石	2854	882	293	G	4	1107	土器	V12	滑石	2599	1300		
241	H	3	322	土器	V1	滑石	2854	808	294	B	8	2465	土器	V12	滑石	1770	3084		
242	D	8	2296	土器	V1	滑石	1363	3142	295	E	9	4231	土器	V12	滑石	1704	3462		
243	D	8	506	土器	V1	滑石	1245	906	296	E	9	2404	土器	V12	滑石	1731	3235		
244	D	8	2296	土器	V1	滑石	1363	3142	297	D	8	2293	土器	V12	滑石	1381	3132		
245	D	8	4669	土器	V1	滑石	1212	3113	298	C	8	3892	土器	V12	滑石	SK010	827	2994	
246	C	2	420	土器	V1	滑石	987	614	299	D	9	3237	土器	V12	滑石	1256	3250		
247	B	7	3703	土器	V1	滑石	SK010	595	2716	309	E	8	2001	土器	V12	滑石	1763	2015	
248	D	4	2656	土器	V1	滑石	1332	3116	301	D	8	4123	土器	V12	滑石	1537	3121		
249	B	8	3795	土器	V1	滑石	685	2873	302	B	4	2186	土器	V13	滑石	646	1443		
250	C	8	4270	土器	V1	滑石	1083	3023	303	B	8	3814	土器	V13	滑石	SK010	675	2847	
251	D	8	2270	土器	V1	滑石	1453	3156	304	E	2	11	土器	V13	滑石	1723	682		
252	A	6	2720	土器	V1	滑石	266	2375	304	E	2	16	土器	V13	滑石	1727	729		
253	B	8	5972	土器	V1	滑石	SK010	760	2852	305				土器	V13	滑石			
254	C	8	2386	土器	V1	滑石	SK010	831	2979	306				土器	V13	滑石			
254	C	8	2386	土器	V1	滑石	SK010	831	2979	307	C	8	2336	土器	V11	滑石	1192	3130	
254	C	8	2412	土器	V1	滑石	SK010	815	3029	308	C	8	2390	土器	V11	滑石	SK010	850	309
255	E	9	3479	土器	V1	滑石	1732	3296	309	A	6	2714	土器	V11	滑石	310	2335		
256	B	8	3666	土器	V1	滑石	SK010	767	2909	310	F	6	1431	土器	V11	滑石	SK022	2204	2124
257	D	8	2270	土器	V1	滑石	1453	3156	311	D	3	514	土器	V11	滑石	1428	1068		
258	D	9	3449	土器	V2	滑石	1432	3248	312				土器	V2					
258	D	8	3679	土器	V2	滑石	1431	3132	313	A	1	339	土器	V2			228	393	
258	D	8	4212	土器	V2	滑石	1487	3008	314	D	2	483	土器	V2			1465	739	
258	D	8	4213	土器	V2	滑石	1495	3030	315	D	8	2318	土器	V2	滑石	1259	3104		
258	D	8	4215	土器	V2	滑石	1483	3051	316	D	9	4474	土器	V2	滑石	1378	3245		

取り上げは調査時の通し番号 土器の器種等は本文中の分類 obは黒曜石 滑石は滑石混入土器 東西・南北cmはA1グリット南西端を起点にした座標値を示す

取り上げは調査時の通し番号 土器の器種等は本文中の分類 obは黒曜石 滑石は滑石混入土器 東西・南北時はA1グリット南北西海を起点にした座標値を示す

番号	グリット	取り上げ	石材等	器種等	重さg	遺構	施設	地図	北緯	
451	D	7	2517	ob	石瓶	0.45		1309	2621	
452	I	8	4573	ob	石瓶	0.89		3382	2839	
453	B	8	2466	ob	石瓶	0.41	SK010	695	2830	
454	E	8	2767	ob	石瓶	0.37	SK010	528	2848	
455	B	8	2483	ob	石瓶	0.26		667	3047	
456	E	4	1174	ob	石瓶	0.62		1875	1519	
457	B	8	3099	ob	石瓶	0.18		678	3040	
458	A	2	230	ob	石瓶	2.82	SK004	324	780	
459	E	8	4457	ob	石瓶	0.98		1742	3117	
460	F	2	156	ob	石瓶	0.2		223	738	
461	G	7	1893	ob	石瓶	0.18	SK027	2639	2750	
462	H	3	201	ob	石瓶	0.6		3167	871	
463	-	-	ob	石瓶	0.9					
464	J	5	866	ob	石瓶	0.55		3665	1687	
465	E	4	1180	ob	石瓶	0.5		1706	1514	
466	-	-	ob	石瓶	0.68					
467	D	5	1781	ob	石瓶	0.77		1540	1683	
468	D	2	426	ob	石瓶	0.87		1236	630	
469	B	8	2987	ob	石瓶	0.9	SK010	783	2923	
470	C	4	2690	ob	石瓶	3.26	SK013	1157	1666	
471	-	-	ob	石瓶	0.67					
472	F	4	1207	ob	石瓶未製品	0.79		2276	1484	
473	J	6	1334	ob	石瓶未製品	1.31		2656	2828	
474	B	8	2457	ob	石瓶未製品	0.69	SK010	728	2964	
475	A	2	336	ob	石瓶未製品	3.82	SK004	355	580	
476	-	-	ob	石瓶未製品	0.53					
477	-	-	安山岩	石瓶	0.35					
478	D	3	520	安山岩	石瓶	0.46		1234	1192	
479	D	4	1772	安山岩	石瓶	0.38		1396	1529	
480	-	-	安山岩	石瓶	0.35					
481	C	1	400	安山岩	石瓶	1.4		1073	202	
482	G	8	1846	安山岩	石瓶	1.54		2481	3140	
483	-	-	安山岩	石瓶	1.59					
484	E	8	4111	安山岩	石瓶	3.03		1982	2970	
485	-	-	安山岩	石瓶	1.32	SK021				
486	B	1	-	安山岩	石瓶	1.06	SK001			
487	F	2	72	安山岩	石瓶	1.38		2166	518	
488	-	-	安山岩	石瓶	1.47					
489	G	6	1464	安山岩	石瓶	0.73		2691	2260	
490	-	-	安山岩	石瓶	0.32					
491	C	3	2106	安山岩	石瓶	0.5		834	1157	
492	I	4	1241	安山岩	石瓶	0.41		3540	1490	
493	H	5	1661	安山岩	石瓶	0.41		3041	1678	
494	B	8	3170	安山岩	石瓶	0.32	SK010	629	2833	
495	F	6	1454	安山岩	石瓶	0.34		2303	2382	
496	G	7	1604	安山岩	石瓶	0.41		2522	2787	
497	C	8	2367	安山岩	石瓶	1.24		1097	3042	
498	C	7	2529	安山岩	石瓶	1.09		1086	2604	
499	-	-	安山岩	石瓶	0.97					
500	G	5	1243	安山岩	石瓶	2.66		2751	1752	
501	E	2	385	安山岩	石瓶	1.59		725	775	
502	C	9	4495	安山岩	石瓶	1.05		1682	3216	
503	E	6	-	安山岩	石瓶	2.43	SK021			
504	H	6	1289	安山岩	石瓶	2.39		2940	2161	
505	-	-	安山岩	石瓶	1.56					
506	H	7	1549	安山岩	石瓶	1.73		2881	2786	
507	-	-	安山岩	石瓶	2.09					
508	B	1	-	安山岩	石瓶	3.24	SK001			
509	G	4	1133	安山岩	石瓶	1.24		2490	1485	
510	G	4	1021	安山岩	石瓶	4.22		2630	1355	
511	C	8	2975	安山岩	石瓶	3.17		816	3050	
512	E	4	1181	安山岩	石瓶	1.92		1714	1593	
513	C	7	-	安山岩	石瓶	1.92	SK010			
514	G	8	1830	安山岩	石瓶	1.4		2577	3085	
515	C	8	2344	安山岩	石瓶	45.78				
516	D	3	510	安山岩	石瓶	12.98		1351	922	
517	-	-	安山岩	石瓶	4.90					
518	E	1	-	安山岩	石瓶	6.23	SK001	556	853	
519	E	7	2465	安山岩	石瓶	5.56	SK010	714	2652	
520	E	9	3232	安山岩	石瓶	14.51			1603	3265
521	B	7	3724	安山岩	石瓶	26.80	SK010	629	2694	
522	H	4	1008	安山岩	剪器	36.38			3024	1360
523	H	3	302	安山岩	U型	53.79			3176	840
524	G	2	789	安山岩	剪器	2.84			2568	545
525	G	7	1612	安山岩	剪器	2.75			2473	2500
526	D	4	2064	安山岩	剪器	36.81	SK013	1218	1327	
527	G	4	1106	安山岩	剪器	26.9			2526	1397
528	B	8	3123	安山岩	剪器	94.34	SK010	754	2915	
529	F	8	1924	安山岩	剪器	71.40			2318	2949
530	B	8	2461	安山岩	剪器	1.49	SK010	679	2998	
531	-	-	ob	剪器	1.55					
532	B	7	3776	ob	剪器	0.83	SK010	594	2769	
533	F	3	682	ob	剪器	1.31			2209	853
534	B	7	2581	ob	剪器	1.13			471	2476
535	B	8	3973	ob	剪器	6.84	SK010	704	2842	
536	I	5	4501	ob	剪器	3.98			3464	1618
537	F	2	4750	安山岩	剪器	13.26			2388	511
538	-	-	剪器	剪器	21.95	SK0017				
539	C	8	2974	ob	剪器	13.76			1060	2083
540	G	7	1608	安山岩	剪器	16.87			2424	2737
541	F	2	781	安山岩	剪器	9.83			2344	576
542	G	3	630	安山岩	剪器	12.08			2618	809
543	D	9	2869	安山岩	剪器	66.47			1374	3376
544	E	8	4459	安山岩	剪器	39.59			1718	2181
545	D	3	517	ob	曲	1.72			1274	1123
546	D	9	4712	ob	曲	2.72			1397	2222
547	I	5	984	安山岩	曲	1.13			3229	1774
548	B	8	3156	ob	曲	0.58	SK010	624	2647	
549	E	3	676	ob	曲	0.71			1966	865
550	G	2	588	ob	曲	0.56			2428	519
551	B	7	2679	安山岩	曲	1.5			506	2460
552	D	4	1752	安山岩	曲	0.83	SK013	1329	1384	
553	G	2	191	安山岩	曲	3.09			2404	641
554	H	6	1470	安山岩	曲	0.72			3094	2370
555	D	2	813	安山岩	曲	0.55			1344	482
556	C	7	3422	ob	曲	1.24	SK010	818	2795	
557	D	2	476	安山岩	曲	29.91			1422	785
558	J	7	1352	ob	UF	4.61			3728	2576
559	G	7	2937	ob	UF	1.51	SK027	2546	2634	
560	D	9	4114	ob	UF	0.87			1558	3280
561	I	4	924	ob	UF	1.87			3205	1594
562	D	8	4653	ob	被片	4.01			1213	3144
563	B	8	2477	ob	ゴマ	21.39			628	3160
564	B	7	3702	ob	ゴマ	12.6	SK010	647	2784	
565	D	2	446	石斧	石斧	171			1269	485
566	C	9	2493	鉈	石斧	150				
567	C	9	2493	鉈	石斧	182			1067	3242
568	I	6	1479	鉈	石斧	109			3365	2380
569	G	8	4594	鉈	石斧	36			2566	2812
570	D	9	3205	眞君	石斧	49			1421	3414
571	E	8	1973	玄武岩	石斧	72			1856	2128
572	-	-	石斧	石斧	161					
573	D	2	444	眞君	磨石	92			1387	540
574	F	8	1937	玄武岩	磨石	616			2294	2986
575	F	6	1439	玄武岩	磨石	279	SK022	2230	2173	
576	G	2	229	玄武岩	磨石	575			2607	730
577	E	7	2016	玄武岩	磨石	426			1822	2764
578	G	8	1826	玄武岩	磨石	673			2635	2990
579	I	4	914	眞君	磨石	546			3357	1444
580	F	8	2848	片吉	磨石	159			2302	3027
581	F	2	216	眞君	磨石	742				
582	C	4	4092	ob	磨石	247			1184	1534

V. おわりに

今回の調査では旧石器時代から縄文時代早期、前期、中期から晩期、中世の遺構遺物を検出した。ここでは、報告した内容を振り返って若干の位置づけを行っておきたい。

旧石器時代については、すでに包括的な位置づけが述べられているので、そちらを参照されたい。

早期は後半の遺物が少量であるが出土した。その中で、手向山式土器（31）はこの地域で例が少なく注目される。集石炉 S X 037は、早期とされるものに類似するが、遺物が出土しておらず決定できない。

遺物のほとんどを占める縄文時代は、土器では前期の轟B式、曾畠式とその中間土器群を主体とする。II類とした隆帯土器が轟B式から中間土器群、III類、IV-6類までが中間土器群、VII類までが曾畠式と大まかに捉えられよう。ここでFig. 15の各類の分布図を見てみたい。II、IV、VII類は全域に分布するが。II類は北側のF G 2とB C 7・8に集中部をもち、F G 2で大きな破片が出土し接合例が多いのに対し、IV、VII類はF G 2ではやや散漫で、VI類ではほとんど分布していない。明確ではないが、時期的な分布の違いが見られる。II類は両方の集中部に分布し、その中に時期差が表れていると考えられるが今回行った分類では刻み目を持ったII-6、7、8のほとんどが南側に分布する以外は有意な差は見られなかった。また、どちらの集中部にもあまり属さない刺突文III類は、特徴的な分布を示した。以上、一括性と言う点では良好な遺物群ではないが、その中で出土状態から時期差の一端をかいま見ることができたのではないかと考える。遺物分布についても個々のものについて詳細な検討はできなかった。今後、さらに深めたい。

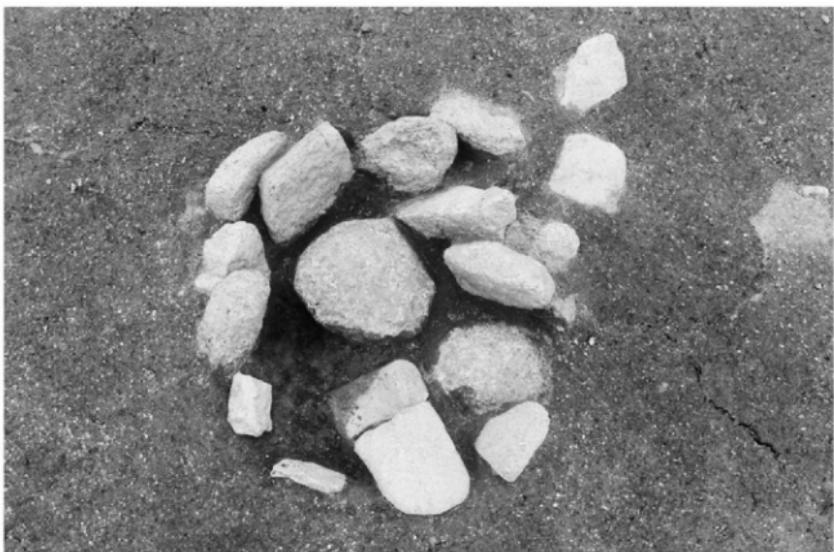
石器はそれ自体で時期を決めがたいが、一部早期等を含んではいるものの、前期のものが大半を占めると考えて良いだろう。器種では石匙、蛇紋岩製磨製石斧など前期を特徴づける石器も出土している。また、搔器は刃部の角度が浅くなり、器種として暖昧なものが多くなる。その反面、安山岩製の削器が刃器としての比率を増す。礫石器では磨石・敲石としたものが、石器としての認定の問題も残るが、一つの特徴的な器種と考える。轟B式から曾畠式と時間幅がある資料ではあるが、この地での前期の石器組成を大まかではあるが示している。今後、平野部、他地域との比較により遺跡における生業または性格を検討する必要がある。

遺跡としてみると、明確な遺構がないため、その性格を判断しがたい。斜面の傾斜が緩やかな部分に小規模な集落と言うよりキャンプ地に近い生活域を築いていたものと考えられる。それでも、各時代に、また前期には頻度を増してこの地を行き来していたことが想像され、交通の要所としての立地がその要因としてあげられよう。谷筋を通り脇山側からたどると通りやすい場所であり、地形の変換点の緩傾斜の土地がしばらくの滞在の場として選択されたのであろうか。今後周辺のある程度まとまった資料が出土している野中遺跡、四箇遺跡、柏原遺跡等との比較を行う必要がある。

中世の可能性がある遺構は焼土坑のみである。覆土には耕作土らしい層はなく、水田が造営される以前の所産と考えられる。試掘調査においても中世以降の遺構は検出されておらず、現在の集落と同じ位置に集落が營まれていたのではないかと考えられる。また、試掘調査では、水田地盤の切り盛りを行い、田面の拡張の痕跡を確認している。今日の石垣で段造成された景観は、そのような作業の繰り返しによる事を改めて知ることができる。



(1)調査区全景（北東から）



(2) SX032（北から）



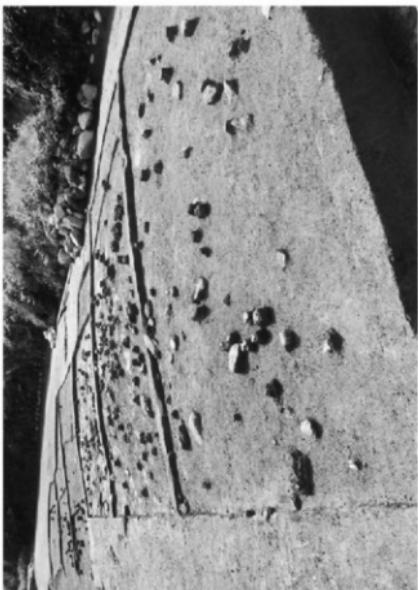
(3) 調査区全景 (東から)



(5) SK001 (西)



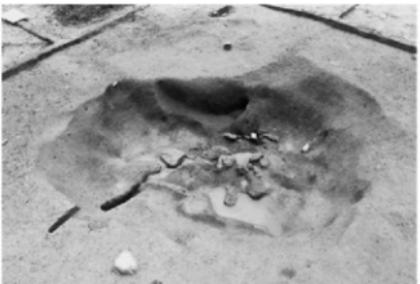
(6) SK027 (北東から)



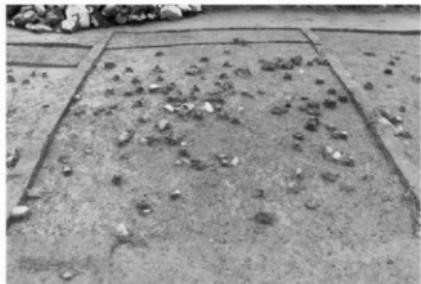
(4) EFG Z道物集中部 (西から)



(7) D 東壁土層（南から）



(11) SK010（南西から）



(8) F2 遺物集中部（北から）



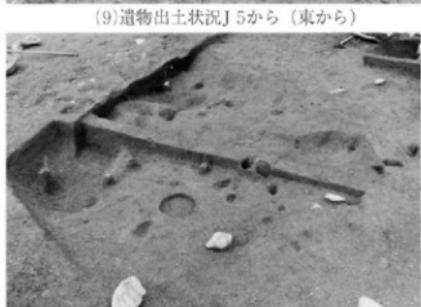
(12) SK010 調査風景（南から）



(9) 遺物出土状況』5から（東から）



(13) SK010 土層（東から）



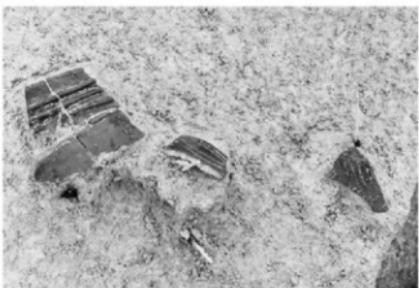
(10) SK004（北西から）



(14) SK013（南西から）



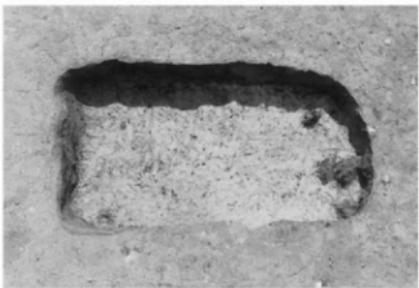
(15) SX032 上部疊 (南から)



(19) 土器68、158、256出土状況 SK010 (南から)



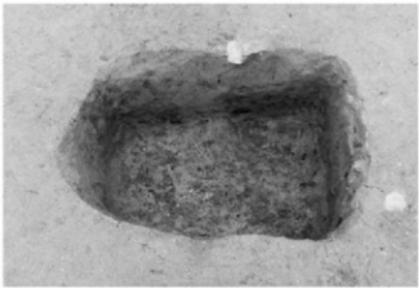
(16) CD 8・9 グリット付近 (南東から)



(20) SK012 (東から)



(17) 土器33出土状況 G 2 (西から)



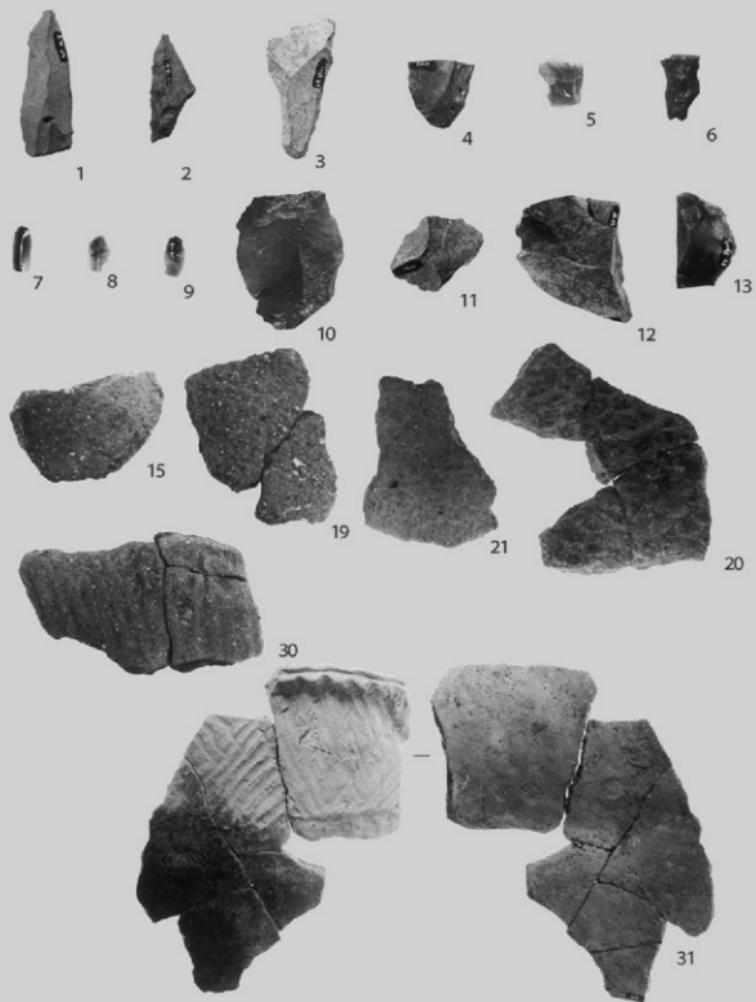
(21) SK011 (南西から)



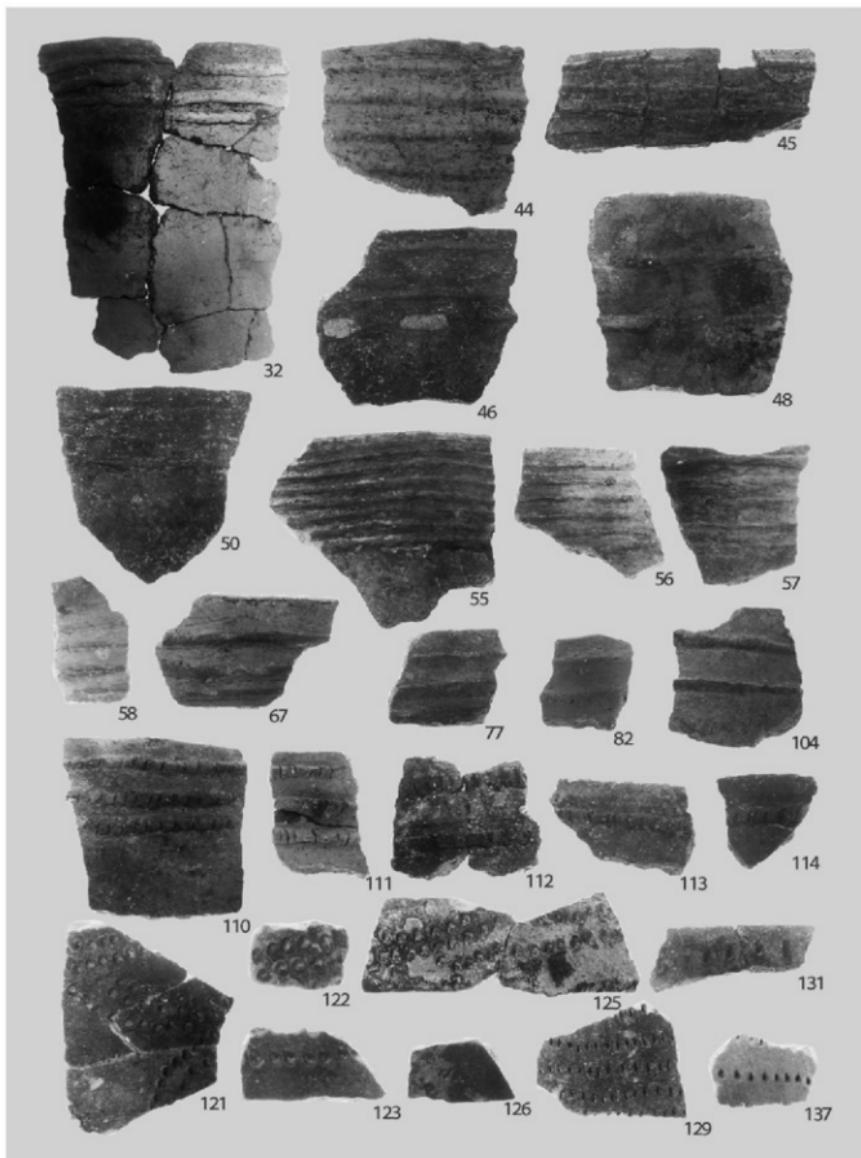
(18) 土器31出土状況 E 3 (南東から)



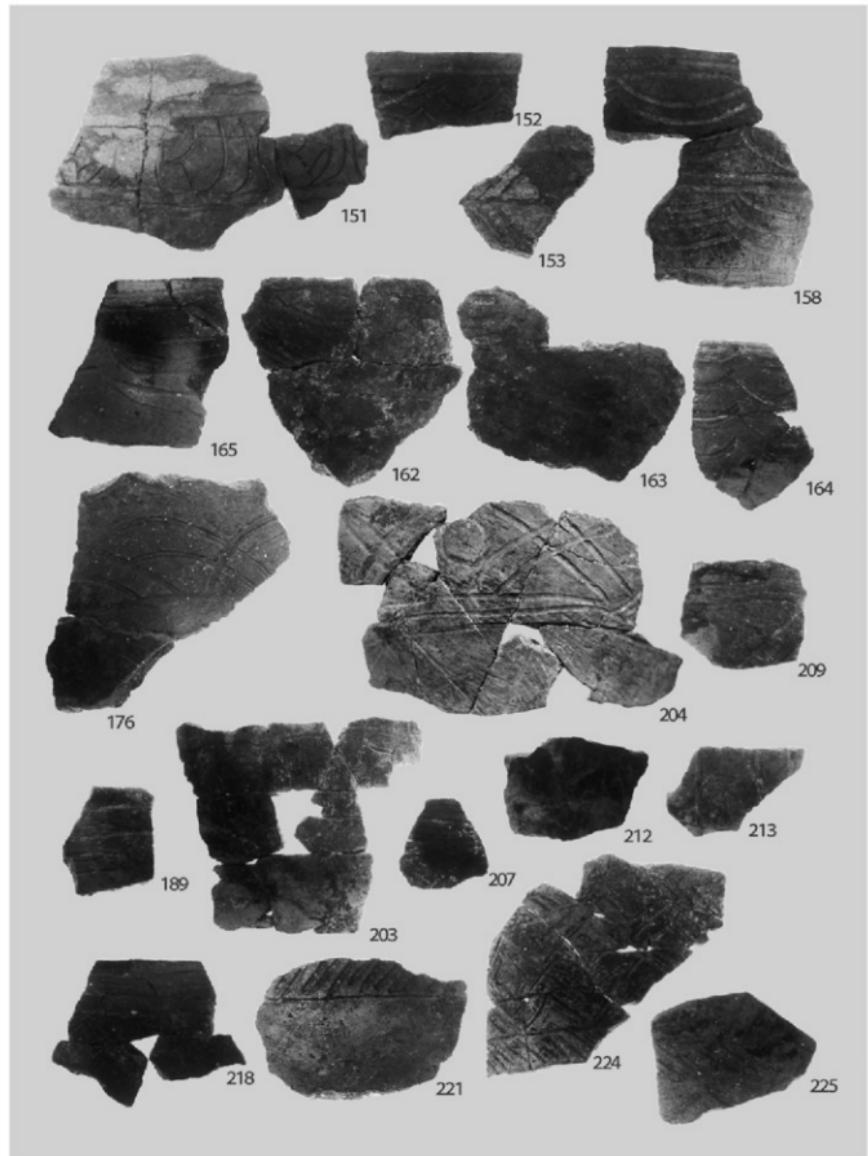
(22) SK011 (南西から)



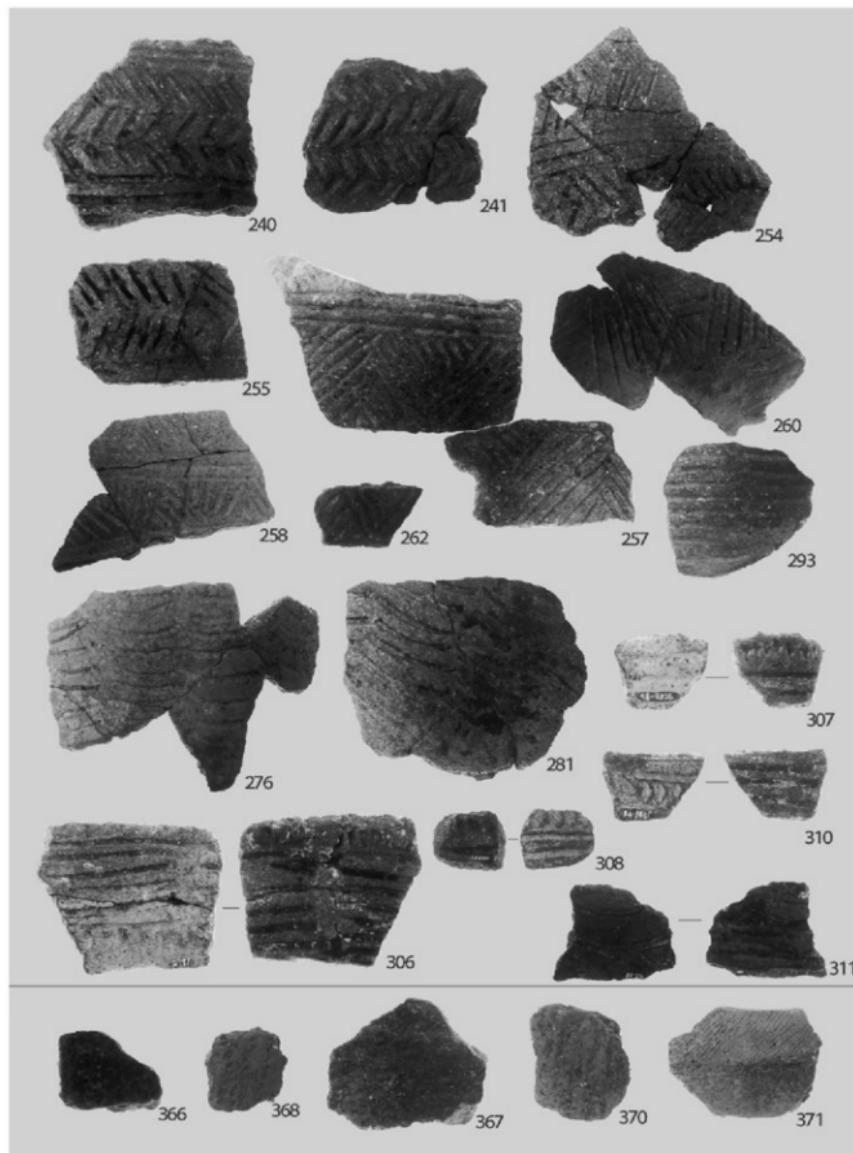
(23)旧石器、土器Ⅰ類



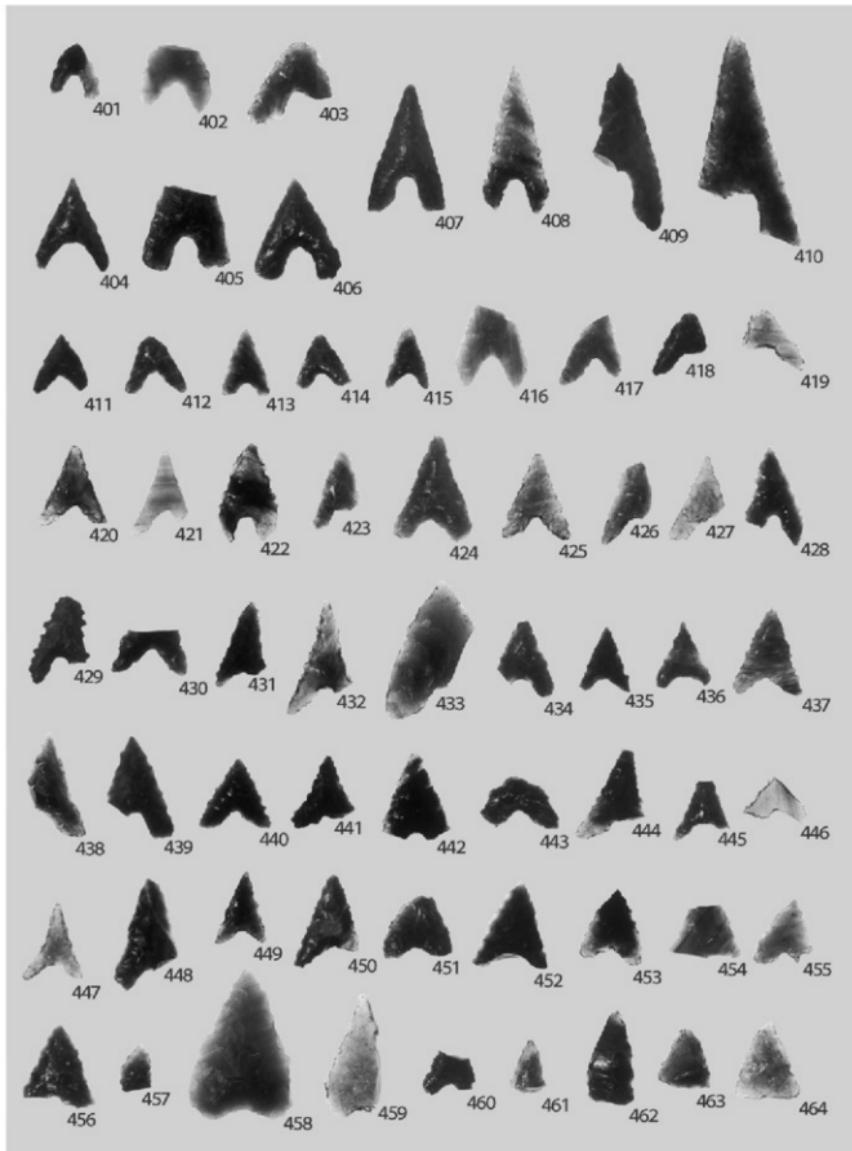
(24) 土器 II・III類



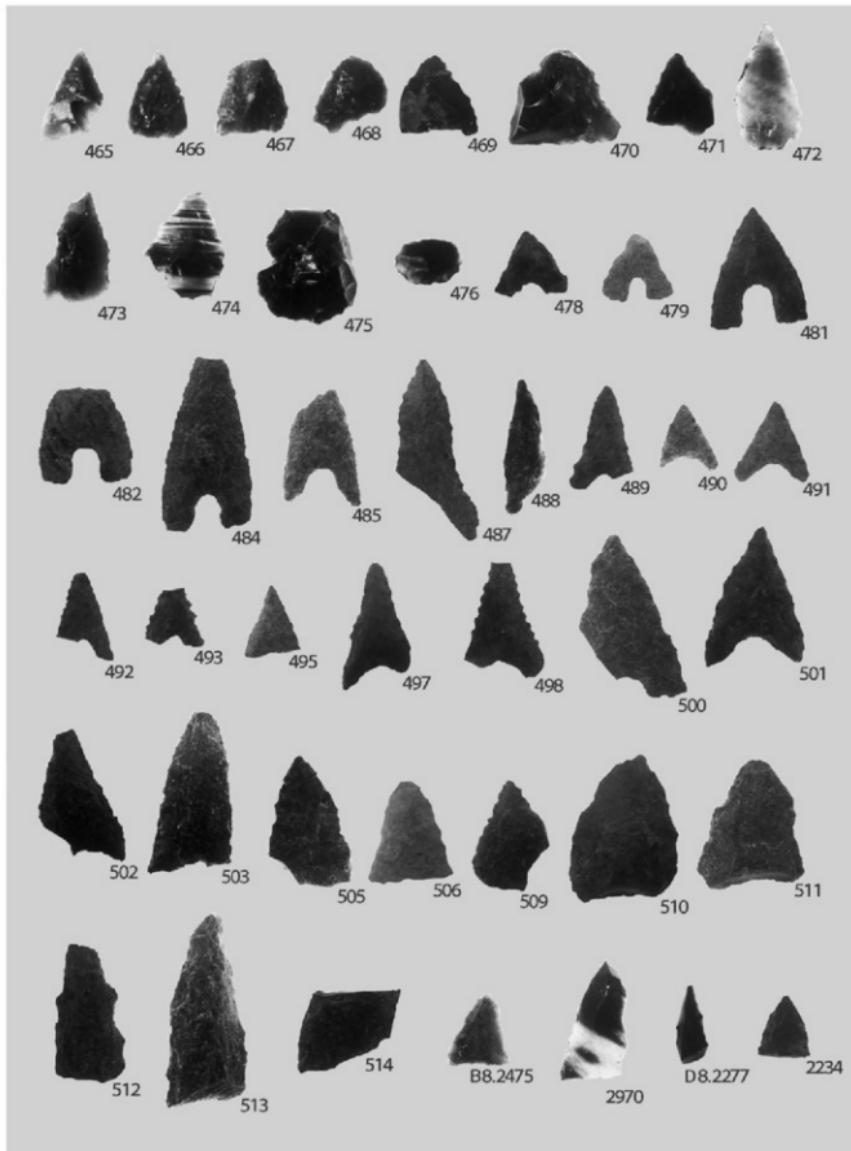
(25) 土器Ⅳ類



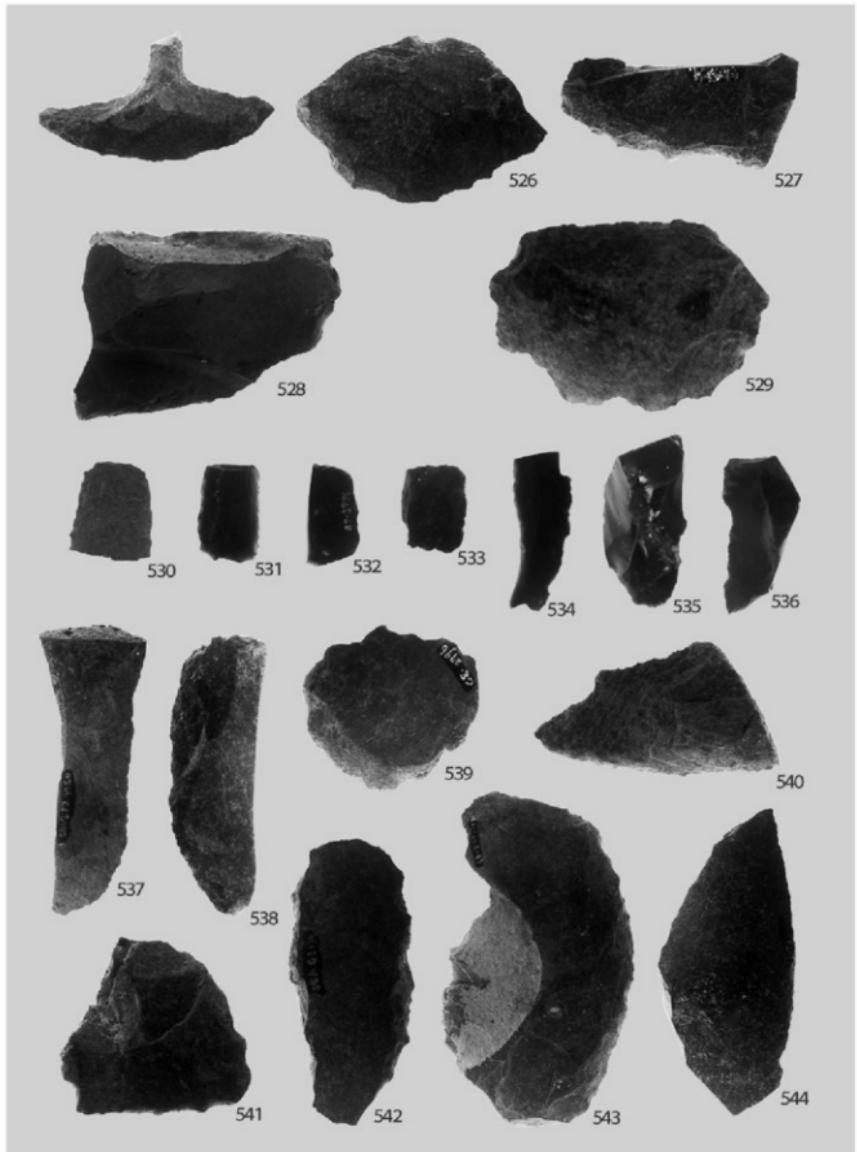
(26) 土器VI・VII・XIII-1類



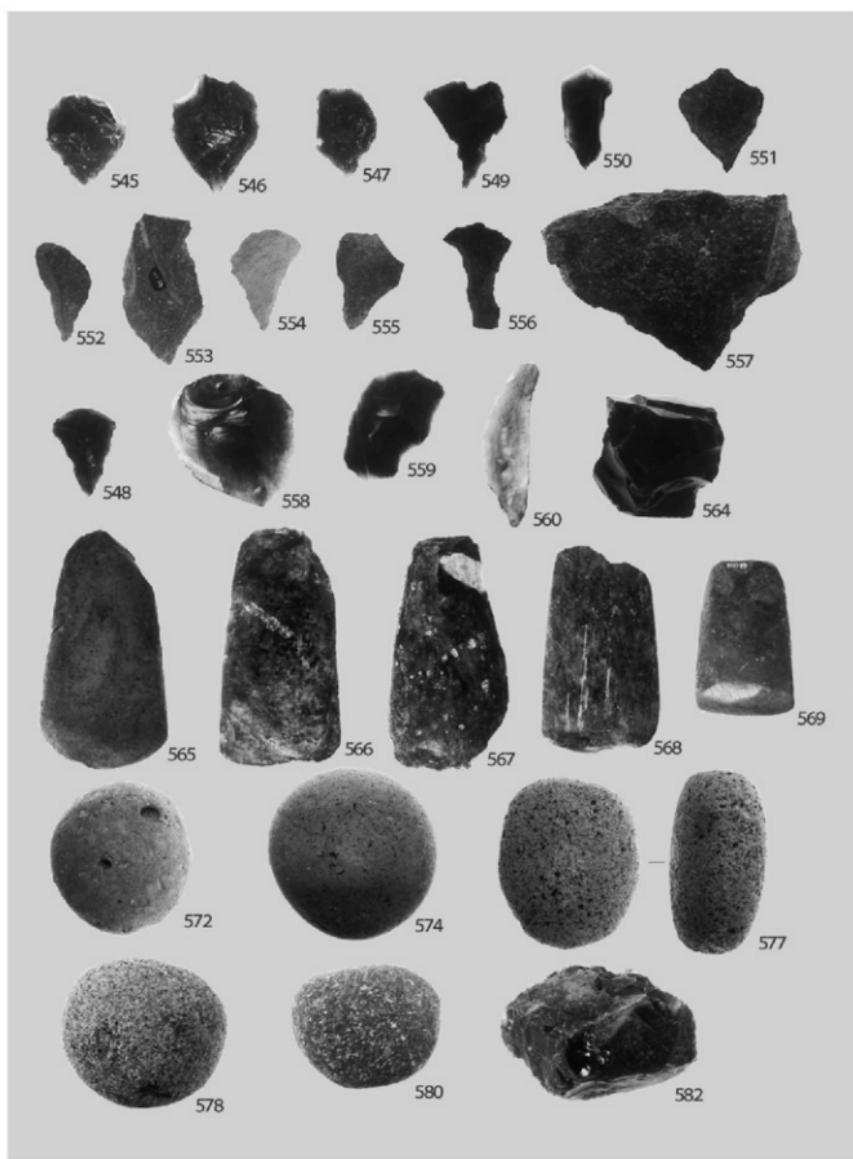
(27) 石鏃 1 (約1/1)



(28)石鏃2 (約1／1)



(29) 削器・搔器



(30)錐・U.F.・コア・石斧・磨石敲石・原石

書名ふりがな しいばえいいせき
書名 椎原A遺跡
副書名
卷次
シリーズ名 福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号 794
編著者名 吉宿秀敏／池田祐司
編集機関 福岡市教育委員会
発行機関 福岡市教育委員会
発行年月日 20040331
作成法人ID 40137
郵便番号 810-8621 電話番号 092-711-4667
住所 福岡市中央区天神1-8-1
遺跡名ふりがな しいばえいいせき
遺跡名 椎原A遺跡
所在地ふりがな ふくおかしさわらくしいば
遺跡所在地 福岡市早良区大字椎原656、658-1番
市町村コード 40137 遺跡番号 0785
北緯 33°28'7" (世界測地系)
東經 130°21'16"
調査期間 20020412 - 20040726
調査面積 1162
調査原因 設場整備
種別 散布地
主な時代 旧石器/縄文
遺跡概要 散布地-旧石器-ナイフ形石器+台形石器+細石刃/散
布地-縄文-集石1-土坑4-轟B式系土器群-曾畠式
土器群+石礫+石甕+磨製石斧/中世-焼土坑2+土師
皿+青磁+白磁

特記事項

椎原A遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第794集

2004年(平成16年)3月31日

発行福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号
(092) 711-4667

印刷下川印刷有限会社

福岡市東区郷口町8番27号
(092) 623-5751
